

**ボスニア・ヘルツェゴビナ
貧困プロフィール調査（欧州地域）**

最終報告書

**平成 22 年 10 月
（2010 年）**

**独立行政法人
国際協力機構（JICA）**

OPMAC 株式会社

貧困指標

Region (*)	Country	Basic data					
		Year	Population, total (millions)	Population growth (annual %)	GDP, PPP (constant 2007 international \$) (billions)	GDP per capita, PPP (constant 2007 international \$)	GDP growth (annual %)
ME	Bosnia and Herzegovina	2007	3.8	-0.1	29.3	7,764	11.2

(出所) United Nations Development Programme, "Human Development Report 2009" (2009)

(注) * AF: Africa, Ap: Asia and Pacific, CLA: Central and Latin America, ME: Middle-east and Europe

Poverty							Inequality	
Poverty incidence (%)			Poverty Gap Index at \$1.25	Poverty Gap Index (National)	Source	Survey year	Gini index	Year
National	Rural	Urban						
14.4	17.78	8.23	<0.5*	4.9	Household Budget Survey 2007	2007	33.3**	2007

(出所) BIHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, "HBS 2007 Poverty and living Conditions" (2007)

(注) * 国際貧困ライン (1.25 ドル) による貧困ギャップのデータは、2004 年による。(World Bank, "World Development Indicator 2010" (2010))

** World Bank, "Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update" (2009)

Remarks (Areas, populations & social groups considered to be vulnerable and Gini index disadvantageous)
特になし

全国地图



社会指標マップ

ボスニア・ヘルツェゴビナ国では、1991年より国勢調査が行われていないため、正確な人口分布が把握されていない。そのため一章以下の地域別の統計分析は全て推計に基づくものである。今後、精度の高い地域別の統計分析を行うためには、国勢調査を実施する必要がある。また、2009年度貧困プロファイル調査として同時に実施した各国では地域別の社会指標マップを作成したが、ボスニア・ヘルツェゴビナ国では行政界のデジタルマップが入手困難であり、社会指標マップの作成を断念した。

目 次

貧困指標	
全国地図	
社会指標マップ	
目次	
略語一覧	
「貧困とは」	

第 1 章 所得貧困による分析.....	1
1.1 所得貧困の測定.....	1
1.1.1 貧困分析に使用するデータ.....	1
1.1.2 貧困ライン.....	2
1.2 貧困ラインに基づく貧困分析.....	4
1.2.1 国レベルでの貧困状況.....	4
1.2.2 都市・農村部における貧困状況.....	7
1.2.3 社会経済的特徴による貧困状況.....	9
1.3 不平等指標.....	12
第 2 章 所得貧困以外の方法による分析.....	15
2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団.....	15
2.2 脆弱性分析.....	16
2.2.1 人間社会的排除指数（HSEI：Human Social Exclusion Index）.....	16
2.2.2 人間開発指数および人間貧困指数.....	17
2.2.3 脆弱性とネットワーク貧困（Network Poverty）.....	18
第 3 章 貧困に影響を与えている要因.....	21
3.1 国内要因.....	21
3.1.1 国家開発政策と公共支出.....	21
3.1.2 産業構造と雇用.....	23
3.1.3 紛争後社会の後遺症.....	25
3.2 地政学的要因.....	26
3.2.1 国外避難民（Refugee）と国内避難民（IDPs：Internal Displaced Persons）.....	26
3.3 グローバル化における要因.....	27
3.3.1 世界経済危機の影響.....	27
3.3.2 出稼ぎ労働と海外送金.....	28
3.3.3 EU 統合.....	30

第 4 章	社会保障メカニズム	31
4.1	公的保障	31
4.1.1	年金と障害者年金	32
4.1.2	失業給付制度	36
4.1.3	健康保険制度	38
4.1.4	社会扶助	40
4.1.5	児童保護手当	45
4.1.6	退役軍人給付	47
4.1.7	非拠出制社会扶助の被覆率とターゲティング	49
4.2	準公的保障	50
4.3	インフォーマルな保障	50
第 5 章	貧困削減のモニタリング	51
5.1	ミレニアム開発目標 (MDGs : Millennium Development Goals) の達成状況	51
5.1.1	MDG 1 : 極度の貧困と飢えの撲滅	51
5.1.2	MDG 2 : 初等教育完全普及の達成	52
5.1.3	MDG 3 : ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	52
5.1.4	MDG 4 : 幼児死亡率の削減	52
5.1.5	MDG 5 : 妊産婦の健康の改善	53
5.1.6	MDG 6 : HIV/AIDS、マラリア、その他の病気の撲滅	53
5.1.7	MDG 7 : 環境の持続可能性の確保	53
5.1.8	MDG 8 : 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進	53
5.2	貧困モニタリングのシステム	57
5.2.1	MDG のモニタリング方法	57
5.2.2	データ収集システム	57

別添

別添 1 : 貧困・不平等指標の解説

別添 2 : BiH 統計庁の貧困ライン

添付資料

- (1) 主要な政策文書一覧と入手先
- (2) 主要な統計調査一覧
- (3) 主要なマイクロファイナンス機関一覧
- (4) 主要な NGO・市民社会組織一覧
- (5) 主要な現地調査研究機関とその活動
- (6) 参考文献・Web

図表目次

【図】

図 1-1：相対貧困人口および世帯数（2007年）	5
図 3-1：BiH の行政機構.....	22
図 3-2：BiH への全少数民族帰還民（1996年～2007年12月）	27
図 3-3：西バルカン諸国における GDP に占める海外送金の割合（%）	28
図 4-1：消費階層間の年金給付の分配状況	35
図 4-2：消費階層間の社会扶助給付の分配状況	42
図 4-3：RS における社会給付受給者当り平均支出（2006年）	43
図 4-4：消費階層間の児童手当給付の分配状況	46

【表】

表 1-1：貧困ライン	3
表 1-2：相対貧困ラインによる貧困者比率（個人）	4
表 1-3：相対貧困指標（世帯、2007年）	4
表 1-4：貧困者比率（LSMS および HBS）	6
表 1-5：貧困人口の分布（HBS）	6
表 1-6：GPL 3 による貧困指標（HBS 2007）	7
表 1-7：都市・農村部における貧困人口の分布	7
表 1-8：地域別貧困者比率の変化とその要因	8
表 1-9：地域別貧困指標（HBS 2007）	8
表 1-10：教育水準による貧困者比率と貧困人口に占める割合.....	9
表 1-11：GLP3 に基づく教育水準による貧困者比率（HBS 2007）	10
表 1-12：就労状況による貧困者比率	10
表 1-13：地域別就労状況による貧困者比率（HBS 2007）	11
表 1-14：産業別貧困者比率（HBS 2007）	12
表 1-15：BiH の不平等状況（2004年、2007年）	13
表 1-16：地域別不平等の状況（2004～2007年）	13
表 2-1：人間社会的排除指数（HSEI）の推定値（2007年）	16
表 2-2：人間開発指数（HDI）（2003～2008年）	17
表 2-3：人間貧困指数（HPI-2）	18
表 2-4：生活水準（下記の費用をまかなうことができない人の割合）	19
表 3-1：BiH の公共支出（2006年 GDP 比）	23
表 3-2：エンティティ別労働市場の状況	23
表 3-3：業種別・性別就労人数（全国）	24
表 3-4：社会的信頼関係と公正に関する国際比較	25
表 3-5：BiH における国外避難民と IDP の帰還（1996～2008年）	26
表 3-6：主要マクロ経済指標（2005～2010年）	28
表 3-7：海外送金の主要な資金源	29
表 3-8：海外からの送金	30

表 4-1 : RS における年金受給者	34
表 4-2 : 消費階層別およびエンティティ別年金額、被覆率、およびターゲティング ..	34
表 4-3 : 失業給付金受給者 (2008 年 3 月から 2008 年 12 月)	37
表 4-4 : 消費階層別およびエンティティ別 CSW の社会扶助給付の金額、被覆率、ター ゲティング	42
表 4-5 : 消費階層別およびエンティティ別児童保護手当の支給額、被覆率およびターゲ ティング	46
表 4-6 : 非拠出制社会保障給付にかかる支出 (対 GDP 比)	48
表 4-7 : 消費階層別およびエンティティ別退役軍人のための社会給付の給付額、被覆率 およびターゲティング	48
表 5-1 : BiH における MDGs の達成状況.....	54
表 5-2 : 貧困モニタリングのためのデータ収集調査.....	58

略語一覧

AMFI	: Association of Microfinance Institutions	ボスニア・ヘルツェゴビナ マイクロファイナンス機関協会
BD	: Brcko District of BiH	ブルチコ行政区
BHAS	: Agency for Statistics of BiH	ボスニア・ヘルツェゴビナ統計庁
BiH	: Bosnia and Herzegovina	ボスニア・ヘルツェゴビナ
CCA	: Common Country Assessment	国連国別共通アセスメント
CDS	: Country Development Strategy	国家開発戦略
CPI	: Consumer Price Index	消費者物価指数
CSW	: Centres for Social Work	社会事業センター
DEP	: Directorate for Economic Planning	経済計画局
DFID	: Department for International Development, UK	英国国際開発省
EC	: European Commission	欧州委員会
EPPU	: Unit for Economic Planning and Implementation	経済計画・実施ユニット
EU	: European Union	欧州連合
FBiH	: Federation of Bosnia and Herzegovina	ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦
FDI	: Foreign Direct Investment	外国直接投資
GDP	: Gross Domestic Product	国内総生産
GPL	: General Poverty Line	一般貧困ライン
HBS	: Household Budget Survey	家計調査
HDI	: Human Development Index	人間開発指数
HPI	: Human Poverty Index	人間貧困指数
HSEI	: Human Social Exclusion Index	人間社会阻害指数
IDP	: Internal Displaced Person	国内避難民
ILO	: International Labour Organization	国際労働機関
IMF	: International Monetary Fund	国際通貨基金
ISCED	: International Standard Classification of Education	国際標準教育分類
JNA	: Yugoslav Army	ユーゴスラビア軍
KM	: Konvertibilna Marka	兌換性マルカ（通貨）
LIP	: Local Initiative Project	地域主導プロジェクト
LSMS	: Living Standard Measurement Survey	生活水準測定調査
MDGs	: Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MICS	: Multiple Indicator Cluster Survey	複数指標クラスター調査
MTDS	: Mid-Term Development Strategy	中期開発戦略
NHDR	: National Human Development Report	国別人間開発報告書

NGO	: Non-Governmental Organization	非政府組織
OECD	: Organization for Economic Cooperation and Development	経済協力開発機構
OHR	: Office of the High Representative	上級代表府
OSCE	: The Organization for Security and Co-operation in Europe	欧州安全保障機構
PRSP	: Poverty Reduction Strategy Paper	貧困削減戦略書
RS	: Republic of Srpska	スルプスカ共和国
RSIS	: Republika Srpska Institute for Statistics	スルプスカ共和国統計院
SAA	: Stabilization and Association Agreement	安定化連合協定
SIDA	: Swedish International Development Cooperation Agency	スウェーデン国際開発協力庁
SIS	: Social Inclusion Strategy	社会的包摂戦略
UK	: United Kingdom	連合王国（英国）
UN	: United Nations	国際連合
UNCT	: United Nations Country Team	国連国別チーム
UNDP	: United Nations Development Programme	国連開発計画
UNHCR	: United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所
UNICEF	: United Nations Children's Fund	国連児童基金
WB	: World Bank	世界銀行
WDI	: World Development Indicator	世界開発指標

「貧困とは」

貧困の認識および JICA の貧困の定義については、2009 年に改訂された「課題別実施指針：貧困削減」¹を参照されたい。実務的観点から、国際的には以下のような異なる貧困概念に基づき、貧困の度合いに関し、異なる測定・分析が試みられている。

- 絶対貧困 (Absolute Poverty) : 栄養学上、人間が生活を営むのに最低限必要なカロリーを摂取し、最低限の生活を維持できる所得・支出のレベルを充足できない状態
- 相対貧困 (Relative Poverty) : 国・地域の中で、大多数の人々より貧しい状態にあること。一般的な生活水準の上昇から取り残される状態で、社会的・文化的要素も考慮される。
- 人間貧困 (Human Poverty) : 最低限の生活水準を手に入れる機会と選択肢を持たず、貧困から抜け出すことが困難な状態。
- 社会的排除 (Social Exclusion) : 他者との連帯・共生の権利が剥奪された状態にあること。

本報告書では、こうした貧困の概念を踏まえ、「所得貧困」および「それ以外の側面による貧困」に焦点をあて、ボスニア・ヘルツェゴビナの貧困の概要についてとりまとめる。

¹ 貧困の認識と定義についての国際的な議論の概観については、指針第 1 章 1-2 を参照のこと。なお、指針第 2 章 2-2 で提示したとおり、個々人の自己実現に向けた「潜在能力」や「人間の安全保障」を重視し、さらには貧困が差別や社会的排除と密接に関係しているとの認識の下、JICA では「貧困」を以下のように定義している。すなわち、貧困とは「人間が人間としての基礎的生活を送るための潜在能力を発揮する機会が剥奪されており、併せて社会や開発プロセスから除外されている状態」である。

第1章 所得貧困による分析

ボスニア・ヘルツェゴビナ（以下、BiH）は、憲法上、ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦（FBiH : Federation of Bosnia and Herzegovina、以下、FBiH）およびスルプスカ共和国（RS : Republic of Srpska、以下、RS）の高度に分権化された2つの主体（entity、以下エンティティ）により構成される共和制国家である。また、2006年にブルチコ行政区が、独立した自治体として、これら2つのエンティティと同等の権限を与えられた²。本章では、BiH全体とFBiHおよびRSの2つのエンティティ、ブルチコ行政区の所得貧困の状況について概観する。

1.1 所得貧困の測定

1.1.1 貧困分析に使用するデータ

BiHの貧困分析は、生活水準測定調査（LSMS : Living Standard Measurement Survey）³および家計調査（HBS : Household Budget Survey）の世帯に関するデータに基づいて行われている。英国国際開発省（DFID : Department for International Development）とのパートナーシップのもと、2001年から2004年にかけてLSMSが実施され、2004年から2007年にかけて家計調査（HBS）が実施された。LSMSに関しては、世界銀行（WB : World Bank）の専門家による技術的な助言などの支援も行われ⁴、家計調査（HBS）についてはイタリア政府による支援も行われている。

LSMSは2001年から2004年にかけて、毎年3,000世帯を対象に、同一の手法でパネルデータの収集を行ってきたことから、経年比較を行うことが可能である。他方、2004年および2007年に実施された家計調査（HBS）については、単純に経年比較を行うことは困難である。これは、サンプリング方法の変更⁵や収集対象となるデータ項目など質問票の内容も変更されているためである。なお、BiHの国勢調査は1991年以降実施されておらず、直近の人口動態や地域的な人口分布が適切に把握されておらず、実態を反映したサンプル調査を行うことが困難であることが指摘されている。

² ブルチコ行政区は、1995年12月に締結されたボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の和平合意である、 Dayton合意（Dayton Agreement）に基づいて、2つのエンティティの境界線を確定する際に設立された行政区である。ブルチコ市街を含む48%がRS、残り52%がFBiHに属すると定められていたが、2006年にブルチコ行政区の境界線に関する法律が廃止されるとともに、独自の法が制定され、エンティティと同等の権限を有するようになった。

³ LSMSは、WBの開発経済研究グループ（DECRG : Development Economics Research Group）により、途上国の統計局により収集される家計データの種類や質の改善を図るために開発された家計調査手法である。（WBウェブサイト：<http://econ.worldbank.org/>、2010年8月現在）

⁴ LSMS2001年については、国連開発計画（UNDP : United Nations Development Programme）および日本政府による支援も行われ、また、マスターサンプルの策定については、DFIDおよびWBに加えて、スウェーデン国際開発庁（SIDA : Swedish International Development Cooperation Agency）、欧州委員会（EC : European Commission）による支援が行われた。

⁵ サンプル調査のためのマスターサンプルが2006年に更新され、HBS(2007)では更新された「拡大マスターサンプル」に基づいてサンプルフレーム（サンプル抽出のための枠組み）が確定され、HBS2004年のサンプルフレームから変更された。

世帯レベルの統計データに基づく貧困分析としては、2001年から2003年のLSMSのデータによるWBの貧困アセスメント（2003年）⁶がある。同貧困アセスメントにおいて、必要最低限の支出を基準とする「絶対貧困ライン」⁷による経済的貧困の測定が行われた。

家計調査（HBS）に基づく貧困分析としては、BiHの統計当局による、「HBS 貧困・生活状況分析（2007年）」（“HBS 2007 Poverty and Living Conditions”（以下、「HBS 貧困分析」）がある。これは、DFIDおよびイタリア政府の支援を受け、ボスニア・ヘルツェゴビナ統計庁（BHAS : Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina）、FBiHの連邦統計局（Federal Office of Statistics）およびRSのスルプスカ共和国統計院（RSIS : Republika Srpska Institute for Statistics）により実施されたものである。同報告書でも、WBの貧困アセスメント（2003年）と同様に「絶対貧困ライン」を設定し、貧困の測定を行っている。

直近の貧困分析としては、WBによる貧困アセスメント（2009年）⁸がある。同報告書では、家計調査（HBS）のデータを基に必要な調整を行い、HBS（2004）とHBS（2007）のデータによる貧困および不平等指標の比較を行うとともに、家計調査（HBS）とLSMSによる貧困測定の結果との比較も行っている。

本章では、「WB 貧困アセスメント（2009年）」の分析結果を中心にBiHの所得貧困の状況を概観し、一部「HBS 貧困分析（2007年）」および「HBS 最終分析（2007年）」⁹について参照する。

1.1.2 貧困ライン¹⁰

「所得（消費）¹¹貧困」は、大きく2つの概念により測定される。一つは国民の大多数の所得あるいは支出水準との比較による「相対的な貧困」であり、もう一つはベーシック・ヒューマン・ニーズを充足するために必要な所得あるいは支出水準による「絶対的な貧困」である。

BiHでは、欧州連合（EU : European Union）への加盟に向けて、EUの基準に合わせた相対貧困ラインと、一般に途上国における貧困分析で使用される、最低限必要とされる栄養摂取に要する支出額に基づいて算出される絶対貧困ラインにより、貧困状況の分析が行われている。

⁶ World Bank, “Bosnia and Herzegovina Poverty Assessment” (2003)

⁷ 別添1参照。

⁸ World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update”, (2009)

⁹ BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Final Results” (2007)

¹⁰ 別添1参照。

¹¹ 統計が整備されている一部の先進国を除いては「所得」に関する精度の高い統計データを入手することが困難であることから、より実態を反映しているとして「支出」に関するデータを参照し、「所得水準」を推定することが一般的である。

表 1-1：貧困ライン

貧困ライン	設定方法	2007年時点の値
相対貧困ライン (1人/1ヶ月当たり)	1人当たり消費額中央値（メディアン）の60%	386 マルカ
絶対貧困ライン (1世帯/1ヶ月当たり)	必要最低食料消費額および必要最低非食料消費額の合計	GPL1：3,154.18 マルカ GPL2：2,993.08 マルカ GPL3：2,857.31 マルカ
LSMS2001年基準貧困ライン (1人/1ヶ月当たり)	同上。ただしベースラインを2001年LSMSのデータによる。	205 マルカ

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update”, (2009), p. 11, Table 1.1 and BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions” (2007), p.19

(1) 相対貧困ライン (Relative Poverty Line)

BiHにおいては、公式の相対貧困ラインを、1人1ヶ月当たり消費支出額の中央値（メディアン）の60%としている。これは、EU諸国や英国（UK：the United Kingdom）政府が採用している共通の基準と同様である。相対貧困ラインは家計調査（HBS）のデータに基づいて算出されており、2004年311マルカ（KM）¹²（159ユーロ）¹³および2007年386マルカ（197ユーロ）であった。相対貧困ラインは、2004年から2007年で24%上昇した。

(2) BiH統計当局による絶対貧困ライン

BiHの統計当局は、家計調査（HBS）ごとに絶対貧困ラインを算出している。しかしながら、前述したように、異なる家計調査（HBS）のデータによって貧困の経年変化の比較分析を行うことは困難である。HBS2007年の結果によれば、1人1日当たり2,100キロカロリーの必要最低限の栄養摂取量に基づく必要最低食料支出額に、被服、住宅、教育など必要最低非食糧支出を加えた、3種類の「一般貧困ライン」（GPL：General Poverty Lines）¹⁴を設定した。

「HBS貧困分析（2007年）」¹⁵では、非食料支出額から保健医療費を除いて算出したGPL3を、BiHの貧困および生活水準の分析に主に使用している。これは、低所得者層の状況をより反映するためである。2007年のGPL3は、1世帯1ヶ月当たり2,857.31マルカ（1,460ユーロ）と推定されている。

絶対貧困ライン＝必要最低食料支出額（食料貧困ライン）＋必要最低非食料支出額

(3) 2001年LSMS基準の絶対貧困ライン

「WB貧困アセスメント（2009年）」では、HBS2004年および2007年のデータによる分析に、BiH統計当局による「HBS貧困分析（2007年）」とは異なる貧困ラインを用いている。必要最低栄養摂取量を満たすための費用に基づいている点では同じであるが、ベースライ

¹² BiHの通貨は、「兌換性マルカ」の意味を示す、Konvertibilna Marka (KM) である。

¹³ 参考為替レート：1マルカ=1.9558ユーロ（Central Bank of Bosnia and Herzegovina、2010年9月現在）

¹⁴ 別添2参照

¹⁵ BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and Living Conditions” (2007)

ンデータとして LSMS2001 年を使用している。そのため、2004 年および 2007 年の貧困ラインを算出するために、2007 年価格による調整を行っている。その結果、1 人 1 ヶ月当たりの金額は、2004 年 185 マルカ (95 ユーロ)、2007 年 205 マルカ (105 ユーロ) と推定された。

1.2 貧困ラインに基づく貧困分析

1.2.1 国レベルでの貧困状況

(1) 相対貧困

「HBS 最終分析 (2007 年)」によれば、相対貧困ラインによる測定 (表 1-2) では、BiH 全体の相対貧困者比率は、2004 年 18.3%、2007 年 18.2%でほとんど変化は無い。FBiH では、18.8%から 17%と若干の低下が見られるが、RS においては、17.8%から 20.1%に上昇し、ブルチコ行政区では、9.5%から 25.8%に大幅に増加した。2004 年と 2007 年の 1 ヶ月当たりの平均支出額 (食料および非食料)¹⁶は、FBiH および RS では増加しているものの、ブルチコ行政区では減少している。したがって、FBiH では、平均支出額の増加は、低所得者層の支出水準の底上げにつながり、相対貧困者比率の低下をもたらしたものと推察される。他方、RS では、物価上昇に低所得者層の支出が追いつかず、相対貧困人口が増加したものと考えられる。また、ブルチコ行政区における平均支出額の低下は、経済の停滞によるものであり、特に、低所得者層が影響を受け、相対貧困人口が大幅に拡大したものと見られる。

表 1-2 : 相対貧困ラインによる貧困者比率 (個人)

国全体		FBiH		RS		ブルチコ行政区	
2004HBS	2007HBS	2004HBS	2007HBS	2004HBS	2007HBS	2004HBS	2007HBS
18.3	18.2	18.8	17.0	17.8	20.1	9.5	25.8

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Final Results” (2007), p.72, Table7.24

エンティティ間で比較すると (表 1-3)、2007 年の相対貧困世帯比率は、FBiH で最も低く 17%で、ブルチコ行政区で最も高く 23.6%であった。RS は、その中間の 20.1%である。貧困層の平均支出額の貧困ラインからの乖離度を示す貧困ギャップ比率は、BiH 全体で 26.2%と、後述する絶対貧困ラインによる貧困ギャップよりも大きな乖離を示している。エンティティ別では、貧困者比率ほどの差は見られないが、FBiH の 25.2%が最も低く、次いでブルチコ行政区 26.2%、RS が最も高く 27.5%であった。

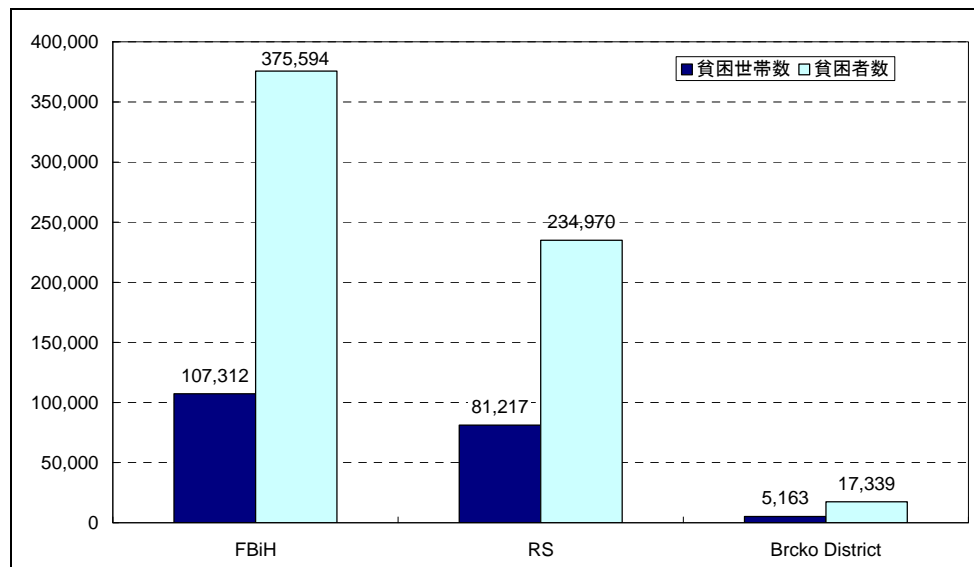
表 1-3 : 相対貧困指標 (世帯、2007 年)

	国全体	FBiH	RS	ブルチコ行政区
貧困者比率	18.2	17.0	20.1	23.6
貧困ギャップ	26.2	25.2	27.5	26.2

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Final Results” (2007), p.55, Table6.1

¹⁶ BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Final Results” (2007), p.69, Table7.16

また、図 1-1 は、相対貧困人口と世帯数を示している。相対貧困人口は BiH 全体でおよそ 62.7 万人であり、相対貧困世帯数は約 19.4 万世帯である。相対貧困人口のおよそ 60%、37.6 万人が FBiH の住民であると推定され、相対貧困世帯数でも 55%が FBiH と最も大きな割合を占めている。RS は、相対貧困人口に占める割合が 37.4%、相対貧困世帯数に占める割合は 41.9%である。ブルチコ行政区は、相対貧困人口および世帯数に占める割合は、いずれも 3%未満である。



(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Final Results” (2007), p.55, Table6.1

図 1-1：相対貧困人口および世帯数（2007 年）

(2) LSMS 貧困ラインによる絶対貧困の水準

表 1-4 は、「WB 貧困アセスメント（2009 年）」による、絶対貧困ラインによる測定結果を示したものである。国全体の絶対貧困者比率（以下、貧困者比率）¹⁷は、2001 年から 2004 年においてはほとんど変化が無かったが、2004 年から 2007 年にかけて低下している。2004 年に貧困者比率は、HBS（2004 年）のデータによれば 17.7%、LSMS では 17.8%であり、2007 年には 14%に減少した。

FBiH においては、貧困者比率が低下したか否かについて述べることは困難である。2004 年および 2007 年の家計調査（HBS）のデータを比較すると、貧困者比率は 18.6%から 13.3%に低下しているようにも思える。しかし、LSMS のデータによれば、2004 年の貧困者比率は 15.4%である。

さらに、RS の貧困の水準を述べることはさらに困難である。2001 年から 2004 年において、LSMS のデータによれば、貧困者比率は 20%台で一定していた。また、2004 年から 2007 年

¹⁷ 以下、特に言及がない場合は、「貧困者比率」あるいは「貧困人口」は、「絶対貧困ライン」による「絶対貧困者比率」あるいは「絶対貧困人口」を指す。

については、家計調査（HBS）のデータで見ると、16.5%から15%とあまり大きな変化はない。しかしながら、2004年の貧困者比率は、LSMSと家計調査（HBS）で大きく異なっているため、RSの貧困の水準および傾向を把握することは難しい。

ブルチコ行政区では、貧困者比率は2004年10.1%から2007年18.8%に大きく上昇している。2004年のブルチコ行政区の貧困者比率は、BiHで最も低い水準であったが、2007年には最も高い水準となっている。なお、ブルチコ行政区においては、2004年から2007年で相対貧困者比率が上昇していることにも鑑みると、ブルチコ行政区では、経済が停滞し、貧困層の拡大をもたらしたと推察される。

2007年のFBiHとRSの貧困者比率を比較すると、FBiHがRSを下回っている。しかしながら、2004年については、家計調査（HBS）ではFBiHが上回り、LSMSではRSが上回っており、異なる傾向を示している。

表 1-4：貧困者比率（LSMS および HBS）

	2001	2004		2007
	LSMS	LSMS	HBS	HBS
国全体	17.5	17.8	17.7	14.0
FBiH	14.2	15.4	18.6	13.3
RS	21.8	20.8	16.5	15.0
ブルチコ行政区	-	-	10.1	18.8

（出所）World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p. 17, Figure 2.1, and p.18, Table 2.1

貧困人口の分布（表 1-5）を見ると、BiH全体の貧困人口の60%以上がFBiHに居住しており、3分の1がRSに居住している。こうした貧困人口の分布の傾向は、2004年および2007年で変化はない。

表 1-5：貧困人口の分布（HBS）

	（%）	
	2004	2007
国全体	100.0	100.0
FBiH	65.4	61.2
RS	33.5	36.2
ブルチコ行政区	1.1	2.6

（出所）World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p.18, Table 2.1

(3) BiH統計局の貧困ラインによる絶対貧困の水準

2004年と2007年の家計調査（HBS）のデータによる貧困者比率が、BiH統計局により算出されているが、それぞれの調査結果による貧困ラインの整合性が必ずしも確保されていないため、単純な経年比較を行うことは適切でない。

BiH 統計当局によれば、2007 年の BiH 全体の貧困者比率は 18.5%である。FBiH は若干低く 17.3%であり、RS は 20.2%と若干高めである。ブルチコ行政区は 4 人に 1 人が貧困層であり、貧困者比率は BiH で最も高い水準である。

貧困ギャップおよび貧困重度も同様の傾向を示している。貧困ギャップは、貧困層の平均支出の貧困ラインからの乖離度を示しているが、BiH 全体では、4.9%である。絶対貧困ラインによる貧困ギャップは、相対貧困ラインによるものに比して小さく、貧困層の最低限必要な支出額に対する不足は 5%未満にとどまっている。エンティティ別に見ると、FBiH が最も低く 4.5%であり、ブルチコ行政区が最も高く 7.1%であった。

また、貧困層間の支出分配の不平等を示す、貧困重度（二乗貧困ギャップ比率）では、BiH 全体では、1.9%であった。エンティティ別では、FBiH が 1.7%と最も低い水準であり、ブルチコ行政区が 2.8%と最も高い水準である。RS は、国全体の水準よりやや高く、2.1%であった。

表 1-6 : GPL 3 による貧困指標 (HBS 2007)

	貧困者比率	貧困ギャップ	貧困重度
国全体	18.5	4.9	1.9
FBiH	17.3	4.5	1.7
RS	20.2	5.4	2.1
ブルチコ行政区	25.0	7.1	2.8

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions” (2007), p.21-22, Table 6A, 6B and 6C

1.2.2 都市・農村部における貧困状況

「WB 貧困アセスメント (2009 年)」によれば、BiH では、貧困層の大多数が農村部に居住している。2007 年のデータでは、貧困層の 77%が農村部に居住しており、23%が都市部に暮らしている。農村部の貧困者比率は 18%であり、これは都市部の 8%を大きく上回っている。また、都市部の貧困者比率は、国全体の水準を下回っている。

表 1-7 : 都市・農村部における貧困人口の分布

地域	2004	2007
全体	100.0	100.0
都市部	25.5	22.9
農村部	74.5	77.1

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p.20, Table 2.2

都市部および農村部の双方において、貧困者比率は低下している。貧困者比率の変化の度合いを見ると (表 1-8)、農村における貧困削減は、都市部よりも大きい。都市部では、貧困者比率は 3.1 ポイント低下しており、これは、経済成長の要因 (マイナス 3.5 ポイント) によるところが大きく、分配の不平等の悪化 (プラス 0.42 ポイント) が経済成長による貧

困削減効果を抑制した。他方、農村部においては、貧困者比率は 4.22 ポイント低下し、経済成長（マイナス 2.02 ポイント）と不平等の改善（マイナス 1.91 ポイント）がほぼ同じくらい貧困削減に貢献した。すなわち、農村部では、経済成長により貧困が緩和されるとともに、消費支出の分配の不平等が是正されたことにより、都市部よりも貧困削減が大きかったといえる。

表 1-8：地域別貧困者比率の変化とその要因

地域	貧困者比率 (%)		経年変化	変化の要因		
	2004	2007		成長	不平等	相互作用
国全体	17.74	14.04	-3.70	-2.86	-0.57	-0.27
都市部	11.33	8.23	-3.10	-3.50	0.42	-0.03
農村部	22.00	17.78	-4.22	-2.02	-1.91	-0.28

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p. 12, Table 1.2

(注) LSMS ベース貧困ラインと BHAS が算出した消費支出額により計測している。

エンティティ別に見ても（表 1-9）、農村部における貧困者比率は、都市部の貧困者比率を上回っている。しかし、貧困ギャップおよび貧困重度による都市・農村部の格差は、エンティティごとに異なっている。

国全体では、農村部の貧困ギャップおよび貧困重度はそれぞれ 5.1%、2.0%と、都市部の貧困ギャップ 4.7%、貧困重度 1.8%を若干上回っている。FBiH でも同様の傾向が見られ、RS では都市・農村部間の格差はほとんどない。しかし、ブルチコ行政区では、農村部の貧困ギャップおよび貧困重度が都市部の貧困ギャップおよび貧困重度を大きく上回っており、農村の貧困層の支出水準の貧困ラインからの乖離は都市部の貧困層に比して大きく、また、貧困層間の支出分配の不平等の度合いも大きい。したがって、ブルチコ行政区では、農村部の貧困層がより厳しい状況におかれ、貧困層間での支出分配の格差も大きいものと見られる。

表 1-9：地域別貧困指標（HBS 2007）

	貧困者比率	貧困ギャップ	貧困重度
(%)			
BiH			
農村部	19.6	5.1	2.0
都市部	17.7	4.7	1.8
FBiH			
農村部	18.5	4.9	1.9
都市部	16.6	4.2	1.6
RS			
農村部	21.1	5.4	2.1
都市部	19.5	5.4	2.2
ブルチコ行政区			
農村部	26.2	8.0	3.4
都市部	24.0	6.4	2.4

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions” (2007), p.24-25, Table 7A and 7B

1.2.3 社会経済的特徴による貧困状況

(1) 世帯主の教育水準

表 1-10 は、教育水準による貧困者比率と貧困人口における世帯主の教育水準を示している。世帯主の教育レベルにより、貧困者比率は異なっている。2007 年では、最も貧困者比率が高かったのは、教育を受けていない世帯主の世帯で 21.2%であり、最も低かったのは世帯主が大学あるいはそれ以上の教育水準である世帯で 1.1%であった。すなわち、世帯主の教育水準が高いほど、貧困のリスクが低いといえる。

貧困層のおよそ 70%の世帯主は、初等教育のみ、あるいは教育を受けていないという状況である。世帯主が中等教育を受けている世帯の貧困者比率は 10%未満であるものの、貧困世帯の世帯主およそ 3 分の 1 が中等教育を受けている。人口全体の 40%以上が中等教育を受けているため、貧困人口に占める比率も大きくなっている。

世帯主の教育水準によるグループのすべてで、貧困者比率は低下しているが、貧困人口における教育を受けていない世帯主の割合は、2004 年から 2007 年で 25.9%から 32.4%に増加している。

表 1-10 : 教育水準による貧困者比率と貧困人口に占める割合

(%)

世帯主の教育水準	貧困者比率		貧困人口に占める割合		人口に占める割合	
	2004	2007	2004	2007	2004	2007
無教育	24.6	21.2	25.9	32.4	18.2	20.8
初等教育	20.7	16.7	38.9	36.6	32.6	29.8
中等教育	13.9	9.6	33.5	29.7	41.9	42.1
高等教育	4.4	3.7	1.1	1.0	4.1	3.6
大学およびそれ以上	3.5	1.1	0.7	0.3	3.2	3.6
合計	17.7	14.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) World Bank, "Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update" (2009), p.21, Table 2.3

「HBS 貧困分析 (2007 年)」によれば、教育水準による貧困のリスクは、地域および性別によって異なっている (表 1-11)。FBiH および RS では、国全体と同様に、教育を受けていない世帯主の世帯、特に、男性の世帯主の世帯で、貧困リスクが高い。なお、RS では、教育を受けていない男性世帯主の世帯の 53%が貧困ライン以下の生活を送っているが、教育を受けていない女性世帯主の世帯では貧困者比率は 30%である。また、ブルチコ行政区では、初等教育を受けた男性世帯主の世帯の貧困リスクが最も高く、貧困者比率は 37.48%であり、これは教育を受けていない男性世帯主の世帯の貧困者比率 25.7%を上回っている。

すべての教育水準によるグループにおいて、女性の世帯主よりも男性の世帯主の世帯のほうが、貧困者比率は高い値を示している。

表 1-11 : GLP3 に基づく教育水準による貧困者比率 (HBS 2007)

(%)

教育水準	国全体	FBiH	RS	ブルチコ行政区
無教育	33.31	30.2	38.39	19.6
男性世帯主	45.55	41.43	52.85	25.7
女性世帯主	25.69	23.01	29.85	14.54
初等教育	24.17	24.1	23.77	32.21
男性世帯主	27.53	28.26	25.98	37.48
女性世帯主	15.64	14.99	16.75	16.54
中等教育	15.45	14.74	16.44	23.33
男性世帯主	16.39	15.7	17.28	25.44
女性世帯主	7.72	6.46	10.71	7.31
高等教育	3.23	3.14	3.33	4.09
男性世帯主	3.23	3.14	3.33	4.09
女性世帯主	0.00	0.00	0.00	0.00

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions”(2007), p.37, Table 8M

(2) 世帯主の就労状況

世帯主の就労状況で見ると (表 1-12)、失業者の貧困者比率は、2004 年 30.5%から 2007 年 20.2%に低下しているが、最も高い水準となっている。自営業者の貧困者比率は、11.6%から 15.9%に上昇している。

他方、貧困層の多くが、人口全体の 38%を占める被雇用者である。被雇用者の貧困者比率は 11.1%にとどまっているが、貧困人口に占める割合は 30.2%に上る。

退職者も、貧困層に占める割合が大きい。2007 年では、貧困層に占める退職者の割合は 25.1%であり、貧困者比率は 13.3%であった。

表 1-12 : 就労状況による貧困者比率

(%)

雇用	貧困者比率		貧困人口に占める割合		人口に占める割合	
	2004	2007	2004	2007	2004	2007
被雇用者	16.2	11.1	35.4	30.2	38.9	38.1
自営業者	11.6	15.9	9.1	15.5	13.9	13.6
失業者	30.5	20.2	19.1	16.5	11.1	11.5
退職者	17.3	13.3	28.8	25.1	29.6	26.4
学生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
OLF	20.9	17.5	7.5	12.7	6.4	10.2
合計	17.7	14.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p.22, Table 2.4

RS の障害者を除いて、すべての地域および就労状況別グループで、貧困者比率は都市部に比して農村部において高くなっている（表 1-13）。ブルチコ行政区の農村部の失業者の貧困のリスクは最も高く、貧困者比率は 40%を超えている。その他のエンティティでは、農村部の失業者全体の貧困者比率は 30%を超える水準であり、都市部においては 18%前後である。FBiH の農村部の障害者が世帯主である世帯の貧困者比率は 40%超で、FBiH においては最も高い水準である。RS では、障害者の貧困者比率は都市部および農村部で、それぞれ 39.6%、42.2%と全体的に高く、特に男性の障害者の世帯主の世帯の貧困者比率は、都市部および農村部で 45%前後である。

FBiH および RS の都市部の被雇用者の世帯主の世帯では、貧困のリスクは低く、こうした世帯の貧困者比率は 10%未満である。なお、ブルチコ行政区では、都市部の被雇用者の世帯の貧困者比率（17.5%）は、都市部の失業者の貧困者比率（14%）を上回っている。

表 1-13：地域別就労状況による貧困者比率（HBS 2007）

	国全体		FBiH		RS		ブルチコ行政区	
	農村部	都市部	農村部	都市部	農村部	都市部	農村部	都市部
被雇用者	22.03	9.37	22.77	9.07	20.23	9.52	34.85	17.47
男性世帯主	22.38	9.59	23.10	9.29	20.23	9.58	34.85	17.47
女性世帯主	13.01	7.86	9.11	13.26	-	12.85	-	-
失業者	31.97	18.01	31.41	17.88	31.86	18.68	40.59	14.03
男性世帯主	32.17	19.82	31.56	18.96	32.12	21.85	41.34	14.03
女性世帯主	28.54	8.81	29.05	11.67	27.09	5.54	33.33	-
退職者	21.98	11.57	21.40	9.90	22.71	14.87	24.45	20.46
男性世帯主	22.76	12.24	22.81	9.72	22.62	16.79	24.45	25.25
女性世帯主	16.46	9.85	12.09	10.31	23.34	8.73	-	6.83
障害者	37.74	24.04	36.07	11.73	39.58	42.23	29.16	13.50
男性世帯主	42.39	24.03	40.65	13.44	45.86	44.68	29.91	13.50
女性世帯主	32.43	24.05	27.48	9.40	34.83	40.20	27.04	-
主婦	22.09	9.30	22.71	7.50	21.12	16.12	22.28	7.16
男性世帯主	26.64	-	25.36	-	28.92	-	-	-
女性世帯主	21.90	9.30	22.59	7.50	20.93	16.12	22.28	7.16
その他（非経済活動）*	14.85	-	7.45	-	24.86	-	50.12	-
男性世帯主	26.57	-	6.62	-	24.86	-	50.12	-
女性世帯主	8.57	-	21.79	-	-	-	-	-

(出所) BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions”(2007), p.33, Table 8I

(注)* その他には、中等教育を受けている学生が含まれている。

(3) 産業

表 1-14 は、産業別の貧困者比率を示している。FBiH および RS では、農業、工業および建設に従事している世帯の貧困者比率は、20～27%と比較的高い水準にある。他方、商業・運輸およびその他サービスセクターに従事している世帯の貧困者比率は 10%程度である。

ブルチコ行政区では、FBiH および RS と異なる傾向を示している。ブルチコ行政区でも農業および建設に従事している世帯の貧困のリスクは高く、貧困者比率は 40%である。しかし、工業および商業・運輸に従事している世帯の貧困者比率は、25%である。その他のサービスセクターの貧困のリスクは低く、貧困者比率は 12%である。

農業以外の産業で、世帯主の性別による貧困者比率の格差はほとんどない。農業については、男性の世帯主の貧困者比率は、女性の世帯主の貧困者比率よりも高くなっている¹⁸。

表 1-14：産業別貧困者比率（HBS 2007）

産業	国全体	FBiH	RS	ブルチコ行政区
農業	25.26	26.58	24.07	40.32
男性世帯主	25.69	26.58	24.46	40.32
女性世帯主	15.45	0.00	15.45	-
工業	20.95	20.24	22.25	23.31
男性世帯主	20.99	20.14	22.38	23.31
女性世帯主	20.43	21.60	20.17	0.00
建設	26.48	26.86	24.34	45.61
男性世帯主	26.58	26.82	24.47	45.61
女性世帯主	25.34	34.07	0.00	11.19
商業・運輸	11.40	10.95	11.17	24.56
男性世帯主	11.76	11.19	11.79	25.2
女性世帯主	8.01	8.43	6.28	19.9
その他（サービス）	10.36	9.72	11.61	12.33
男性世帯主	11.02	10.39	12.18	12.33
女性世帯主	7.05	6.36	8.79	0.00

（出所） BHAS, FBiH Federal Office of Statistics, RSIS, “HBS 2007 Poverty and living Conditions”(2007), p.37, Table 8L

1.3 不平等指標

BiHにおける不平等の状況は、2004年と2007年において、変化は見られない。所得あるいは消費分配の不平等を示すジニ係数¹⁹は、0から1の範囲で測定され、「0」は完全平等を示し、「1」は完全不平等を示す。BiHのジニ係数は、2004年から2007年で、ほとんど変化がない。

¹⁸ 世帯主の性別による貧困者比率の格差に関する既存の詳しい分析はないが、農業セクターに従事している、男性世帯主の貧困者比率が女性世帯主に比して高い理由としては、女性世帯主の世帯では配偶者など家族に出稼ぎ者がおり、送金による所得の補填が行われている可能性が挙げられる。

¹⁹ 別添1参照。

表 1-15 : BiH の不平等状況 (2004 年、2007 年)

年	ジニ係数
2004	0.3465
2007	0.3334

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p.73, Annex 2, Table 2.7

表 1-16 は、地域別の不平等の状況を示している。国全体では、不平等の状況に大きな変化はみられないが、農村部においては都市部よりも不平等の是正が進んだといえる。都市部のジニ係数は2004年0.3382から2007年0.3284に若干低下したが、農村部においては、0.3418から0.318に改善した。

FBiHにおける不平等は、国全体の水準を下回っている。2004年では、農村における不平等は都市部の不平等よりも大きく、都市部0.3383に対し、農村部0.3550であった。2007年には農村の不平等は改善し、都市部および農村部ともに、0.3274であった。

RSでは、2004年および2007年で、農村の不平等は、都市部よりも小さい。都市・農村部の双方において、不平等は改善している。都市部のジニ係数は0.3424から0.3231に低下し、農村部では0.3217から0.3078に低下した。

表 1-16 : 地域別不平等の状況 (2004~2007 年)

	ジニ係数	
	2004	2007
都市部	0.3382	0.3284
サラエボ	0.3300	0.3140
その他	0.3378	0.3243
農村部	0.3418	0.3180
FBiH	0.3550	0.3373
都市部	0.3383	0.3274
農村部	0.3551	0.3274
RS	0.3334	0.3211
都市部	0.3424	0.3231
農村部	0.3217	0.3078

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update” (2009), p.73, Annex 2, Table 2.7

第2章 所得貧困以外の方法による分析

2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団

BiHにおいて、FBiHおよびRSのいずれの政府も、地理的あるいは行政区分による貧困地域の指定は行っていない。

しかしながら、EUへの加盟に向けて、BiH政府は「社会的包摂（Social Inclusion）」に関する取組みを求められている。「社会的包摂」の枠組みはEUの社会政策策定の中心であり、BiHにおいても、EU標準である「社会的包摂」に関する一般的な条件を満たすことが求められているために、貧困削減よりも「社会的排除」を削減するための政策の実施が必要となっている。

国連開発計画（UNDP：United Nations Development Programme）報告書（2007）²⁰のルーケン指標（Laeken Indicators²¹）に関するアセスメントによれば、以下のグループにおいて、所得貧困を含む社会的排除についての脆弱性が高いとされている。

- 高齢者：少なくとも2人世帯で、そのうち1人が65歳以上の高齢者でかつ、扶養する子どもがいない場合、貧困者比率は36.1%である。また、65歳以上の単身世帯の場合には、貧困者比率は28.8%である。
- 若年層：子どもが二人以上いる世帯は、最貧層に分類される。また、教育のない15～25歳の青年層では、長期にわたる貧困のリスクが高い。
- 障害者：他のグループに比べ、貧困のリスクも高く、教育からの阻害、医療・保健サービスへの限定的なアクセス、雇用へのアクセスの制約、社会的抑圧など様々な形で社会的排除にさらされるリスクが高い。
- 避難民：避難民の37%が貧困層であり、貧困ギャップおよび重度も悪化している。
- ロマ：教育、保健サービス、所得機会などが制約されるなど、人種差別に基づいた歴史的な社会的排除にさらされている少数民族である。

各エンティティ政府は、貧困層および社会的弱者層に対し、社会給付金による支援を行っているものの、「WB 貧困アセスメント（2009年）」では、こうした社会給付プログラムによるターゲティングは不十分であり、貧困層に行きわたっておらず、かなりの金額が貧困層以外に流れていると指摘している。なお、社会プログラムの対象範囲の問題については、第4章において詳しく議論する。

²⁰ UNDP, “National Human Development Report 2007: Social Inclusion in Bosnia and Herzegovina” (2007)

²¹ ルーケン指標は、2000年12月の欧州委員会（EC：European Commission）の会合において、「社会的包摂」に関するアジェンダへのコミットメントが改訂された後、EUの社会的包摂のモニタリング・評価の枠組みの中核をなすものとして設定された。ルーケン欧州委員会は、EUの目的に向けて、加盟各国の進捗状況を比較可能な形でモニタリングするために、社会的包摂に関する共通の統計指標として、18の指標を承認した。これらの指標は、経済的貧困、雇用、保健および教育の社会的包摂に関する4つの重要な側面をカバーしている。

2.2 脆弱性分析

2.2.1 人間社会的排除指数（HSEI : Human Social Exclusion Index）

国連開発計画（UNDP : United Nations Development Program）は、人間開発指数（HDI）のアプローチに基づいて、社会的排除の測定方法を開発した。社会的排除は多面的な問題であるため、定量的にこれを計測することは非常に困難である。そのため、UNDP は、社会的排除に関する調査を実施し、人間開発および EU の枠組みの中で社会的排除についての推定を行った。

「ボスニア・ヘルツェゴビナ国別人間開発報告 2007 年」(“National Human Development Report 2007”) では、UNDP は、生活水準、健康、教育、社会への参加およびサービスへのアクセス、といった 5 つの社会的排除の側面を網羅した、人間社会的排除指数（HSEI : Human Social Exclusion Index）の推定値を算出している。BiH 全体では、HSEI の推定値は 50.32 であり、これは、人口全体の 50%以上が社会排除に苦しんでいることを示している。

UNDP はまた、農村・都市部およびエンティティレベルでの HSEI を推定している(表 2-1)。HSEI は、それぞれ都市部 50.20、農村部 50.46 であった。HSEI で測定された社会的排除のレベルには、都市・農村間格差は見られないが、社会的排除の要因は、都市部および農村部でそれぞれ異なっている。都市部においては、国全体に比して長期的な失業の割合が高く、選挙における投票を通じた社会参加の割合が低いことが、社会的排除の割合を押し上げている要因となっているが、農村部においては、選挙棄権者の割合を除き、全ての指標が国全体の水準を上回っている。

表 2-1 : 人間社会的排除指数（HSEI）の推定値（2007 年）

側面 指標 人口比(%)	生活水準		健康	教育	社会への参加		サービスへの アクセス	指数 HSEI
	貧困ライン 以下の人口	長期失業者	健康保険費 加入者	初等教育を 受けていない 人口	選挙 棄権者	社会組織の活動に 参加していない 人口	電話の無い 住宅	
国全体	34.6	21.7	18.3	11.3	43.6	90.7	15.6	50.32
都市部	33.9	22.0	17.9	7.4	44.3	90.5	12.1	50.20
農村部	35.1	21.3	18.6	14.3	43.1	90.9	18.2	50.46
FBiH	31.7	20.8	17.0	12.6	45.0	92.4	11.4	51.01
RS	39.2	22.4	21.0	9.1	42.6	87.9	22.2	49.50
ブルチコ行政区	28.4	25.8	3.6	17.7	25.5	98.2	8.4	52.45

(出所) UNDP, “National Human Development Report 2007: Social Inclusion in BiH” (2007), p.181, Table 38

エンティティ別では、RS の HSEI が最も低く、49.5 であった。これは、他のエンティティに比して、比較的社会的排除の水準が低いことを意味している。RS においては、所得貧困の割合と電話が無い世帯の割合が、他のエンティティを上回っているが、他のほとんどの指標は比較的低い水準である。ブルチコ行政区は、HSEI が最も高く、52.45 であった。ブルチコ行政区では、ほとんどの指標が他のエンティティを下回っているものの、社会組織への不参加率が非常に高く、HSEI を押し上げる要因となっている。FBiH の HSEI は 51.01 で

あり、国全体の水準を若干上回っている。

2.2.2 人間開発指数および人間貧困指数²²

人間開発の側面から見ると、BiH の国民の脆弱性は改善している。人間開発指数（HDI：Human Development Index）は、2003年 0.793 から 2008年 0.814 に上昇した（表 2-2）。成人識字率を除く、HDI を構成する指標のほとんどは 2003年から 2004年にかけて改善し、2008年には若干低下している。国全体の HDI の改善には、教育指標と 1人当たり GDP の改善が貢献している。

国際比較でみると（表 2-2）、2007年の BiH の HDI は 0.812 で、HDI ランキング全 182か国中 76位であった²³。近隣のアルバニアとセルビアとの比較では、セルビアが 0.826 で 67位、アルバニアが 0.818 で 70位であり、BiH の HDI はこれらの国々に比して若干下回っている。BiH では、長く国勢調査が実施されていないため、平均余命などの指標が実態を反映しているものであるかなどの疑問があるが、近隣国とそれほど大きな格差はないと見られる。

表 2-2：人間開発指数（HDI）（2003～2008年）

指標	BiH			アルバニア	セルビア
	NHDR 2003	NHDR 2004	NDHR 2008	2007	2007
出生時平均余命（年）	74.1	74.3	74.43	76.5	73.9
成人識字率（%）	96.70	97.10	96.70	99.0	96.4
合成総合粗就学率（全ての教育水準を含む）（%）	68.00	69.0	74.78	67.8	74.5
1人当たり GDP（PPP ドル）*	6,250	7,230	7,611	7,041	10,248
平均余命指数	0.818	0.822	0.824	0.858	0.816
教育指数	0.871	0.877	0.894	0.886	0.891
GDP 指数	0.690	0.714	0.723	0.710	0.773
HDI	0.793	0.804	0.814	0.818	0.826

（出所）UNDP, “National Human Development Report 2009: Social Capital in BiH” (2009), p.108, Table A2.5
および”Human Development Report 2009”(2010), p. 172

（注）*PPP（Purchasing Power Parity）は購買力平価。

他方、BiH の人間貧困指数（HPI：Human Poverty Index）は、2003年 13.86 から 2008年 16.12 に悪化した（表 2-3）。このことは、人間貧困にあえいでいる人口の割合が、この間に増加したことを示している。HPI の悪化は、長期失業者の増加によるものである。所得貧困率および成人の機能的非識字率²⁴の水準はほとんど変わっておらず、また、60歳以上生存できない人口の割合は、13.6%から 12.68%に改善している。しかし、長期失業率は 12.3%から 20.22%と大幅に悪化した。したがって、BiH においては、長期失業率は、人々を人間貧困に陥らせる非常に大きなリスクであるといえる。

²² 別添 1 参照。

²³ 2007年の HDI ランキング 1位はノルウェー0.971、最下位 182位はニジェール 0.340 である。

²⁴ 日常生活に必要な基本的な読み書きや計算能力。

表 2-3 : 人間貧困指数 (HPI-2)

(%)

指数	BiH		
	NHDR 2003	NHDR 2004	NHDR 2008
60歳まで生存できない確率	13.60	13.50	12.68
成人の機能的非識字率 (16-65歳人口)	3.30	2.90	3.30
所得貧困ライン (所得中央値の50%) 以下の人口の割合	18.4	17.8	18.6
長期失業率 (労働人口に占める割合)	12.3	13.7	20.22
HPI-2	13.86	13.88	16.12

(出所) UNDP, “National Human Development Report 2009: Social Capital in BiH” (2009), p.110, Table A2.7

2.2.3 脆弱性とネットワーク貧困 (Network Poverty)

UNDP の NHDR 2009 年²⁵では、「ネットワーク貧困」(“network poverty”) が、脆弱性や社会的排除に結びつく、貧困、失業、ホームレス、不健康、その他の窮乏状態の重要なリスク要因となっており、場合によっては「ネットワーク貧困」そのものが脆弱性あるいは社会的排除の主原因となっていると指摘している。「ネットワーク貧困」の定義は、以下の通りである。

「ネットワーク貧困層は、健康、情緒面での支援、情操開発および情緒面での成熟の確保、仕事、収入、地位および高いレベルでの消費の確保、あるいは一定の快適さを伴う長寿を全うすべき人生の過程において、最適な社会的ネットワークの形態を持たない個人をさす。」

すなわち、「ネットワーク貧困」とは、助けや支援を必要とするときに、社会的な絆やネットワークを当てにすることができない状態にあることを意味している。

NHDR 2009 年では、「ネットワーク貧困」は物質的な貧困と密接に関連しており、「ネットワーク貧困」である人々は、必要とする支出を賄うことができないため、物質的な貧困の割合が高いことを示している。

表 2-4 は、民族別の「ネットワーク貧困」の物質的貧困へのインパクトを示している。主要民族と少数民族の比較を行うと、後者は前者に比して、十分な消費ができない物質的貧困の状況にあえいでいる。少数民族では、社会との絆が弱く、物質的な貧困をもたらす「ネットワーク貧困」の割合が高い。

NHDR2009 年のアセスメントでは、「ネットワーク貧困」と社会的排除のリスクが高いグループを特定している。高リスクのグループとして、避難民 (IDP : Internal Displaces Persons) 向けセンターの住人、少数民族帰還難民²⁶、孤立した高齢者が上げられている。

²⁵ UNDP, “National Human Development Report 2009: The Tines That Bind: Social Capital in BiH” (2009)

²⁶ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR : United Nations High Commissioner for Refugees) の定義では、BiH

表 2-4：生活水準（下記の費用をまかなうことができない人の割合）

(%)

	常時適切な暖房を利用する	休暇で年に1度は旅行に出かける	古くなった家具を買い換える	2日に1度は、肉、鶏肉あるいは魚を食べる	古着ではなく新品を買う	月に1度、友人や家族と食事や飲みに出かける
BiH 全体	13.6	61.7	60.8	31.3	38.4	21.9
居住地域における多数派民族	12.3	59.6	59.5	30.2	35.9	19.5
居住地域における少数民族	19.1	74.8	68.2	43.2	50.0	37.4

(出所) UNDP, “National Human Development Report 2009: Social Capital in BiH” (2009), p.52, Table 4.2

における「少数民族帰還難民」とは、戦時中に避難し、避難先から帰還した人々で、現在居住している場所において少数派である少数民族」とされている。

第3章 貧困に影響を与えている要因

3.1 国内要因

3.1.1 国家開発政策と公共支出

BiHでは、政府財政における主に2つの課題を抱えている。ひとつは、現在有効な国家戦略がないことであり、もうひとつは、過度に分権化され、複雑化している行政構造である。国家戦略がないために、戦略的な優先課題と予算配分、あるいは公共支出との関係が不明確となっている。BiH政府は、2008年から2013年までを対象とした「国家開発戦略（CDS：Country Development Strategy）」と「社会的包摂戦略（SIS：Social Inclusion Strategy）」を策定中であるが、未だ公式に承認されていない。

国連機関による「国連国別共通アセスメント（CCA：UN Common Country Assessment）2008」によれば、CDSで提案されている目標は、以下の通りである。

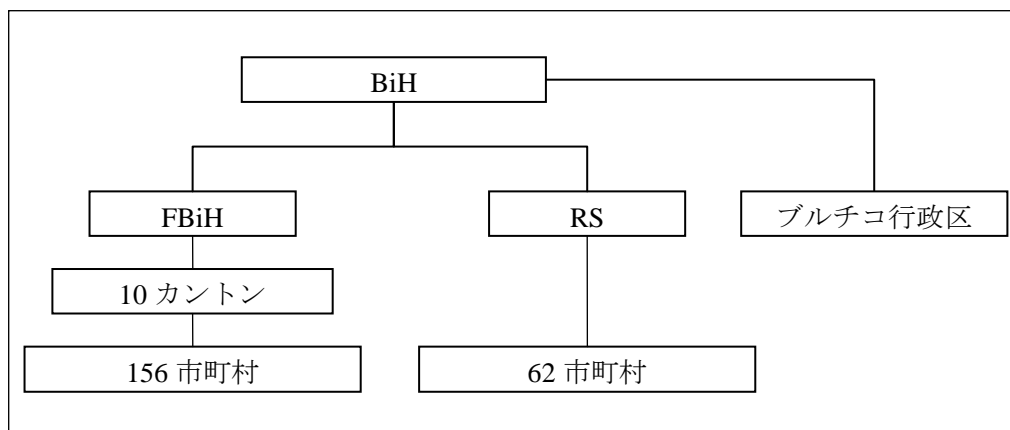
- ・ マクロ経済の安定強化
- ・ 持続可能な成長
- ・ 競争力強化
- ・ 雇用
- ・ EU統合
- ・ 社会的包摂

CDSの最後の目標である「社会的包摂」に関する戦略は、社会的包摂戦略（SIS）を基に作成されている。社会的包摂戦略（SIS）では、5つの主要目標を掲げている。

- ・ 年金政策の改善
- ・ 子供のいる家庭に対する社会保障制度の改善
- ・ 医療制度の改善
- ・ 教育制度の改善
- ・ 雇用と社会保障

1章冒頭で触れたとおり、BiHには3つのレベルの行政機構が存在する。中央政府に加え、2つのエンティティ、FBiHとRSがあり、それぞれ独自の政府機構を有している。さらにブルチコ行政区にも独自の政府が置かれている。加えて、FBiHの中には10のカントンがあり、これらのカントンもまた独自の政府機構を有しており、10カントンそれぞれに、10から12の省が設置されている。RSは中央集権体制であるが、62の地方自治体（Municipality）が地域に関連する事項を取り扱っている。こうした地方分権体制は、巨額の一般財政支出の原因となっている。また、WBは、こうした巨額の公共支出の要因として、政府機能全体に亘る非効率な分配を指摘している。こうした非効率な財政は、一方で、予定されていた社会福祉や子供の保護の資金不足や既存の資本プロジェクト（インフラなど）の維持管理費不

足なども引き起こしている²⁷。



(出所) 調査団作成

図 3-1 : BiH の行政機構

社会保障に関する欧州委員会 (EC : European Commission) の報告書 (2008 年)²⁸によれば、社会保障や失業、年金、健康保険などの社会保険制度は、資金面、運営面、また給付金の支給に関し、エンティティごとに実施されている。社会保険に関する公共支出において、2つのエンティティでは、以下の4点の違いが見られる。

- ・ 社会保険給付のタイプや適格者に関する違いがある。
- ・ **FBiH** では、一般的に支出が多く、収入 (社会保険料) も支出 (支給される給付金) も高い。
- ・ 年金保険については、主な違いは予算による補填の有無である。**RS** では年金支出への予算による補填は、支出の 35%程度であるのに対し、**FBiH** の年金制度は、ほぼ全額保険料で賄われており、政府予算による補填はない。
- ・ 健康保険に関しては、主な違いは年金受給者の健康保険の資金調達である。**FBiH** における年金受給者の健康保険料率と収入は **RS** に比べて非常に低い。

また、EC の報告書では、GDP に占める社会保障に対する公共支出の割合が、**BiH** は EU8 カ国の平均と比べ高いことが指摘されている。この統計から、公共サービスの質までは評価できないが、**BiH** では、社会保障やその他の公共支出が過大であるとしている。

²⁷ World Bank, “Bosnia and Herzegovina: Addressing Fiscal Challenges and Enhancing Growth Prospects – A Public Expenditure and Institutional Review” (2006)

²⁸ European Commission, “Social Protection and Social Inclusion in BiH”(2008), p.21

表 3-1 : BiH の公共支出 (2006 年 GDP 比)

(%)

GDP 比 (%)	連結政府支出		公共 サービス	軍事・治安		教育	保健	社会保障		経済
	合計	基礎		合計	軍事			合計	年金	
BH	52.6	51.9	7.7	7.2	2.4	6.2	7.0	15.1	8.4	4.3
EU-8	40.8	38.9	6.1	3.5	1.7	5.1	4.7	15.9	8.8	4.5

(出所) European Commission, "Social Protection and Social Inclusion in BiH" (2008)

さらに WB は、BiH 政府は社会保障制度を、持続可能で、最も弱い立場に置かれている人々を対象にしたセーフティネット制度とする必要があるにもかかわらず、この数年間、そのような取り組みがなされてこなかったとして、現行の社会保障制度の非効率性を指摘している²⁹。2007 年に導入された新たな退役軍人年金制度は、受給者の経済状態にかかわらず給付されるものであり、最も弱い立場に置かれた人々を対象にしていない。例えば、受勲退役軍人は、一般的に比較的裕福であることが多いが、彼らも受給者に含まれている。また、失業者として登録されている除隊兵士を雇用しなければならないため、一般市民が労働市場から排除されている。

なお、BiH 経済は世界経済危機の打撃を受け財政状況が悪化したため、BiH 政府は国際通貨基金 (IMF : International Monetary Fund) に支援要請を行ったが、IMF はスタンドバイ取極の条件のひとつとして、この非効率な社会給付制度の改革を挙げている³⁰。そのため、制度改革がなされなければスタンドバイ・ローンは予定通り貸付されないことになる。

3.1.2 産業構造と雇用

労働力統計によれば、2009 年の BiH の就労率は 33.1% と極めて低い水準である。エンティティ別に見ると、RS の就労率は 37.2% であり、BiH 全体の水準を上回っており、FBiH (30.9%) やブルチコ行政区 (27%) よりも高い。

表 3-2 : エンティティ別労働市場の状況

	BiH (全国)			FBiH			RS			DB		
	2007	2008	2009	2007	2008	2009	2007	2008	2009	2007	2008	2009
労働力人口比率(%)*	43.9	43.9	43.6	42.3	42.4	41.6	47.0	47.0	47.4	39.0	36.8	38.1
就労率 (%)	31.2	33.6	33.1	29.2	31.8	30.9	35.1	37.3	37.2	23.4	25.1	27.0
失業率 (%)	29.0	23.4	24.1	31.1	25.0	25.7	25.2	20.5	21.4	40.0	31.9	29.2
全人口 (千人)	3,315	3,211	3,129	2,101	2,043	1,974	1,155	1,109	1,096	59	59	59
労働力 (千人)	1,196	1,162	1,132	722	703	674	455	441	439	19	18	19

(出所) BHAS, "Labour Force Survey 2009" (2009), p.24-25

(注) * 労働力人口比率は、労働可能人口に占める、学生や退職者を除いた労働力人口 (経済活動人口) の比率。

²⁹ WB との面談 (2010 年 6 月 10 日)。詳細は、World Bank, "Protecting the Poor during the Global Crisis: 2009 BiH Poverty Update" (2009), p.42-48 を参照。

³⁰ スタンドバイ・ローン供与のために優先的に実施すべき事柄として、FBiH における除隊兵士に対する特別失業給付金制度の廃止や、社会保障支出に占める割合の高い退役軍人年金制度の改革にかかる行動計画 (Action Plan) の策定などを求めている。(International Monetary Fund, "Staff Report on First Review Under the Stand-by Arrangement" (2010), p.15)

業種別の就労者に目を向けると、最も高い比率を占めているのはサービス業の従事者である（2009年47.3%）。2009年には国全体で、農業は全就労者の21.2%を占めており、工業は31.5%である。就労者におけるジェンダーの格差については、工業とサービス業で大きな差が見られる。2009年には、工業では男性は40.4%を占めるのに対し、女性は16.4%に過ぎない。逆に、サービス業では女性は57.9%を占めるが、男性は41.1%である。

表 3-3：業種別・性別就労人数（全国）

（千人）

	全体			男性			女性		
	2007	2008	2009	2007	2008	2009	2007	2008	2009
農業	168	183	182	106	113	100	62	71	82
工業	277	289	270	224	230	218	53	59	52
サービス業	404	418	406	227	230	222	177	188	184
合計	850	890	859	557	573	541	292	317	318
構成 (%)									
農業	19.8	20.6	21.2	19.0	19.6	18.6	21.3	22.3	25.8
工業	32.6	32.5	31.5	40.2	40.2	40.4	18.1	18.5	16.4
サービス業	47.6	47.0	47.3	40.8	40.2	41.1	60.6	59.2	57.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（出所） BHAS, “Labour Force Survey 2009” (2009), p.38-39

ECの報告書（2008年）³¹によれば、1991年と比べ、経済構造は劇的に変化している。1991年から2007年の間、製造業では20万人以上の職を失った。同時に、農業従事者数が約5倍に増加した。なお、2007年のサービス業従事者数は、ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争前と同レベル程度にまで回復している。

紛争前の旧ユーゴスラビアにおいては、各労働者が工場などの所有権を有していた³²。現在、多くの被雇用者が仕事も給与も支払われない状態で、倒産した企業に所属し続けている。こうした現象の背景として、退職してしまうと、新たな雇用を得ることが難しい上、社会保障の権利を失ってしまうことがある。特に50歳以上の人々にこういった「待機状態」にある人々が多く、その意味で社会的に脆弱であると言える。BiHの社会政策では、特段、健康上の問題も抱えておらず、失業者でもない、こういった人々は支援対象とされていない。また、こうした「倒産企業」の民営化による活性化が必要な状況であるが、企業買収に際しては、既存の労働者の雇用を守り、未払い賃金や税金、社会保障保険料の支払いを買収した企業が行い、社会保障の権利を保障することが条件となっており、民間投資を阻害する要因となっている。

³¹ European Commission, “Social Protection and Social Inclusion in BiH” (2008), p.17

³² 旧ソ連などの社会主義国では、国家の所有である。

3.1.3 紛争後社会の後遺症

Oxford Research International と UNDP が 2007 年に実施した調査³³では、以下に示すとおり、BiH が非常に分断された社会であることが示されている。分断された社会であることは、紛争の負の遺産のひとつであり、BiH のガバナンスや開発に影響を与えているとしている。

- BiH の人々は、他人をあまり信用しない。しかし、他人を信用すると回答としたのは、調査アンケート回答者の 7.2%にとどまり、事実上、社会的信頼関係に亀裂があることは明らかである。
- 信頼関係に関する国際比較では、世界的に変貌を遂げつつある国々の中で、BiH は最下位であることを示している。
- 同様に、公正についても、BiH は国際比較で最下位に近い。BiH では、他人から公正に扱われることを期待しているのは、10 人中 2 人のみである。

表 3-4：社会的信頼関係と公正に関する国際比較

信頼関係：他人を信頼できるか		公正：他人から公正に扱われているか	
中国	54.5	中国	79.6
ベトナム	41.1	ベトナム	72.6
モンテネグロ	33.7	セルビア	48.4
アルバニア	24.4	モンテネグロ	15.0
セルビア	18.8	キルギス	44.6
キルギス	16.7	アルバニア	42.5
モルドバ	14.6	マケドニア	30.6
マケドニア	13.7	BiH	19.2
BiH	7.2	モルドバ	16.8
その他（参考値）		その他（参考値）	
ドイツ（東）	43.4	スウェーデン	87.4
ドイツ（西）	31.9	アメリカ	61.7

（出所）Oxford Research International and UNDP, “The Silent Majority Speaks: Snapshots of Today and Visions of the Future in BiH” (2007), p.14

同調査によれば、人々はまた、体制の変化が必要であると感じているが、変化に対する考え方は様々であり、人々は変化の必要性を認識しながらも、国家建設についての統一した認識を欠いている。しかしながら、国民の大半は、新しい政治体制、望ましくは国家全体をひとつにまとめる中央集権体制を望んでおり、現状維持や、BiH の分裂、ユーゴスラビアの再現、3つのエンティティという体制は、望んでいない。

このような状況に対し、ドナーは民族間の和解や国家建設のために様々な支援をしてきているが、特に 1995 年から 98 年の紛争中に被害が大きかったイスラム系社会に支援が集中

³³ Oxford Research International and UNDP, “The Silent Majority Speaks: Snapshots of Today and Visions of the Future in BiH” (2007)

しているという指摘もある³⁴。

3.2 地政学的要因

3.2.1 国外避難民 (Refugee) と国内避難民 (IDPs : Internal Displaced Persons)

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR : United Nations High Commissioner for Refugees) によれば、220 万人が戦争中に強制的に避難せざるを得なかったと推定されている³⁵。1995 年から 2008 年までの間に、100 万人以上の国外避難民 (Refugee) や IDP が紛争前に暮らしていた故郷に戻っている。近年、帰還民の数は収束しつつある (表 3-5)。

表 3-5 : BiH における国外避難民と IDP の帰還 (1996~2008 年)

	国外避難民					IDP				
	BiH	クロアチア	セルビア	その他	合計	BiH	クロアチア	セルビア	その他	合計
1996	76,385	3,144	8,477	33	88,039	101,402	505	62,792	42	164,741
1997	74,756	33,568	11,136	820	120,280	39,447	10,191	8,452	205	58,295
1998	78,589	23,187	6,765	1,459	110,000	15,806	4,325	9,139	300	29,570
1999	18,440	6,299	6,332	579	31,650	24,907	6,760	11,315	403	43,385
2000	7,633	4,834	5,303	837	18,607	36,944	7,779	14,175	449	59,347
2001	4,642	4,244	9,155	652	18,693	48,042	5,960	25,734	436	80,172
2002	12,592	5,933	18,220	389	37,134	41,511	5,319	23,215	730	70,775
2003	5,257	2,852	5,482	421	14,012	21,861	2,267	16,023	152	40,303
2004	976	450	942	74	2,442	12,976	1,028	3,888	56	17,948
2005	805	151	314	3	1,273	3,540	437	1,177	10	5,164
2006	1,098	146	158	17	1,419	3,121	233	826	4	4,184
2007	1,359	1,579	121	3	3,063	3,002	618	895	1	4,516
2008	880	23	55	8	966	509	12	183	11	715
合計	283,412	86,410	72,460	5,295	447,577	353,068	45,434	177,814	2799	579,115

(出所) UNHCR, “Statistics Package” (2008)

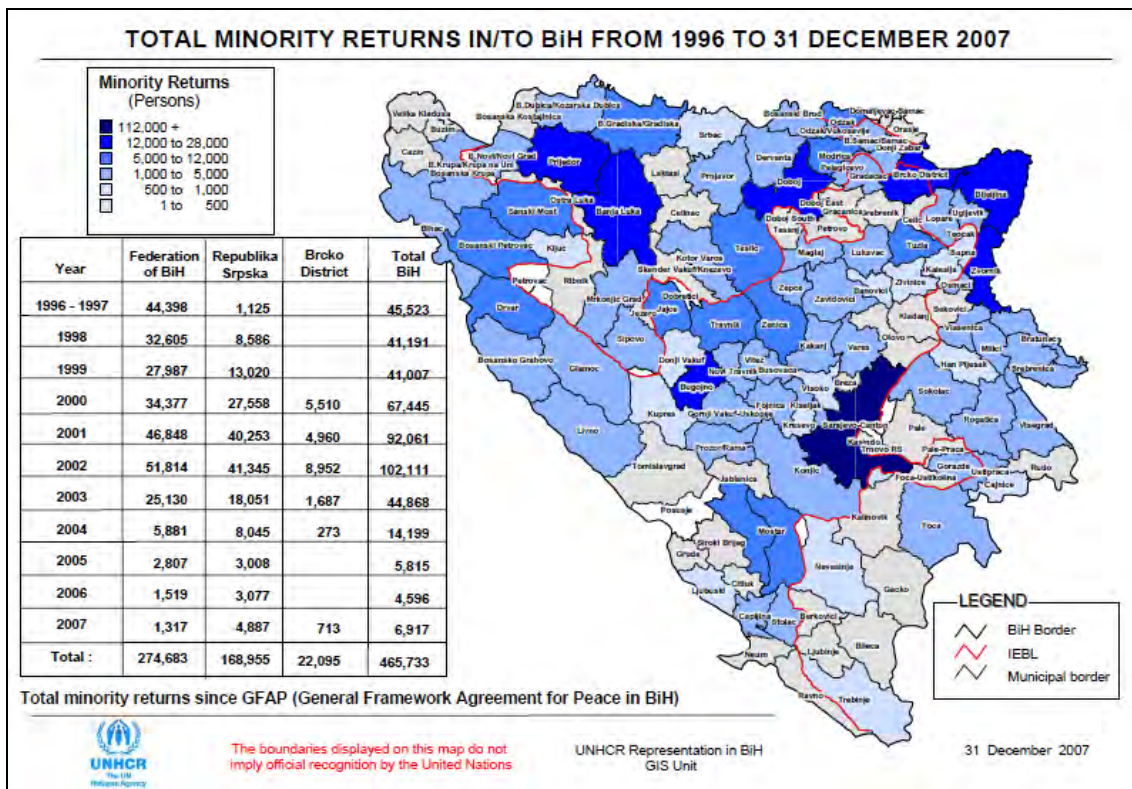
(注) 引用した元データに計算ミスがある可能性がある。

少数民族の帰還民の地域的な分布を見ると、大多数がサラエボ・カントンに戻っており、続いてバーニャルカ、モスタル、ブルチコ行政区のような主要都市や地域への帰還民が多い (図 3-2)。

帰還民については、特に集団センター (Collective Center) と呼ばれる一時収容所で生活する人々の失業や社会保障が問題となっている。この点については、4.1.4 で後述する。

³⁴ 特に、中東からの支援はイスラム系社会に偏っているという指摘もある。中にはイスラム急進派運動による若年層失業者に対する生活費扶助のような支援もあると言われている。

³⁵ UNHCR, “Update on Conditions for Return to BiH” (2005)



(出所) UNHCR, “Statistics Package” 31 December 2007

図 3-2 : BiH への全少数民族帰還民 (1996 年～2007 年 12 月)

3.3 グローバル化における要因

3.3.1 世界経済危機の影響

2005 年から 2008 年にかけて、BiH は約 6% の力強い経済成長を達成した。こうした経済成長により、貧困は 2004 年の 17.1% から 2007 年には 14% にまで削減された。しかしながら、BiH の経済活動は、世界経済の低迷を受けて 2008 年の終わり頃から減速し始めた。2009 年になると、RS の石油精製とエネルギーを除く全てのセクターに亘って大きく減速した³⁶。その影響は、BiH の輸出需要や外国直接投資 (FDI : foreign direct investment) の減少にも及んだ。さらに、金融セクターにも影響し、貸し渋りが生じている。

2009 年の実質 GDP 成長率は、マイナス 3.4% と予測されている。しかしながら、2010 年には 0.5% とわずかではあるが、プラス成長に回復しつつある (表 3-6)。

³⁶ International Monetary Fund, “Staff Report of the First Review Under the Stand-By Arrangement” (2010), p.4

表 3-6 : 主要マクロ経済指標 (2005~2010 年)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010
					予測	予測
実質 GDP 成長率 (%)	3.9	6.9	6.8	5.4	-3.4	0.5
CPI (変化率%, 平均)	3.6	6.1	1.5	7.4	-0.4	1.6
経常収支	-18.0	-8.4	-12.7	-14.9	-7.5	-7.3
一般収支	0.8	2.2	-0.1	-4.8	-5.3	-4.5
外貨準備高 (輸入額の月数) *	4.0	4.3	4.7	5.7	5.3	5.4
純対外債務	51.3	47.9	47.5	48.9	53.0	58.3
公共負債	25.6	22.0	29.8	30.8	33.4	38.1

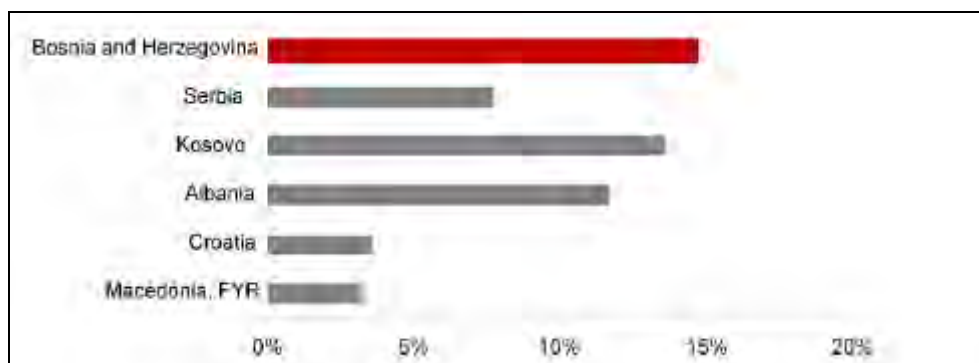
(出所) Interntaional Monetary Fund, “Request for Stand-By Arrangement and IMF, 2010, Staff Report of the First Review Under the Stand-By Arrangement” (2009)

(注) * 外貨準備は、1 ヶ月当たりの輸入額で序した月数。輸入代金を何か月分賄えるかを見る指標。

BiH 経済は、マクロでは回復しつつあるものの、雇用不安や海外送金の減少により家計所得が減少する可能性が考えられ、今後、脆弱性が高まる可能性が指摘されている。さらに、ここ数年で多目的な消費者ローンや住宅ローンが BiH では増大したが、特に消費者ローンの多くは外貨建ての変動金利であるため、金利が上昇し、そのために返済不能に陥る可能性も指摘されている。しかし、現状、貧困への影響は明確には現れておらず、今後の動向を注視する必要がある。

3.3.2 出稼ぎ労働と海外送金

BiH の海外送金の GDP に占める割合は、西バルカン諸国の中で最も高い。2008 年の海外送金額は、約 15% と推定されている。



(出所) World Bank, “Protecting the Poor during the Global Crisis: 2009 BiH Poverty Update” (2009), p.37, Figure 3.10

図 3-3 : 西バルカン諸国における GDP に占める海外送金の割合 (%)

EC の報告書 (2008 年)³⁷によれば、海外送金額は 2008 年 22~24 億マルカ (11~12 億ユーロ) と推定される。しかし、かなりの割合が公式の手続きを経ず、現金で直接持ち込まれ

³⁷ European Commission, “Social Protection and Social Inclusion in BiH” (2008), p.30-31

るので、BiH 中央銀行はその一部しか把握できていない。WB 貧困アセスメント（2009 年）によれば、家計調査（HBS）のデータでは海外送金総額は低く推定されているとしている。HBS のデータでは、海外送金を受けている世帯は全体の 8%にとどまっており、また、消費の 6%に過ぎないが、これは GDP に占める海外送金のシェアの推定値の半分以下である。

表 3-7：海外送金の主要な資金源

資金源	内容
支援をしてくれる家族（第一世代の移民、非 BiH 住民）	第一世代の移民は、依然として BiH に居住する家族と強いつながりがある。しかし、このつながりは、世代が新しくなるにつれ弱まると見られ、BiH の社会的弱者や未開発の地域の問題を長期的に解決するものではない。
一時的な出稼ぎ者（一時的・季節労働者、BiH 住民登録者）	家族への仕送りが移民の目的である。こういった人々は、しばしば BiH では失業者として登録されており、様々な社会保障を受けている場合もある。
海外の年金（直接受給者の国内外にある個人口座に振り込まれるもの）	ドイツ、オーストリア、スイスの年金など海外の年金の多くは、直接受給者の個人口座に送金される。年金受給者は、これらの国に居住者として登録されたままになっていることが多い。海外の年金の一部は、BiH の年金システムを通じて支給されており、そのほとんどは旧ユーゴスラビアの他の共和国で給付されていた年金であるが、全体に占める割合は極めて低い。

（出所） European Commission, “Social Protection and Social Inclusion in BiH” (2008)

表 3-7 に示されているように、海外送金の主な資金源は、1) BiH に住民登録していない家族、2) 一時的な出稼ぎ者、3) 海外の年金である。しかしながら、1 番目のケースでは、家族のつながりが、世代が代わるにつれ、弱まっている。第 2 のケースもまた、世界経済危機のような外部要因に対し脆弱である。第 3 のケースも送金を受ける家族にとって、持続可能なシステムではない。

WB 貧困アセスメント（2009 年）では、消費階層 5 分位による海外送金の被覆率と海外送金を受けている者の分布を分析している。これによれば、階層間で被覆率に関する差はあまり見られないが、海外送金の規模についてはかなり格差がある。2007 年の被覆率に関しては、海外送金を受けていたのは、消費水準が最も高い、消費階層最上位 20%に相当する第 5 分位層の世帯の 6.6%、消費水準が最も低い、最下位 20%の第 1 分位層の世帯では 8.8%であった。海外送金の受益者に占める割合が最も大きいのは、第 1 分位層であり（24.3%）、第 5 分位層の占める割合は最も小さかった（18.1%）。また、第 5 分位層の送金規模は 41.4%にとどまっており、これは、第 1 分位層の送金規模の約 20%に過ぎない。これらのことから、同国においては、海外送金が低所得者層の生活水準を維持するために充てられていることが示唆されている。

表 3-8 : 海外からの送金

(%)

消費階層 5 分位	被覆率		受益者の分布		規模*	
	2004	2007	2004	2007	2004	2007
第 1 分位層 (最下位 20%)	6.2	8.8	19.6	24.3	254.0	195.2
第 2 分位層	6.2	6.9	19.5	19.0	144.4	193.9
第 3 分位層	5.7	6.8	18.0	18.6	172.0	170.5
第 4 分位層	6.1	7.3	19.1	20.0	71.6	78.2
第 5 分位層 (最上位 20%)	7.6	6.6	23.8	18.1	39.3	41.4

(出所) World Bank, “Protecting the Poor During the Global Crisis: 2009 BiH Poverty Update”(2009), p.70, Table Annex2.3

(注) 規模 (Generosity) は各 5 分位層の全ての受益者が、その層の受益者の福利合計のシェアとして受け取った送金額のシェアの平均値である。規模 (Generosity) は、拡張係数 (世帯規模を乗じた世帯拡張係数) を設定し計算される。

3.3.3 EU 統合

BiH は、EU 加盟の潜在的候補国である。EU-BiH 安定化連合協定 (SAA : Stabilisation and Association Agreement) は、2008 年 6 月に締結されている³⁸。しかし、EC は、以下の通り、2009 年進捗報告³⁹で BiH の状況を厳しく評価している。

紛争の和平合意を行った Dayton 協定により構築された制度は、各エンティティの思惑に左右され、うまく機能しておらず、EU 加盟に関連する改革は、あまり進捗していない。改革の優先課題については、ほとんどコンセンサスがなく、既になされた合意より後退する動きすらある。行政機能がより円滑に運営され、より機能的で効率的な国家を築き、そして EU や他の外交問題について統一した見解を表明するためにも、国家の方向性に関する共通のビジョンが必要とされている。

前項で言及したように、同国が国家としてのまとまりに欠けていることが、大きな障害となっているが、国連機関による「国別共通アセスメント (CCA)」では、EU 統合プロセスを共通のビジョンづくりを行う契機となりうると指摘している⁴⁰。

EU 統合プロセスは、国家統合の契機となる可能性を秘めているのみならず、本章冒頭で述べた EU 統合のために必要とされる社会的包摂への取組みがなされ、社会的包摂戦略 (SIS) が承認・実施により、社会的弱者にとってより暮らしやすい社会を創り出すことが期待される。ただし現時点では、共通のビジョンがないことが大きく影響し、社会的包摂戦略 (SIS) の策定を始め、必要な改革などが遅れており、社会的弱者がその恩恵に浴するまでには至っていない。

³⁸ European Commission, “BiH 2009 Progress Report” (2009)

³⁹ European Commission, “BiH 2009 Progress Report” (2009), p. 4-5

⁴⁰ United Nations Country Team, “Common Country Assessment BiH 2008” (2008)

第4章 社会保障メカニズム

4.1 公的保障

前章で述べたとおり、BiH は、3年間の紛争の後、1995年12月に締結された Dayton 協定により設立された複雑な政治構造、行政機構を抱えている。2003年には内務省が国家レベルで設置され、国内事項の調整、社会保障制度や国外避難民の帰還（主な責任はエンティティに委譲されているものの）に関する国際関係、他国との社会保障にかかる合意を管轄している。同省は行政能力が低く、各エンティティの事前合意がなければ、実施に移すことが困難である。人権・国外避難民省もまた、国外避難民や IDP の社会福祉を国家レベルで調整している。

BiH の社会保障制度には、社会保険 (*socijalno osiguranje*)、社会扶助 (*socijalna pomoć*)、家族・児童扶助 (*porodični dječija zaštita*)、および退役軍人の保護 (*boračka zaštita*) が含まれる。社会保険制度の中には、年金と負傷兵保険 (*penzijsko i invalidskoosiguranje*)、健康保険と健康保障 (*zdravstveno osiguranje i zdravstvena zaštita*)、および失業保険 (*osiguranje za slučaj nezaposlenosti*) がある。

中央政府は、立法と計画の責任者であり、社会保障の給付基準を決定している。社会保障制度関連法規としては、社会保障の枠組み法、一般市民の戦争被害者の保護に関する法、子供のいる世帯の保護に関する法がある。しかしながら、社会保障制度の運営は、完全にエンティティ政府の責任範囲である。社会保障制度はさらに、各エンティティにおいて地方政府レベルに委任されている。RS では、RS 政府から地方自治体 (*municipality*) 経由、FBiH では、連邦政府からカントンを經由して給付される。

FBiH では、労働・社会政策省が社会福祉サービスの提供を行っているが、実施は主にカントンレベルで行われている。FBiH の社会保障に関する枠組み法は、社会保障の最低水準を設定している。カントンは、その枠組み法の枠内の水準で社会保障給付金の額を設定する。そのため、カントンによって社会保障給付金の額に大きな違いが生じている。

RS では、基本となる法律は、社会保障法、児童保護法、家族法である。社会保障を運営する実施機関は、地方自治体 (*municipalities*) である。主に地域で活動している機関は、社会事業センター (*CSW : Centres for Social Work*) である。RS には、地方自治体の管理の下、社会事業センター (*CSW*) が 44 あり、社会事業センター (*CSW*) のない地方自治体には、地方自治体の社会福祉部が 17 ある。戦争負傷者の保護と退役軍人に関しては、労働・退役軍人省の管轄である。同省では、戦争負傷者と退役軍人の社会保障と健康保険を担当している。

RS では、社会保険料は雇用主によって支払われるが、FBiH では、雇用主と被雇用者の双方が負担している。FBiH には、産休手当はないが、RS では給与相当額の産休手当が支払われる。それぞれのエンティティに、異なる賦課方式の年金基金がある。このようなエンテ

ィティによる法律の調和の欠如が、社会保障のあらゆる分野において問題を引き起こしている。

BiH で社会保障制度が直面している主な課題は、社会給付金の大部分が、退役軍人とその扶養家族の保護を目的とする権利に基づくプログラムに占められているということである。退役軍人に関連する給付金は、非拠出制社会保障⁴¹現金給付プログラムの総支出の4分の3を占め、全てが国庫負担となっている。結果として、BiH は GDP の 4%を非拠出制社会保障現金給付プログラムに支出し、クロアチアを除く、ヨーロッパのどの国よりも支出が多くなっている。サラエボ・カントンでは、人口の約 20%が、何らかの社会給付金を受給している。このような非拠出制社会保障現金給付プログラムへの支出水準は、特に世界金融・経済危機の影響が歳入に与えた影響を考慮すれば、財政的に持続可能なレベルではない。大きい。

BiH における社会保障給付のターゲットイングは、あまり適切でないとと言える。WB によれば、給付金の全体的な配分は、逆進的であると推定されている。国全体では、低所得者層に該当する消費階層最下位 20%層（第 1 分位層）の人々のうち、非拠出制社会保障現金給付プログラムを受給しているのは 16.9%にとどまっている。WB の貧困アセスメント（2009 年）によれば、FBiH の低所得者層（最下位 20%層）が受給している割合は 14%であるのに対し、RS では低所得者層（最下位 20%層）の 26%が受給している。給付の被覆率もまた低く、低所得者層（最下位 20%層）で給付を受けているのはごく少数にとどまっている。

前章で述べたとおり、IMF は 2009 年 6 月、社会給付のターゲットイングの改善と社会保障費全般の支出削減をスタンバイ取極の条件としている。したがって、政府が策定中の社会的包摂戦略では、よりよいターゲットイングを行い、実効的な雇用政策と雇用の創出に予算配分できるよう計画している。

4.1.1 年金と障害者年金

対象者／適格者	<ul style="list-style-type: none"> ■ FBiH : 65 歳または 40 年間の勤務実績；早期年金受給の場合（男性）60 歳か 30 年の勤務実績、（女性）55 歳か 30 年の勤務実績
スキーム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会保険
責任機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 監督官庁：FBiH；労働・社会福祉省、RS；保健・福祉省 ■ 実施機関：年金基金
財源	<ul style="list-style-type: none"> ■ 被保険者の保険料、雇用主、RS 予算、カントン予算（FBiH）
被覆率	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受給者数：FBiH：362,000 人(20.3%)、RS：209,000 人超(22.5%)

⁴¹ 非保険型の税方式による社会保障スキーム。

BiH では、賦課方式の年金制度が採用されており、エンティティ政府が運営・管理している⁴²。FBiH の年金・障害者保険法は、1998 年 6 月 30 日に発効した。RS では、2000 年に年金・障害者保険法が採択された。これにより、強制加入の年金と障害者保険制度が確立した。同時に、強制加入保険でカバーされない人々のために任意加入保険のオプションも付けられるようになった。ブルチコ行政区では、年金法および障害者保険法において、被雇用者が保険料の納付地を RS あるいは FBiH から選択するものと定めている。なお、ブルチコ行政区においても、全て同じ賦課方式に基づいている。

FBiH では、年金制度は、高齢者、障害者、遺族を保障範囲としており、退役軍人年金については、別途法律が定められている。年金基金は、保険料により運営されているが、損失がある場合は政府により補填される。362,000 人の年金受給者がおり、うち 180,000 人の給付額は、月額 296 マルカ（151 ユーロ）の最低額である。この額は、ほぼ貧困ラインと等しい。年金額は、年金基金の資金量に応じて増減するため、支給額は月ごとに 1% 前後変動する。年金基金は、国家予算から 14 百万マルカ（7.2 百万ユーロ）が、退役軍人給付金と前ユーゴスラビア軍将校（JNA）の年金のために補填がされている。2008 年に行われた年金制度の緊急改革により、適格条件が引き上げられた。満額支給のためには、65 歳であるか 40 年間の勤務実績があることが必要となった。早期年金受給の場合は、男性の場合、法定退職年である 60 歳か 30 年の勤務実績、女性の場合、法定退職年である 55 歳か 30 年の勤務実績が必要である。

老齢年金受給額は、1970 年 1 月以降の連続した 15 年間の平均月収のうち、被保険者にとって最も有利な水準のものに基づいて計算される。老齢年金の権利を取得した年に得た給与は、年金額決定のベースとしては考慮されない。老齢年金は、勤務期間の長さに応じ、年金額決定のベースとなる割合が決定される。勤務期間が 20 年の場合、年金額決定のベースとなる割合は 45% となる。1 年勤務期間が長くなるごとに 2% ずつ増加するが、85% が上限である。また、老齢年金は、前年の 12 月に支払われた平均賃金の 2 倍を超えない。更なる年金改革が、IMF のスタンバイ取極の条件のひとつであるが、私的年金による第 2 の柱を導入し、基礎年金で適格とならない人々の貧困削減のために充てられることが期待されている。

RS では、満額支給の適格条件は、男性の場合は 65 歳、女性の場合は 60 歳で、いずれの場合も 40 年の勤務期間が必要である。法定退職年齢は、男性 65 歳、女性 60 歳である。早期年金受給の場合、最低 20 年の勤務実績がなければならない。RS の年金受給者は、2008 年には 209,000 人をやや上回っていた。そのうち 97,000 人が、老齢年金受給者であった。

⁴² しかしながら、こうした方式はうまく機能しておらず、FBiH で年金の権利を取得した 20,000 人の年金を 2004 年に RS が負担するという事態を招き、年金の受給権利の移譲に関する合意は見られていない。

表 4-1 : RS における年金受給者

指標	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
全年金受給者	182,818	183,885	188,748	191,807	197,595	202,564	209,321
老齢年金受給者	83,144	83,510	85,085	86,125	89,473	92,319	97,222
障害者年金受給者	35,899	34,508	34,837	34,807	35,869	36,856	38,532
遺族年金受給者	63,775	65,867	70,875	70,875	72,253	73,389	73,567

(出所) RS Institute of Statistics “Statistical Yearbook” (2009), p. 24

年金の水準の決定要素は、労働年数と所得額である。計算は、1970年1月以降年金が開始される日まで（ただし、1992年から1993年までの給与は考慮されない）の平均純給与に基づいている。平均給与に対する平均年金の比率（置換率）は39%であるが、40年の勤務実績がある人の場合は、56%である。年金保険料率は、純収入の24%である。年金は、法律で資金的余裕がある場合のみ調整されると定められているため、2007年以降の賃金の増加に伴った調整はされていない。平均年金額は、月額320マルカ（164ユーロ）である。ちなみに、HBS2007年の相対貧困ラインは月額350マルカ（180ユーロ）、絶対貧困ラインは月額201マルカ（103ユーロ）である。

(1) 被覆状況

BiH では、退役軍人年金の受給者を除く、65歳以上で年金受給資格を有しているのは、全体の21%である。多くの人々が年金制度から除外されており、農村居住者、自給自足農民、自営業者、閉鎖された国営企業で余剰労働力の順番待ちリストにある人々、ロマのような民族的に疎外されているグループが老齢年金を受給できない状況にある。

FiBH および RS の被覆率は、それぞれ20.3%、22.5%である。消費階層で見ると、最上位20%の第5分位層を除いて、被覆率にそれほど格差は見られない。第5分位層では20%を下回っているが、第1から第4分位層ではおおよそ20%程度である。

表 4-2 : 消費階層別およびエンティティ別年金額、被覆率、およびターゲティング

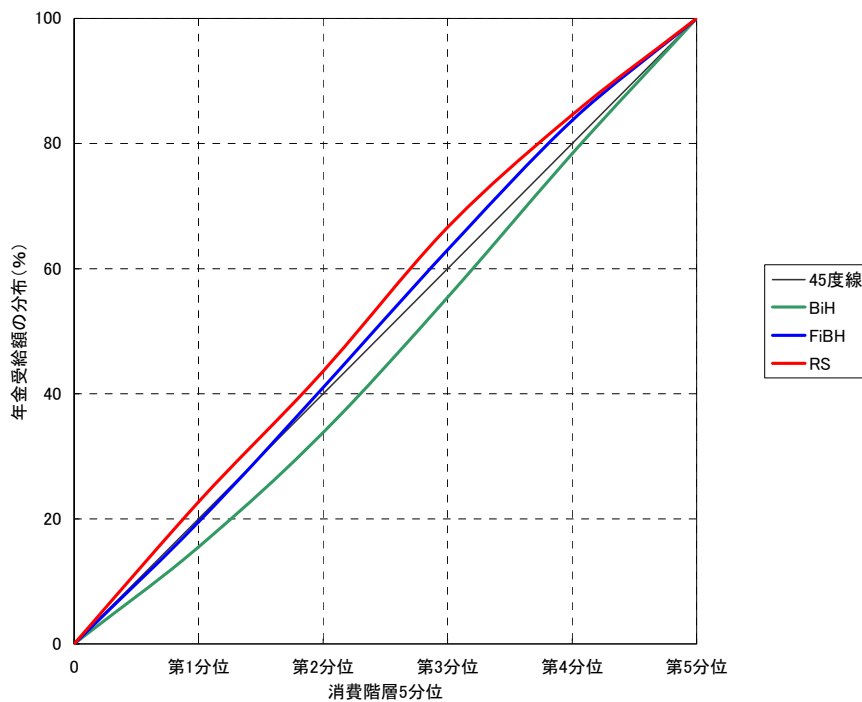
	全体	第1分位 (最下位20%)	第2分位	第3分位	第4分位	第5分位 (最上位20%)
平均移転額 (マルカ)	1,930.7	1,442.9	1,625.4	1,956.7	2,269.1	2,556.8
被覆率 (%) *	21.0	22.2	22.6	22.7	20.6	16.9
- FiBH	20.3	19.8	21.8	22.4	21.1	16.5
- RS	22.5	25.6	23.4	25.9	20.2	17.4
ターゲティングの適切さ (%) **	100.0	15.5	18.3	21.6	23.0	21.7
- FiBH	100.0	19.5	21.5	22.0	20.7	16.3
- RS	100.0	22.7	20.9	23.0	18.0	15.5

(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

(注) * 被覆率は、各層において給付を受けている者の比率

** ターゲティングの適切さは、全給付額に占める各層別の受給総額のシェア

図 4-1 は、ターゲティングの適切さ、すなわち、全給付額に占める消費階層グループの受給額の分配状況を示している。年金の全給付額に占める各消費階層別の受給総額のシェアを見ると、BiH 全体では、低所得者層に該当する最下位 20%である第 1 分位層のシェアが 15.5%と他の消費階層よりも低い水準である。これは、年金が低所得者層をターゲットとして十分に分配されていない状況を示している。エンティティ別に見ると、消費水準が最も高い最上位 20%に相当する第 5 分位への分配は、FiBH で 16.3%、RS で 15.5%と低く抑えられている。しかし、第 1 分位層への配分は、RS では 22.7%と他の階層のシェアを上回っているものの、FiBH では 19.5%とやや低くなっている。図 4-1 は、消費階層間の年金給付の分布状況を示したものであり、45 度線は消費階層間での完全に平等な分配を示している。BiH 全体での分配状況は、45 度線を下回っていることから、消費階層のより上位グループへの分配が大きくなっていることを示している。特に、RS では高齢年金のターゲティングは、FBiH に比してより効果的であると見られる。



(出所) World Bank, "Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update" (2009), Annex tables.

図 4-1：消費階層間の年金給付の分配状況

(2) 取り組むべき課題

BiH では、年金給付の貧困へのインパクトは大きい。WB の貧困アセスメント (2009 年) によれば、年金を受給していない場合、HBS2007 年のデータで、貧困者比率は 18%の水準から 25.8%にまで上昇すると推定される。

企業の中には、従業員に代わって年金保険料を支払う義務を逃れようとする企業もある。このような状況の解決策として、上級代表府 (OHR : Office of the High Representative) は、

年金額は定額支給ではなく、年金基金の財務能力に応じて算出されるべきとする規定を可決した。したがって、年金はしばしば再計算された料率で支払われる。年金基金は、贅沢な事務所施設の建設や従業員人件費の水増しなど非効率な運営を批判されている。しかしながら、今までのところ、年金制度について本格的な改革は行われていない。

障害者年金の受給資格の基準は、両エンティティとも、「前」職の職務を遂行することができないこととされている。一般的には「いかなる」職務も遂行することができないと定義されていることが多いため、国際的にみると、障害者に関し比較的寛大な定義がなされているといえる。さらに、BiHの障害者支援制度は、様々な行政単位（エンティティやカントン）で異なっており、現行制度では、健常者を障害者として登録する医者に不正な支払いをするなどの不正行為を行う余地が大きい⁴³。

4.1.2 失業給付制度

対象者／適格者	■ 社会保険料の収納期間の長さ
スキーム	■ 現金給付
責任機関	■ 監督官庁：FBiH；労働・社会政策省、RS；労働・退役軍人省 ■ 実施機関：FBiH；連邦労働局、RS；労働局
財源	■ 社会保険料
被覆率	■ 全登録失業者の1.8%（2008年12月）

両エンティティの労働省は、労働関連機関の業務範囲を明示するガイドラインを作成した。エンティティレベルの労働庁は、現金を被保険者に失業給付金、また、医療費や年金保険料負担のための給付金を支給する。両エンティティおよびブルチコ行政区における主な失業給付の条件は、非自発的失業であること、労働できないこと、積極的に就職活動をしていること、求職者として登録していること、いかなる経済活動も行っていないこと、フルタイムの学生ではないこと、15歳以上であることとしている。

2010年4月、357,000人がFBiHでは失業者として登録されており、失業率は45%である。調査データによれば、国際労働機関（ILO：International Labour Organization）の定義による失業率（つまり就職活動をしている失業者）は、22%である。この差は、FBiHにおける健康保険の被保険者の要件によるものであり、健康保険の被保険者となるには、雇用されているか、失業者として登録されていなければならないため、単純に登録者数のみで算出するFBiHの失業率は、ILOの定義による失業率と比べ、高い数値となる。ただし、失業給付金を受給しているのは、10,500人のみである（登録されている失業者の3%）。

FBiHの雇用保険は、保険料を雇用主から給与の0.5%、被雇用者から給与の2%を徴収する。RSとブルチコ行政区では、被雇用者からの保険料は給与の1%である。

⁴³ 労働人口の約10%が障害を負っている。

FBiH では、失業給付は、被雇用者として、失業者となる前の 12 ヶ月の間に少なくとも 8 ヶ月間継続的に保険料を支払っている者、あるいは失業者となる前の 18 ヶ月の間に少なくとも 8 ヶ月間断続的に保険料を支払っている者に対し支給される。これらの条件に合致した失業者は、勤務実績期間に応じて、3 ヶ月から 24 ヶ月失業給付を受けられる。失業給付金の額は、平均給与の 40% である。平均して、月額 320 マルカ (163 ユーロ) である。最低賃金も 320 マルカなので、失業者は仕事を探すインセンティブがあまりない。受給額を実際に支払った保険料に連動させ、支給期間も 2 年から 1 年に短縮するよう、法改正がされる予定である。この法改正については、現在、議会で審議中であるが、強く批判されているので、容易に可決されない可能性がある。ただし、この法改正は WB からの借款 11 百万マルカ (5.6 百万ユーロ) の条件の一つとなっている。

FBiH では、給付金は雇用終了の後 60 日間支給されるのに対し、RS では雇用終了の後 30 日間である。支給額は雇用期間中に保険料を支払っていた年数と統計局が発行する直近四半期の平均給与によって決められる。FBiH では、失業給付は直近 3 ヶ月の平均月収に連動している。RS では、被保険者期間が 10 年未満の失業者の場合、直近 3 ヶ月の失業者の平均月収の 35% であるのに対し、被保険者期間が 10 年以上の場合は、直近 3 ヶ月の失業者の平均月収の 40% である。支給額は、下限が平均給与の 20%、上限が平均給与とされている。RS では、支給期間は最低 3 ヶ月であるが、FBiH では 6 ヶ月である。支給上限は、12 ヶ月である。RS では、民営化や倒産で解雇された労働者は、補償金として 3 ヶ月から 12 か月分の給与を支給される。

(1) 被覆状況

多くの雇用主が社会保険料を支払わないため、多くの人々が失業給付の受給資格を持たない。受給条件が厳しいため、登録された失業者のうち比較的少ない割合の人々しか、失業給付を受ける適格者ではない。したがって、BiH の失業給付の被覆率は、他の近隣諸国と比べ低い。2008 年 12 月現在、失業給付は 8,812 人に支給された (FBiH は 5,488 人、RS では 3,164 人)。BiH 全体で、これは登録されている失業者 480,000 人の 1.8% にあたる。2009 年 12 月、全失業者 510,580 人のうち、失業給付金を受け取ったのは、わずかに 14,102 人(2.76%) であった⁴⁴。

表 4-3 : 失業給付金受給者 (2008 年 3 月から 2008 年 12 月)

	XII 2007	III 2008	VI 2008	IX 2008	XII 2008	受給者数の変化 XII2008/ XII 2007
BiH:	8,359	8,929	7,828	8,181	8,812	105.41
FBiH	5,521	6,214	5,176	5,342	5,488	99.40
RS	2,704	2,602	2,530	2,657	3,164	117.01
ブルチコ行政区	71	113	122	182	160	225.35

(出所) Labour and Employment Agency of BiH, Bulletin No. 4, March 2009

⁴⁴ BiH Employment Agency, "Statisticki Informator, IV/2009"

(2) 取り組むべき課題

失業給付の被覆率の低さは、多くの失業者の貧困のリスクを高め、貧困に追い込んでいる。

労働市場の活性化が、雇用改善のための方策とみられている。除隊兵士の再統合のための WB の労働再開発プロジェクト (Labor Redeployment Project) は、2004 年に開始された。これは、7,000 人の弱者にサービスを提供する雇用支援プロジェクトである。このプロジェクトには、雇用補助金や職業訓練などの労働市場の活性化のための方策が含まれている。本プロジェクトは成功し、多くの弱者が支援を受けて就業できたとされている。

4.1.3 健康保険制度

対象者／適格者	■ 健康保険料納入者
スキーム	■ 社会保険
責任機関	■ 監督官庁：FBiH；保健省（調整担当）10 カントンの保健省、RS；保健・社会福祉省 ■ 実施機関：保健医療機関
財源	■ 健康保険基金：FBiH；カントンごとの基金、RS；健康保険基金

保険医療制度は、エンティティごとに制度設計されており、3つの異なる健康保険基金（ブルチコ行政区含む）が存在する。FBiH では、健康保険基金はさらにカントンレベルに分割されている。保健医療サービスの提供はカントンごとに異なるアプローチがとられている。

一次医療制度は、地域の家庭医を通じて提供される。主要な医療機関は Dom Zdravlja（ヘルスセンター）である。財源の半分は健康保険基金から、残り半分は各市町村が負担している。

(1) 被覆状況

健康保険は、被雇用者、年金受給者に給付される。登録されている失業者には、労働局より支払いが行われる。また、退役軍人や戦争による障害者、戦争の一般市民犠牲者に対しても給付がなされている。しかしながら、RS では人口の 37%、FBiH では 15%が、健康保険が付保されていない状況にある。紛争前は、医療サービスは全ての国民に無料で提供されていたことに鑑みると、状況は紛争前後で大きく変化した。現在、健康保険が付保されていない人々の中には、インフォーマル経済で働いている人や、任意で健康保険料を支払う権利があるが支払っていない農民や自営業者が含まれている。こういった人々のために、医療保険制度では無料の応急処置を提供しているが、救急以外の診察には費用がかかる。RS では、付保されていない人々は、前払いで診察料を支払うか、未払いの保険料を支払うか、いずれかの支払い方法を選択することができる。

なお、ロマの多くが、健康保険に加入していないと見られている⁴⁵。

⁴⁵ 一般的にロマは定住しておらず、定まった「住所」がないため、健康保険の登録をしていない場合が多いため（現地インタビューにより聴取した情報）。

(2) 取り組むべき課題

雇用主は被雇用者に代わって保険料を支払う義務があるが、経営状態が良くない場合にはこれを怠るケースが散見されている。実際、破産した雇用主の多くは、被雇用者の賃金さえも支払っていない。こういった被雇用者は、一時解雇されているものの、会社に通常の被雇用者として登録されており、この会社で再雇用されるための「順番待ちリスト」に載せられている。さらに、RS では、雇用主による年金受給者の健康保険料の定期的な支払いは、行われてこなかった。こうした状況に鑑みると、健康保険料徴収制度は事実上崩壊しており、資金不足により制度は弱体化している。

FBiH では、健康保険料の徴収と医療費の支払いは、カントンレベルで行われている。しかしながら、公営病院のサービスの質は、非常に低いにもかかわらず、患者は確実な治療を受けるためには医者には治療費とは別に支払いをしなければならない。

重要な課題は、人口の多くが健康保険に加入していないことである。紛争前は、健康保険料は雇用主によって支払われるか、失業者の場合は労働局によって、退職者の場合は年金基金によって支払われていたので、ほぼ普遍的に付保されていたが、こうした制度はすでに崩壊している。現在、健康保険により、保険料負担者とその家族全員をカバーするようになっているが、前述の通り、実際にカバーされる人口は限定的である。

また、保健セクターにおける資源配分に係る管理や計画が不十分であり、非効率に重複した資源配分は、BiH における保健セクターに共通して見られる問題である。サービスの提供をカントンレベルに分権化したことにより、保健セクターにおいて、2つの主要民族向けのサービスに重複が生じている場合が見られる。また、例えば、高度な機器を備えた2つの専門心臓病センターがある一方、多くの医師はまともな器具も十分なサポートもないという状況がある。

旧ユーゴスラビアの制度を引き継いだ制度の見直しもされていない。FBiH では、カントンがそれぞれの「カントン立」病院を管轄している。あるカントンでは、旧ユーゴスラビア時代により広い地域を対象とするように設計された大病院を引き継いで、現在は設計されたキャパシティ以下で稼働している。また別のカントンでは、病院のキャパシティが不十分という状況にある。しかしながら、あるカントンから別のカントンへ資源を移すメカニズムが存在していない。全体としてみると、大病院にしてもクリニックにしても、数が多すぎる一方で、医療の質は十分確保されていない。

他方、Travnik では、重複している2つの病院を統合し、現在のスタッフのレベルを維持するという計画がある。次第に、一次医療を提供するかかりつけ医が、二次医療の窓口として機能するようになりつつある。地域医療の育成により、旧来の専門医による総合病院よりもはるかに費用効率が高くなることが期待されていると同時に、サービスの質の向上も期待されている。

なお、BiH では、医薬品の調達や日々の診療などに見られる腐敗は、保健セクターの大きな課題である。この問題は、貧困削減戦略書（PRSP : Poverty Reducion Strategy Paper）の中でも BiH の保健セクターにとって重要な課題であると指摘されている。

4.1.4 社会扶助

本項では、保険制度の社会保障から非拠出制社会保障について述べる。非拠出制社会保障制度は、BiH にいくつか存在しているが、注目すべきは、1993 年から 1995 年の紛争時に従軍した人々に関連した給付制度である。非拠出制給付金には、家計調査に基づく給付金と所得とは関係しない特定給付金がある。まず、本項では、「一般市民」を対象とした家計調査に基づく社会扶助給付金制度を概観する。

対象者／適格者	■ 就労不能であること、その他の収入源がないこと
スキーム	■ 家計調査に基づいた現金給付
責任機関	■ 監督官庁：FBiH；労働・社会政策省、RS；健康・社会福祉省 ■ 実施機関：社会事業センター（CSW）
財源	■ 国家予算

BiH では、全体として、社会扶助制度は社会事業センター（CSW）によって運営されている。FBiH では、カントンが 178 の社会事業センター（CSW）の費用や職員給与を負担している。RS では、地方自治体（municipality）が社会事業センター（CSW）に最低限の財政的な支援を行っている。CSW は人手が足りず、十分な専門家がいないので、給付のターゲットイングは、的確に行われていない。また、実質的に申請をモニターする能力が不十分であるので、受益者のモニタリングも行われていない。なお、欧州安全保障機構（OSCE : Organization for Security and Cooperation in Europe）は、社会事業センター（CSW）の能力開発を支援している。

RS では、社会福祉法の下、全ての社会扶助給付金は地方自治体を經由し支給されている。またそれは、主に中央政府からの補助金や交付金を財源とし、一部地方自治体の自己資金で補填されている。交付金の交付のため、地方自治体は「最も開発されている」から「最も開発されていない」まで 5 つのカテゴリーに分類されている。給付金の適格条件は、他の収入源がないこと、家族の支援がないこと、就労不能なことである。これら給付金は、支給にあたり家計調査がなされる。基礎社会扶助給付額は、一人当たり月額 41 マルカ（21 ユーロ）であるが、家族の規模や所得により様々である。また、本制度は、電気代の補助などの他の多くの給付金によって補完されており、絶対貧困に陥るリスクは軽減されている。

FBiH では、通常社会扶助の支給額や支給基準は、各カントンの社会保障法によって定められている。社会扶助の適格者には、カントンの平均所得の 10%以下の収入である家族、高齢者、障害者、失業者、支援をしてくれる家族がいない者、産休中の女性、施設入居者

である。約 18 万人が社会扶助を受給しており、受給額は月額 50 マルカ（26 ユーロ）から 140 マルカ（72 ユーロ）である。上限額を受け取れるのは、サラエボ・カントンだけである。支給額には、カントンによって大きな格差がある。なお、社会扶助に関する支出は、250 百万マルカ（128 百万ユーロ）から 108 百万マルカ（55 百万ユーロ）に削減されている。

FBiH では、カントンのみが紛争による一般市民の障害者の社会扶助を支給しており、受給資格者の 30% が受給している。受給者数は、2009 年の法改正により、40,000 人程度に削減され、最も支援を必要としている人々を保護するために支給額は増額された。他方、障害の程度の低い障害者は、社会扶助の受給対象からはずされた。この法律では、1993 年から 1995 年の紛争中に障害者となった人とその他の障害者を区別している。「紛争に起因しない」一般市民の障害者は、障害の程度により 220 マルカ（112 ユーロ）から 409 マルカ（209 ユーロ）を受給する。11,000 人の「紛争による」一般市民の障害者が受給している給付金の額は、「紛争に起因しない」一般市民の障害者よりも高い。2009 年、「紛争に起因しない」障害者に対する障害者給付金は、一般市民への社会扶助給付金に関する支出の半分以上を占めている。

(1) 被覆状況

社会事業センター（CSW）が行っている社会扶助給付の被覆率は低く、ターゲティングも不十分である。BiH 全体の被覆率は、2.2%にとどまっており、消費階層最下位 20%に相当する第 1 分位層の被覆率は 3.8%である。全給付金額に占める第 1 分位層のシェアは 30.2%と、消費階層間では最も大きな割合を占めているが、被覆率に鑑みると、実際に給付を受けている低所得者層は極少数に限られている。なお、RS では、第 1 分位層の被覆率は 4.0%と BiH 全体よりも高く、また、給付金額に占める第 1 分位層の受給総額のシェアも 47.7%と高い値を示している。

図 4-2 は、消費階層間の社会扶助給付の分配状況を示している。BiH、FBiH および RS のいずれにおいても、消費階層間での完全に平等な分配を示す 45 度線より分布曲線が上方にあり、消費階層の低位層により多くの分配がなされていることが分かる。特に、RS では、前述の通り、最下位 20%に相当する第 1 分位層への分配が 47.7%であり、被覆率は低く、低所得者層全体への裨益は限定的であると考えられるが、貧困層に近い低所得者層に重点的に分配されていることが伺える。

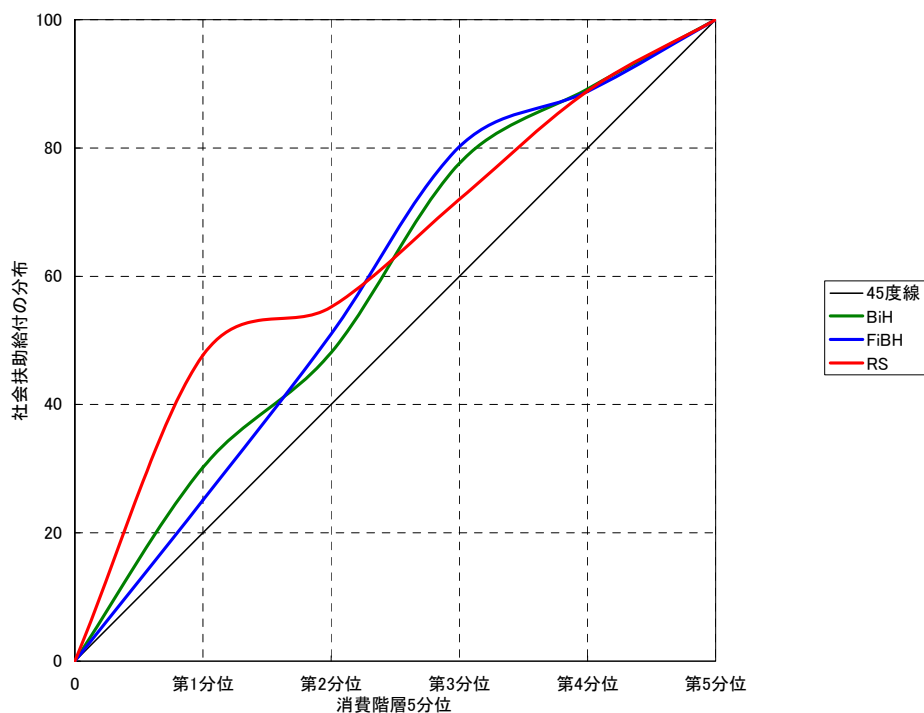
表 4-4：消費階層別およびエンティティ別 CSW の社会扶助給付の金額、被覆率、
ターゲティング
(「紛争に起因しない」障害者給付と「紛争による」一般市民障害者給付を含む)

	全体	第1分位 (最下位20%)	第2分位	第3分位	第4分位	第5分位 (最上位20%)
平均給付額 (マルカ)	603.2	475.2	499.2	891.5	520.7	850.9
被覆率 (%) *	2.2	3.8	2.5	2.3	1.5	0.8
- F BiH	2.4	3.7	3.4	2.9	1.2	0.8
- RS	1.8	4.0	1.9	1.0	0.9	0.8
ターゲティングの適切さ (%) **	100.0	30.2	17.9	29.5	11.6	10.7
- F BiH	100.0	25.1	25.9	29.2	8.6	11.2
- RS	100.0	47.7	7.5	16.8	16.9	11.2

(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

(注) * 被覆率は、各層において給付を受けている者の比率

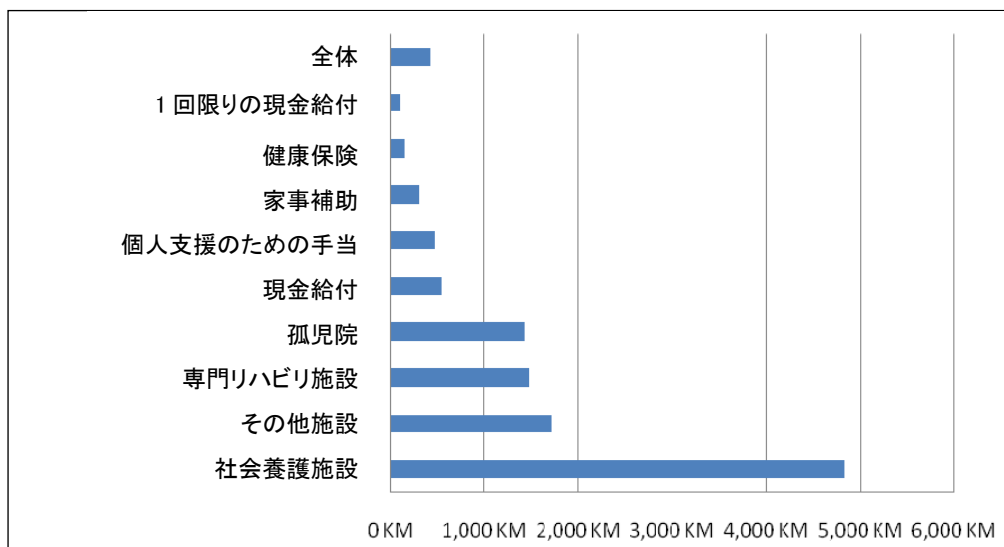
** ターゲティングの適切さは、全給付額に示す各層別の受給総額のシェア



(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

図 4-2：消費階層間の社会扶助給付の分配状況

RS における社会扶助プログラムに対する公的支出の受益者あたり平均支出額は、受益者のグループにより異なっている。受益者一人当たりの金額で比較すると、社会養護施設に対する支出が最も大きく、1 回限りの現金給付は最も小さくなっている (図 4-3)。



(出所) Ministry of Health and Social Welfare RS (2008) Information on the current state and development prospects of the social welfare system in Republika Srpska”.

(注) 「個人支援のための手当」とは、回復不能の重度障害を持つ人々に対する給付金支援のこと。

図 4-3 : RS における社会給付受給者当り平均支出 (2006 年)

ヘルツェゴビナに居住するクロアチア系住民、特に退役軍人は、クロアチア政府から社会扶助を受給している。しかし、この支援は、次第に削減されており、将来的には FBiH 政府を通じて行われるようになる見通しである。

(2) 取り組むべき課題

BiH では、社会扶助制度による貧困問題への対応は、不十分である。主な理由として、受益者の被覆率が低く、また対象者のターゲティングに問題があることが挙げられる。さらに、組織的な枠組みも脆弱で、ソーシャルワーカーの専門能力も低いことが指摘されている。さらに、FBiH においては、カントンによって社会保障法を採択していないところがあるなど、国家レベルの社会保障法と齟齬が生じており、結果として受給資格があるにもかかわらず社会扶助を受けられない人々が出てきている。FBiH では社会保障制度がカントンによって異なっているばかりでなく、予算規模が小さいために、社会保障法が存在するカントンにおいてすら、社会保障サービスを必要とする全ての人に提供するのに十分な予算が確保できない場合も見られる。

また、BiH では非拠出制社会給付の貧困へのインパクトは小さく、貧困者比率において 6% の削減を占めているに過ぎない。一方、年金制度がない場合、貧困人口は 20.1% に劇的に増加すると推定される⁴⁶。法律はあっても十分に制度が機能していないため、社会扶助の対象とされていない社会的弱者層のグループが多く見られる。例えば、精神障害者は、既存の法律で特別な支援の必要性があると規定されていないため、現行の制度では支援対象となっていない場合が多い。

⁴⁶ World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), p. 45

本制度では、一部の社会グループ、たとえば少数民族、ロマ、IDP や帰還民などを差別し、社会扶助へのアクセスを阻害している。社会扶助の受給資格は、地域の CSW のソーシャルワーカーが評価し、ソーシャルワーカーの裁量により給付が決定されている。この評価は主観的であるため、地域レベルで少数民族に対する差別のきっかけとなる場合がある。

また、難民や IDP は貧困や社会扶助に関して、特殊な問題に直面している。RS には、63,000 人の IDP が存在するが、彼らの多くは、高齢になっていたり、病気であったり、失業者であるにもかかわらず、社会保険が付保されていない。

クロアチアからの帰還難民 9,000 世帯については、財産請求の解決の過程で立ち退かされた IDP に対する新しく住居の提供が未解決の課題として残されている。こうした IDP は、自宅が破壊され、FBiH に戻るできないため、彼らへの新たな住居の提供が、現在、RS の難民・帰還民省が直面している最大の課題となっている。現在、4,532 家族が、臨時収容施設で暮らしており、中でも最も難しい問題は、集団センター（Collective Center）と呼ばれる収容所に未だ暮らす 390 家族の問題である。31 の集団センターが 19 市町村にあり、そこに暮らす帰還難民の多くが、失業者であり、資格もなく、農村部の出身である。難民・帰還民省は、難民、IDP および帰還民向けの持続可能な農業を支援する小規模なプロジェクト（年間予算：1 百万ユーロ）を実施している。これは、農業で生計を立てられるよう、温室や農機具を供与するものである。また、プログラムを通じて 3 タイプの手当を供与している。それぞれ、(i) ボシュニャック人とクロアチア人の RS への帰還、(ii) セルビア人の FBiH への帰還、および(iii) IDP の共和国内での帰還に対する手当である。

なお、社会扶助は、破壊されてしまった FBiH の自宅の代わりに居住している家の家賃を補填しているのみである。金額は、場所により異なり、バーニャルカの 250 マルカ（128 ユーロ）からその他の地域の 100 マルカ（51 ユーロ）まで幅がある。法律によれば、難民・帰還民省は健康保険や、雇用支援などより多くの支援を提供すべきであるが、こういった活動を行う資金がない。同省は、IDP の問題は、社会福祉制度に引き継がれるべきと考えているが、基礎社会扶助給付が、月額 40 マルカ（20 ユーロ）と小額であるため、IDP のステータスを失ってしまうと、生活状況が悪くなると考えられる。加えて、住居の再建支援を受けるためには、難民か IDP でなければならない。これらのことが、彼らにとって現状のまま登録されたいという動機を与えている。

また、FBiH からの帰還に関して、隠れた障壁が存在している。FBiH で社会扶助を受けるために、カントンに 6 ヶ月から 12 ヶ月居住しなければならず、これが場合によっては帰還を阻害する要因となっている。

4.1.5 児童保護手当

対象者／適格者	■ 資力調査に基づいた児童保護手当
スキーム	■ 現金給付
責任機関	■ 監督官庁：FBiH；労働・社会政策省、RS；健康・社会福祉省 ■ 実施機関：社会事業センター（CSW）
財源	■ 国家予算
被覆率	■ 人口の 12 分の 1 程度

エンティティの法律は、資力調査に基づいた母子に対する現金および現品による給付を規定している。

RS では、児童保護制度は共和国児童保護基金（Republic Fund for Child Protection）の下、中央集権化されている。同基金は、主に子供の社会的包摂を支援するために計画されたものであるが、出産支援の目的もある。児童手当は、月額 45 マルカ（23 ユーロ）から 50 マルカ（26 ユーロ）であるが、3 人目と 4 人目の子供については、月額 100 マルカ（51 ユーロ）が支給される。特別な支援が必要な子供に対しては、追加給付が支給される。基金はまた、出産給付や特別な支援が必要な子供を持つ両親の給与も退職前の賃金の 50% を支給している。本制度は、子供のいる家族のケアや家族福祉サービスを提供する社会事業センター（CSW）が実施している。

FBiH では、児童手当の基礎給付額は、子供の数によりカントンレベルで規定されているため、カントンによってその額は異なっている。同様のことは、出産手当や養子縁組手当にも当てはまる。

(1) 被覆状況

児童手当を受給している割合は、人口の 12 分の 1 に満たない程度にとどまっている（表 4-5）。また、消費階層の最下位の低所得者の被覆率（7.0%）は、最上位層の被覆率（3.3%）に比べて 2 倍以上大きい。同手当は、他のプログラムと比べ、ある程度低所得者層を対象としているが、児童手当給付総額のうち第 1 分位層のシェアは 25.9% であり、17.6% が最上位層に支給されているという状況である。被覆率は、FBiH より RS のほうが高く、RS では最下位 20% に相当する第 1 分位層の 12.5% が児童手当を受給しているのに対し、FBiH では 3.1% に過ぎない。

図 4-4 に示す消費階層間の児童手当給付の分配状況を見ても、RS では 45 度線の上方に分布曲線が位置しており、第 2 分位層のシェアが 11.2% と低いものの、第 3 分位層以下への分配が重点的である。貧困層に近い低所得者層に相当する第 1 分位層の受給に占めるシェアは 35.4% と最も大きな割合を占めている。他方、FBiH では、第 1 分位層への配分が 17.2% にとどまっている一方で、消費階層上位の第 4 および第 5 分位層のシェアが併せて 50% を超えている。低所得者層の被覆率が低い上、配分比率も低いことから、FBiH においては、

児童手当が低所得者層に裨益する手段となりえていないことを示唆している。

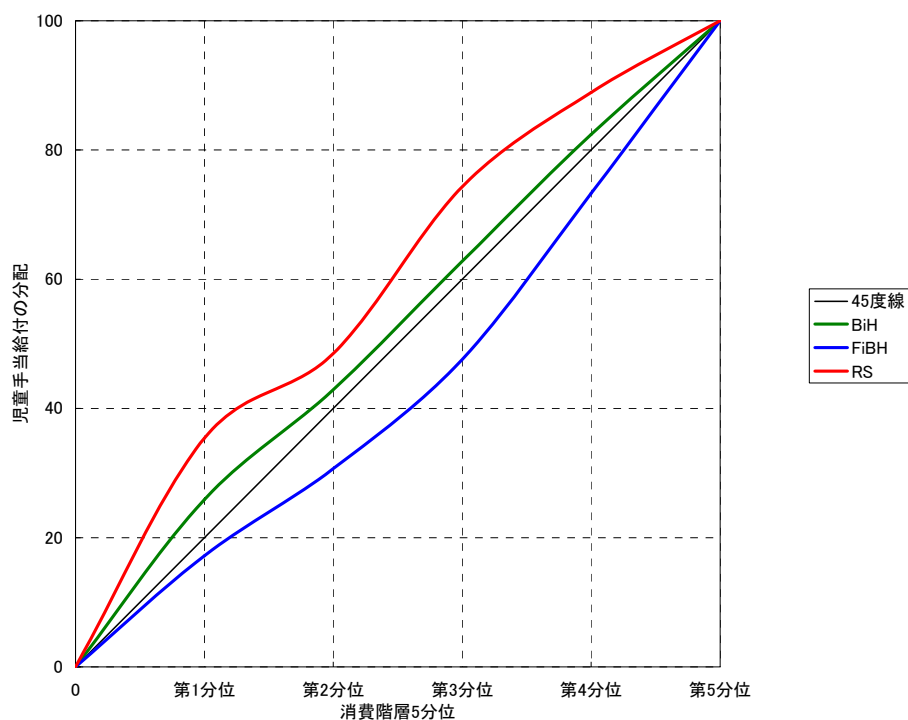
表 4-5：消費階層別およびエンティティ別児童保護手当の支給額、被覆率および
ターゲティング
(手当支給開始時における世帯の平均)

	全体	第1分位 (最下位 20%)	第2分位	第3分位	第4分位	第5分位 (最上位 20%)
平均給付額	385.0	347.6	357.5	381.3	405.6	479.6
被覆率 (%) *	4.7	7.0	4.3	4.6	4.2	3.3
- F BiH	2.9	3.1	2.7	2.9	3.2	2.9
- RS	6.3	12.5	4.6	6.5	4.2	3.8
ターゲティングの適切さ (%) **	100.0	25.9	17.0	19.9	19.6	17.6
- F BiH	100.0	17.2	13.5	16.9	25.7	26.6
- RS	100.0	35.4	13.1	25.8	14.6	11.2

(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

(注) * 被覆率は、各層において給付を受けている者の比率

** ターゲティングの適切さは、全給付額に占める各層別の受給総額のシェア



(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

図 4-4：消費階層間の児童手当給付の分配状況

(2) 取り組むべき課題

老齢年金など他の非拠出制手当に比して、より低所得者層への配分が行われているといえるが、児童手当制度のターゲティングは、上述の通り、低所得者層に対し十分重点がおかれたものとなっていない。WB 調査によれば、資力調査に基づく児童保護手当は、BiH 全体では概してよく対象者が選定されており、約 4 分の 1 が最下位 20% 層に支給されている。ただし、他国との比較では、あまり大きな割合とはいえない。なお、資力調査に基づく手当は、FBiH に比して RS ではより良くターゲットされている。

4.1.6 退役軍人給付

対象者／適格者	■ 特定給付金 ボスニア紛争服役者
スキーム	■ 現金給付
責任機関	■ 監督官庁：FBiH；防衛解放戦争退役軍人省、RS；退役軍人・戦争被害者省 ■ 実施機関：FBiH；防衛解放戦争退役軍人省、RS；退役軍人・戦争被害者省
財源	■ 国家予算

一般市民のための社会扶助がニーズに基づいているのに対し、退役軍人のための給付金は、ニーズとは関連しない特定給付金であり、権利に基づくものである。2007 年に FBiH 政府は退役軍人に権利を拡大し、社会保障費は急激に増加した。

両エンティティにおいて、退役軍人給付とその遺族給付は、以下を含む様々な特別給付からなっている。

- 負傷兵給付（退役軍人）；適格基準は、収入の手段や雇用状況にかかわらず、身体障害に基づく。
- 遺族扶養家族給付（遺族）；適格基準は、収入の手段や雇用状況にかかわらず、戦死した兵士または（紛争後に）死亡した傷病兵（退役軍人）と認定された者との続柄に基づく。
- 除隊兵士手当；適格基準は、収入の手段にかかわらず、戦時中の関与に基づく。この給付は、FBiH 独自の制度である。
- 受勲者手当：法律により、個人が受けた軍の勲章に基づき、給付の権利が定められている。

FBiH では、580,000 人が紛争による影響を受けた。そのうち 47,787 人は紛争中に死亡した兵士の家族であり、54,000 は紛争で負傷した。これらの人々は、支援されており、予算規模は 150 百万ユーロである。身体の 20% から 50% の障害のある退役軍人は約 27,000 人おり、月額 20 ユーロから 55 ユーロを受給している。下半身不随の者は約 600 人おり、月額 900 ユーロを受給している。なお、この給付額は、生活するに十分な額ではない。

約 11,000 人の 45 歳以下の健康な退役軍人は、月額 300 マルカ（153 ユーロ）で退役させられている⁴⁷。このため、約 80,000 人の退役軍人が労働局に失業者として登録されている。失業者のための予算は年間 40 百万ユーロであり、失業給付金として月額 250 マルカ（128 ユーロ）を給付している。この給付額は、最低賃金とほぼ同額であるため、受給者が仕事を探す動機の低下につながっている。失業中の退役軍人を訓練し、労働市場に戻すために、労働市場活性化プログラムでは、起業のための優遇金利ローンを供与したり、雇用主に対する雇用奨励金を供与したりしている。最も重傷な退役軍人の支援に資金を拠出できるように、障害のある退役軍人や軽度な負傷退役軍人を雇用するための法律が可決された。

(1) 被覆状況

BiH では、社会扶助給付は、圧倒的に 1990 年代の内戦の退役軍人が対象となっている。総額で GDP の 4% にのぼる社会扶助への支出は、国際的にみても多い。しかしながら、退役軍人のための非拠出制給付金が GDP に占める割合は、徐々に低下している一方、一般市民を対象とした非拠出制給付金の割合が増加している（表 4-6）。

表 4-6：非拠出制社会保障給付にかかる支出（対 GDP 比）

指標	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
一般市民給付金	0.9	1.0	1.0	0.8	1.5	1.4	1.4
退役軍人給付金	3.1	3.0	2.8	2.6	2.6	2.6	2.5
全体（GDP に占める％）	4.0	4.0	3.8	3.4	4.1	4.0	3.9

（出所）World Bank, “Bosnia and Herzegovina: Social Assistance Transfers in Bosnia and Herzegovina - Moving Toward a More Sustainable and Better-Targeted Safety Net, Policy Note” (2009), p2.

退役軍人給付の被覆率とターゲティングについては、表 4-7 に示されている通りである。給付金は、非常に逆進的に給付されており、より上位の消費階層被覆率が高くなっている。給付金額の分配状況により示されるターゲティングで見ても、同様に、より高い消費階層のシェアが高くなっている。被覆率およびターゲティングについて、FBiH より RS のほうが、低所得層に対し配慮が見られる。

表 4-7：消費階層別およびエンティティ別退役軍人のための社会給付の給付額、被覆率およびターゲティング

	全体	第 1 分位 (最下位 20%)	第 2 分位	第 3 分位	第 4 分位	第 5 分位 (最上位 20%)
平均給付額（マルカ）	1,213.6	1,026.6	1,185.3	976.3	1,296.7	1,623.8
被覆率（％）*	6.5	5.7	5.8	8.0	6.6	6.3
- FBiH	5.8	4.4	5.4	8.1	5.8	5.5
- RS	7.8	8.4	5.8	7.9	7.4	9.4

⁴⁷ IMF のコンディショナリティの下で 10%削減された

	全体	第1分位 (最下位 20%)	第2分位	第3分位	第4分位	第5分位 (最上位 20%)
ターゲットの適切さ (%) **	100.0	14.7	16.6	19.7	22.4	26.7
- F BiH	100.0	11.5	15.9	23.0	23.1	26.5
- RS	100.0	21.4	15.4	19.6	15.9	27.8

(出所) World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), Annex tables.

(注) * 被覆率は、各層において給付を受けている者の比率

**ターゲットの適切さは、全給付額に占める各層別の受給総額のシェア

(2) 取り組むべき課題

退役軍人関連の給付金制度は、消費階層間の分配状況が不均衡であり、逆進的となっている。退役軍人関連の給付を受けている人々の26.7%が最上位層である一方、最下位層への配分は14.7%にとどまっている。さらに、退役軍人に対する給付金のGDPに占める割合が高いことから、他の社会福祉プログラムの給付に影響を及ぼしているものと見られ、財政的に持続可能な制度ではないと考えられる。

4.1.7 非拠出制社会扶助の被覆率とターゲット

非拠出制給付に対する支出が、GDPの約4%と高いにもかかわらず、これらの給付金の被覆率は低い。非拠出制社会扶助を受給している低所得者層の割合は、第1分位（最下位20%）の15.1%であり、それに対し、第5分位層（最上位20%）は9.7%である⁴⁸。これは主に退役軍人のための特定給付金の被覆率が、資力調査に基づく一般市民向けの給付に比べ高く、前者の被覆率は低所得者層よりも、消費階層の上位でより高くなっていることに起因している。

加えて、ターゲットも不十分であり、給付金の多くが上位層に配分されており、低所得者層である最下位層への配分は20%に過ぎない。資力調査に基づく社会扶助給付は、F BiHよりRSのほうがよくターゲットされており、RSでは、最下位層が全非拠出制社会給付の25.7%を受給しているのに対し、F BiHでは、14.1%にとどまっている。さらに、RSでは、最下位層が社会扶助の48%、児童保護手当の35.4%を受給している。なお、EU新規加盟国のあるプログラムのターゲットでは、低所得者層への配分が70%から80%である。

RSの保健・社会福祉省は、社会扶助制度の構築や新しい社会サービスの開発、職業訓練や教育を通じたソーシャルワーカーの専門能力の開発を行う社会福祉専門学校の創設を通じた社会事業センター（CSW）の有効性の改善のために社会福祉基金を創設することを考えており、そのためのドナーの支援が必要であるとしている。自宅での介護支援と同時にデイケアセンターを発展させることも必要である。

⁴⁸ World Bank, “Protecting the poor during the global crisis: 2009 BiH poverty update” (2009), p. 42

4.2 準公的保障

NGO セクターは、子供、女性に対するノンフォーマルな社会保障やノンフォーマルな教育の提供を活発に行っている。トゥズラ・カントンやサラエボ・カントンは、いくつかのノンフォーマルな NGO のサービス提供者を社会福祉制度に組み入れている。RS におけるこのような取組みの進捗は遅い。

BiH のマイクロクレジット・セクターは、戦後、貧困削減や通常の銀行ではローンを借りることが出来ない貧しい人々の間における中小企業の育成支援の点で重要な役割を果たした。1996 年、マイクロファイナンス機関に対する WB の支援による「地域主導プロジェクト (LIP : Local Initiatives Project)」が、国際 NGO を通じ開始された。12 団体が BiH のマイクロファイナンス市場の 97% を占め、その貸付実行額は 2008 年 10 億マルカ (5.1 億ユーロ) に達すると、ボスニア・ヘルツェゴビナマイクロファイナンス機関組合 (AMFI : Association of Microfinance Institutions in Bosnia and Herzegovina) によって推定されている。これは、2007 年と比べ、9.2% の増加である。顧客の数は 2007 年から 2008 年にかけて 35% 増加し、社会保障および貧困者のための収入創出に大きなインパクトを与えた。

4.3 インフォーマルな保障

BiH の社会は、非常に家族中心であり、海外送金は高齢者にとって社会保障の重要な資源となっている。年金受給者は所得面から見ると貧困と見られるが、支出面から見ると決して貧困とはいえない水準を確保している。BiH には若者が年老いた親戚の世話をするという伝統があり、そのため、高齢者の貧困が緩和されている。BiH の家族は、出稼ぎ者からかなりの額の海外送金を受けている。BiH は中欧および南東欧において、最も海外送金の受入額の高い国のひとつである。公式な海外送金額は、GDP の 20% を超えているが、WB によれば、実際にはより大きな額に上ると見られている。2004 年には、海外送金の流入額は 1,824 百万ドルで、2007 年には 2,530 百万ドルにまで増加した。なお、この年の一人当たりの平均海外送金は、6,000 ドル超であった。しかしながら、2008 年には海外送金の流入は減少したため、生活水準を維持するために海外送金収入に依存していた家族の収入も減少した。

第5章 貧困削減のモニタリング

5.1 ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）の達成状況

BiHにおけるMDGの最新の達成状況は、2004年の「ボスニア・ヘルツェゴビナMDG改訂報告書—PRSP、ヨーロッパ、そしてその向こうへ（MDG改訂報告書）」により報告されている。BiH政府はEU統合に優先順位を置いている。したがって、2003年6月の「国別人間開発MDG報告書」で、UNDPはMDGを国家開発戦略とEU加盟準備に必要とされるEU社会的包摂の課題とを関連付けようという試みを行っており、いくつかの目標や指標は、ルーケン指標やヨーロッパ標準に合わせて修正されている。国連国別チーム（UNCT：United Nations Country Team）が、「2008年国連国別共通アセスメント（CCA：UN Common Country Assessment）」で指摘しているように、BiHにおいてはMDGに関して進捗が大いにあったという認識の下、既存のMDGはモニタリングの枠組みとしては使われていない。そこで、国連機関と政府は、国の状況をアセスメントするために社会的包摂の枠組みを採用している⁴⁹。しかしながら、政府におけるモニタリングシステムは、未だ稼働していない。本項では、BiHのMDG達成状況を、主にMDG改訂報告書、UN統計部の関連統計、国別共通アセスメント（CCA）、家計調査（HBS）2004年および2007年に基づき概観する。

5.1.1 MDG1：極度の貧困と飢えの撲滅

MDG1を達成するために、2つの大きな目標が設定されている。ひとつは、貧困者数の削減（目標1）、そしてもうひとつは、2015年までに飢えに苦しむ人々の割合の半減（目標2）である。国別共通アセスメント（CCA）では、目標1はほぼ達成するであろうと評価されており、目標2については、既に目標を達成している。

しかしながら、WB貧困アセスメント（2009年）によれば、BiHの貧困統計では、その推移を容易に比較したり、分析することが困難となっている。したがって、貧困削減の達成状況を評価することは難しい。比較のためにWBが再計算した貧困者比率は、第1章で述べたとおり、2004年から2007年にかけて4%ポイント減少し、同期間に20%削減されている。他方、BiH国連国別チーム（UNCT in BiH: United Nations Country Team in BiH）は「経済成長率は着実に伸びているにも拘らず、BiHには深刻な貧困が未だにある」⁵⁰とその進捗は不十分だと評価している。失業率は依然として高く、2001年には20%⁵¹、2007年には23.4%⁵²であった。さらに、失業に関しては、民族間の格差や男女間の格差が深刻である。近年では、若年層の失業も主要課題の1つとなりつつある。2008年の若年層の失業率は、2007年の58.4%から低下したにも拘わらず、47.5%であった⁵³。

⁴⁹ United Nations Country Team inBiH, “Common Country Assessment 2008” (2008), p.20

⁵⁰ United Nations Country Team inBiH, “Common Country Assessment 2008” (2008), p.29

⁵¹ UNDP, “MDG Update Report” (2004)

⁵² BHAS, “Labour Force Survey 2007” (2007)

⁵³ United Nations Country Team inBiH, “Common Country Assessment 2008” (2008), p.30

5.1.2 MDG 2：初等教育完全普及の達成

国別共通アセスメント（CCA）において、MDG-2 初等教育完全普及の達成という目標は、政策変更などが成されれば、達成可能と評価されており、現状、25%から 49%程度の達成度と評価されている。ただし、教育セクターに関する信頼できる公式統計がない点も指摘している。

DFID の資金協力により、国連児童基金（UNICEF：United Nations Children’s Fund）が 2006 年に実施した、複数指標クラスター調査（MICS：Multiple Indicator Cluster Survey）によれば、2006 年の純入学率は 98.4%（ISCED⁵⁴によれば 97.9%）である。初等教育修了率は、全体で 86.6%であり、初等教育に就学している男女比についてはそれほど格差がなく、女子は 98.6%（ISCED によれば 68.3%）、男子は 98.3%である。他方、国別共通アセスメント（CCA）では、少数民族に対する差別は依然として強く、15 歳から 24 歳のロマの 76%は非識字者であり、ロマの子供の少なくとも 64%が小学校に通っていないと指摘している。

5.1.3 MDG 3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上

BiH では、教育におけるジェンダーの割合は、概ね平等であるが、政治参加、労働参加、ジェンダーに基づく暴力に関しては、深刻な状況である。

政治参加については、政府の要職の女性の割合は 9%に過ぎない。国家レベルとエンティティレベルで大臣職は 64 あるが、そのうち女性大臣は 6 名のみである⁵⁵。

2007 年の女性労働力の占める割合は、男性の 63.5%に対し、35.5%であるに過ぎない⁵⁶。この数値は、BiH が南東欧地域において労働市場でもっとも女性の占める割合が低いということを示している⁵⁷。

複数の報告書⁵⁸で、ジェンダーに基づく暴力が BiH における懸念事項の一つであると指摘されている。UNDP の国別人間開発報告 2007 年（NHDR 2007）では、女性と子供に向けられる暴力は、男性に向けられる暴力の 5 倍以上であると報告されている。

国別共通アセスメント（CCA）は、MDG-3 は目標を達成する可能性が高いと評価している。

5.1.4 MDG 4：幼児死亡率の削減

国別共通アセスメント（CCA）によれば、2006 年の 5 歳未満幼児死亡率は 1,000 人当たり 15 人である。WB の世界開発指標（WDI：World Development Indicator）による 2008 年の数

⁵⁴ ISCED は International Standard Classification of Education（国際標準教育分類）の略である。

⁵⁵ UNCT in BiH, “Common Country Assessment 2008” (2008), p.37

⁵⁶ BHAS, “Labour Force Survey 2007” (2007)

⁵⁷ UNDP, “MDG Update Report” (2004), p.28

⁵⁸ UNCT (2008), UNDP(2004), UNDP, “National Human Development Report 2007 -Social Inclusion in BiH”など

値でも 15 人とされており、2001 年の 10.3 人より悪化している。また、国別共通アセスメント（CCA）によると、2006 年の 1 歳未満の乳児死亡率は 1,000 出生当たり 7.5 人であり、2001 年の 8.5 人よりも改善している。しかしながら、この数値は、2007 年 PRSP の目標であった 7.0 人を上回っており⁵⁹、WDI の 2008 年の数値では 13 人とさらに高い値を示している。したがって、2015 年までに MDG-4 の目標を達成するのは、難しいと見込まれる。

5.1.5 MDG 5：妊産婦の健康の改善

MDG-5 の目標と指標に関しては、いくつかの目標がまだ定義されていない。さらに、十分なデータがないために、目標に向けた達成度を現時点で評価することはできない。

5.1.6 MDG 6：HIV/AIDS、マラリア、その他の病気の撲滅

国別共通アセスメント（CCA）によれば、BiH は結核罹患率が高く、10 万人当たり 54 人が結核に苦しんでいる。他方、HIV/AIDS の感染率は低く、33 人が抗レトロウイルス療法の治療を受けている。

また、国別共通アセスメント（CCA）では、MDG-4 も目標達成の可能性は高いと評価している。

5.1.7 MDG 7：環境の持続可能性の確保

MDG-7 の目標と指標に関しては、いくつかの目標が未だ定義されていない。さらに、データ不足のため、現時点でその達成度合いを評価することは出来ない。

国別共通アセスメント（CCA）は、政策変更などがあれば、達成する可能性はあり、2007 年時点で 25% から 49% 程度の達成度と評価している。

5.1.8 MDG 8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

MDG-8 の目標と指標に関しても、いくつかの目標が未だ定義されていない。さらに、インターネット利用者に関するデータを除き、データ不足のため、現時点でその達成度を評価することはできない。100 人当たりのインターネット利用者数は、2004 年に既に目標を達成している。

⁵⁹ UNDP, “MDG Update Report” (2004), p.35

表 5-1 : BiH における MDGs の達成状況

MDGs Indicator	2000	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
Goal 1: Eradicate extreme poverty and hunger							
1.1	Employment to population ratio, 15+, total (%)	41	41		31.2 [^]	42 33.6 [^]	no target
1.2	Employment to population ratio, ages 15-24, total (%)	15	14		13.9 [^]	18 17.4 [^]	no target
1.3	GDP per person employed (annual % growth)	no target
1.4	Income share held by lowest 20%	9	7	7	not defined
1.5	Malnutrition prevalence, weight for age (% of children under 5)	4 4.1 ["]	2 1.5 ["]	2	0 on track
1.6	Poverty gap at \$1.25 a day (PPP) (%)	1	1	1	no target
1.7	Poverty headcount ratio at \$1.25 a day (PPP) (% of population)	2	2	2	no target
1.8	Vulnerable employment, total (% of total employment)	no target
1.9	(N) [UN] People living below the poverty line (%)	EU of 15 average
1.10	(N) [UN] Poverty gap ratio	4.6
1.11	(N) [EU] Inter-quintile ratio (richest: poorest income)	not defined
1.12	(N) [EU] Earning less than 60 % of median income (%)	not defined
1.13	(N) Real Annual GDP growth rate	..	5.8 [*]	..	6.0 ^{**}	5.5 ⁺	5.0 on track
1.14	(N) [EU] [UN] Gini Index/quotient	not defined
1.15	(N) [UN] Unemployment rate to population ration, ages 15-24, total (%)	58.4 [^]	47.5 [^]	12
1.16	(N) [EU] School leavers not in Education or Training	not defined
1.17	(N) Unemployment rate	29.0 [^]	23.4 ^{**}	not defined
1.18	(N) [EU] Long term unemployment rate	not defined
1.19	(N) [EU] Persons living in jobless households	not defined
1.20	(N) Informal sector Share in GDP	not defined
1.21	(N) Inflation rate	..	2.9 [*]	3.5 ^{**}	Up to ECB 2.2 rate plus 2 % on track
1.22	(N) [UN] People receiving less than daily energy needs (malnourishment) (no.N)	close to 0
1.23	(N) Food price inflation	<2.0
1.24	(N) Share of employment accounted for by informal sector	not defined
Goal 2: Achieve universal primary education							
2.1	Literacy rate, youth female (% of females ages 15-24)	100 99.8 ["]	99	not defined
2.2	Literacy rate, youth male (% of males ages 15-24)	100 99.7 ["]	100	not defined
2.3	Persistence to last grade of primary, total (% of cohort)	99.8 ^{^^}	not defined
2.4	Primary completion rate, total (% of relevant age group)	86.6 ^{^^}	no target
2.5	Total enrollment, primary (% net)	98.4 ^{^^}	100
2.6	(N) Total enrollment, secondary (%)	79.3 ^{^^}	85
2.7	(N) Total enrollment, tertiary (%)	35
2.8	(N) Literacy rate, 15+, total (%)	99
2.9	(N) Low adult educational attainment i.e. below ISCED2	not defined
2.10	(N) Children attending pre-schooling (%)	25
2.11	(N) Share of GDP devoted to education (%)	7.5
2.12	(N) Per pupil expenditure for secondary schools	not defined
Goal 3: Promote gender equality and empower women							
3.1	Proportion of seats held by women in national parliaments (%)	29 28.6 ["]	17 16.7 ["]	16.7 ["]	14.3 ["]	12 11.9 ["]	25 off track
3.2	Ratio of female to male enrollments in tertiary education	100
3.3	Ratio of female to male primary enrollment	..	94	..	93 ["]	94	100 on track
3.4	Ratio of female to male secondary enrollment	..	104	..	103 ["]	104	100 on track satisfactory
3.5	Share of women employed in the nonagricultural sector (% of total nonagricultural employment)	..	35.2	35.2 ["]	34.7 ["]	34.7	45 off track
3.6	(N) Literacy ratio for men and women aged 15-24 (%)	not defined
3.7	(N) Women in executive authority (%)	10
3.8	(N) Share of women among employed population (%)	40
Goal 4: Reduce child mortality							
4.1	Immunization, measles (% of children ages 12-23 months)	80	90	90 ["] 75 ^{**}	96 ["]	84	no target
4.2	Mortality rate, infant (per 1,000 live births)	14	13	7.5 ^{**}	13 ["]	13	5 off track

MDGs Indicator		2000	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
4.3	Mortality rate, under-5 (per 1,000)	17	16 15"	15**	14"	15	7	off track
4.4	(N) Immunization, smallpox (% of children under -1 year old)	100	
4.5	(N) Percentage of new born children weighing 2,500 grams or less	1	
4.6	(N) Percentage of breastfeeding children under 6 months	15	
Goal 5: Improve maternal health								
5.1	Adolescent fertility rate (births per 1,000 women ages 15-19)	24 20.1"	18 15.5"	15.7"	..	16	no target	
5.2	Births attended by skilled health staff (% of total)	100 99.6"	100	99.6"	..	100	not defined	
5.3	Contraceptive prevalence (% of women ages 15-49)	48 47.5"	36	35.7"	..	36	no target	
5.4	Maternal mortality ratio (modeled estimate, per 100,000 live births)	..	3	2.5	on track
5.5	Pregnant women receiving prenatal care (%)	99 99.2"	99	98.9"	..	99	no target	
5.6	Unmet need for contraception (% of married women ages 15-49)	..	23	23	no target	
5.6	(N) Number of Gynecologists and Qualified Midwifery staff per 1000 women	not defined	
5.7	(N) Number of women attending pre-natal examinations (no.)	not defined	
Goal 6: Combat HIV/AIDS, malaria, and other diseases								
6.1	Children with fever receiving anti-malaria drugs (% of children under age 5 with fever)	no target	
6.2	Condom use, population ages 15-24, female (% of females ages 15-24)	71"	..	no target	
6.3	Condom use, population ages 15-24, male (% of males ages 15-24)	no target	
6.4	Incidence of tuberculosis (per 100,000 people)	63 62.8"	52 52.2"	51.7"	51.1"	51	20 cases, 0 death	off track
6.5	Prevalence of HIV, female (% ages 15-24)	no target	
6.6	Prevalence of HIV, male (% ages 15-24)	no target	
6.7	Prevalence of HIV, total (% of population ages 15-49)	..	0.1	0.1	no target	
6.8	Tuberculosis cases detection rate (all forms) (%)	84	84	69	no target	
6.9	(N) Adults with AIDS, number of (new AIDS cases)	50-55	on track
6.10	(N) Prevalence of HIV, total (% of population at all ages)	0.004	on track
6.11	(N) Financial support to NGOs working on sexual and health education	not defined	
6.12	(N) Percentage of population with access to HIV testing	not defined	
6.13	(N) [UN] Tuberculosis cases detected and treated under DOTS (per 1000,000)	not defined	
6.14	(N) Deaths due to suicides and high risk behaviours (misadventure)	not defined	
6.15	(N) [EU] Life Expectancy at Birth (2001)	not defined	
6.16	(N) [EU] Perceived ill-health	not defined	
6.17	(N) [UN] Percentage of population with regular access to essential affordable medication	50'	95	
6.18	(N) Percentage of GDP devoted to health expenditure (%)	8	
6.19	(N) Percentage of insured citizens	not defined	
6.20	(N) Number of physicians (per 1,000 population)	1.3'	not defined	
6.21	(N) Average response time to accidents in minutes	not defined	
Goal 7: Ensure environmental sustainability								
7.1	CO2 emissions (kg per PPP \$ of GDP)	1 1.2"	1 1.1"	1.1"	..	1	no target	
7.2	CO2 emissions (metric tons per capita)	6	7 6.5"	7"	..	7	3	off track
7.3	Forest area (% of land area)	42.7 43.1"	42.7 43.1"	42.7	60	off track
7.4	Improved sanitation facilities (% of population with access)	96	95	95" 93.0^^	..	95	no target	
7.5	Improved water source (% of population with access)	97	99	99" 98.7^^	..	99	no target	
7.6	Marine protected areas, (% of surface area)	0"	0"	0"	0"	0	no target	
7.7	Terrestrial protected areas (% of total surface area)	0.8"	0.8"	0.8"	0.8"	1 0.8"	no target	
7.8	(N) [UN] Output (GDP) by unit of energy (kg of oil) consumed in 1995 PPP US\$	4.9	
7.9	(N) Electricity consumption/ per capita (kwh/per capita)	SEE Average	
7.10	(N) [UN] Percentage of land protected to maintain biodiversity	6.0	
7.11	(N) Taxes on non-renewable energy sources (% of total taxes)	not defined	

MDGs Indicator	2000	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
7.12 (N) Percentage of population connected to main water supply system	67	
7.13 (N) Percentage of population with sewerage disposal	40	
7.14 (N) Capital investment in the water supply system (KM 000s)	not defined	
7.15 (N) Percentage of de-mined fields	80	
7.16 (N) ODA and Government Resource devoted to mine clearance KM 000s	not defined	
Goal 8: Develop a global partnership for development							
8.1 Aid per capita (current US\$)	199	141	128	no target	
8.2 Debt service (PPG and IMF only, % of exports, excluding workers' remittances)	13 12.6"	4 3.6"	4.5"	3.5"	2	no target	
8.3 Internet users (per 100 people)	1.1 1"	21.3 20.6"	24.3"	26.8" 20.3**	34.7	15	on track satisfactory
8.4 Mobile cellular subscriptions (per 100 people)	3 2.4"	42 40.8"	48.3"	62.3"	84		
8.5 Telephone lines (per 100 people)	21 20.3"	26 24.8"	25.3"	27.1"	27	no target	
8.6 (N) Perception of presence of corruption (%)	Below 50	
8.7 (N) Perception of corruption as being widespread (%)	Below 25	
8.8 (N) GRICS-Governance Research Indicator Country Snapshot:- Political Stability index	not defined	
8.9 (N) Export as a share of Imports	80	
8.10 (N) FDI as a % GDP	13.8**	..	7	
8.11 (N) 【UN】 Share of total ODA in GDP	1	
8.12 (N) Number of EU compliance measures to be undertaken each year	not defined	
8.13 (N) Status of WTO accession negotiations	Fully compliant	
8.14 (N) Share of GDP occupied by public consumption (%)	not defined	
8.15 (N) Total debt per GDP (%)	not defined	
8.16 (N) Debt Service Ratio, service payments in % of exports	11	
8.17 (N) Exports per GDP (%)	43	
8.18 (N) Manufactures as a % of exports	not defined	
8.19 (N) 【UN】 Telephone lines (per 1000 people)	260	
8.20 (N) 【UN】 PCs (per 1000 people)	120	
8.21 (N) Expenditure for research and development as % of GDP	1.0	
8.22 (N) Number of academic papers published in reference journals (per 100,000 population)	not defined	
Other							
9.1 Fertility rate, total (births per woman)	1	1	1		
9.2 GNI per capita, Atlas method (current US\$)	1,500	3,000	4,520		
9.3 GNI, Atlas method (current US\$) (billions)	5.5	11.3	17.1		
9.4 Gross capital formation (% of GDP)	21.2	22.0	24.4		
9.5 Life expectancy at birth, total (years)	74	75	75		
9.6 Literacy rate, adult total (% of people ages 15 and above)	97	98		
9.7 Population, total (millions)	0.0	0.0	0.0		
9.8 Trade (% of GDP)	107.5	107.7	73.6		

(出所) World Development Indicators database, the WB Group

... ' : MDG Update Report for BiH 2004: PRSP, Europe and Beyond

... " : MDG Info 2009, United Nations Statistic Division. <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>

... * : PRSP Bosnia and Herzegovina 2007

... ** : Common country Assessment 2008, UN Country team in BiH

... ^ : Labour Force Survey 2009, Agency for Statistics of BiH

... ^^ : Multiple Indicator Cluster Survey 2006, UNICEF BiH

... + : Annual Report 2008, Central Bank of BiH

(注) (N) = National goals

【EU】 = Similarly those which are common to EU social inclusion framework

【UN】 = Those indicators and targets which are common to both local and global data sets

5.2 貧困モニタリングのシステム

5.2.1 MDG のモニタリング方法

BiH には、確立された MDG のモニタリングシステムがない。UNDP は、MDG のモニタリングに関して、信頼でき、一貫性のあるデータ収集システムを構築するためには、複数ある統計局⁶⁰の能力強化とその連携が、特に重要であり、また、それ以上に、包括的な全国国勢調査を行うことが先決である、と提言している。

経済計画・実施ユニット（EPPU：Unit for Economic Planning and Implementation）が、中期開発戦略（MTDS：Mid-Term Development Strategy）、すなわち、BiH の PRSP のモニタリングと実施のために設置された。EPPU は、内閣府の下に経済計画局（DEP：Directorate for Economic Planning）として改組された。現在、経済計画局（DEP）は国家戦略と社会的包摂戦略の計画を行っている。今後は、それら戦略のモニタリングと実施を担うことが期待されている。

5.2.2 データ収集システム

第 1 章で述べた通り、BiH ではドナーによる支援のもと、2001 年以降、世帯レベルのサンプル調査を実施し、生活水準に関するデータ収集を行っている。2001 年から 2004 年にかけては、DFID とのパートナーシップにより生活水準測定調査（LSMS）が毎年実施された。その後、BiH 統計当局は、同じく DFID とイタリア政府の支援のもと実施されている家計調査（HBS）を貧困モニタリングのために使用している⁶¹。しかしながら、LSMS と家計調査（HBS）の手法や指標が異なるため、これらのデータを単純に比較することはできない。

また、BiH には 3 つの統計当局があり、データの中には統一された方法で収集されていないものもある。この問題は、改善されつつあるものの、モニタリングのためには改善しなければならない別の問題が存在する。LSMS や家計調査（HBS）といった世帯に関する調査は、ドナーによる資金援助を受けて実施されている。すなわち、ドナーの支援なしでは、これらの調査は継続することが困難な状況にある。実際に、次回の家計調査（HBS）は 2010 年に予定されていたが、ドナーの資金配分が遅れたため、2011 年に延期されている。戦略や MDG の進捗の効果的なモニタリングのためには、資金面も含め、技術的な能力、運営能力など、政府の能力を強化する必要がある。

⁶⁰ BiH には、国レベルと各エンティティに統計当局が存在する。

⁶¹ World Bank, “Protecting the Poor during the Global Crisis: 2009 BiH Poverty Update” (2009), p.9

表 5-2 : 貧困モニタリングのためのデータ収集調査

調査	実施機関	頻度	最新調査時期
国勢調査	Agency for Statistics of BiH Federani zavod za statistiku	10年に一度	1991年 (次回調査:2010年)
LSMS	Agency for Statistics of BiH Federani zavod za statistiku Republika Srpska Institute of Statistics	2001年-2004年の間 毎年	2004年
HBS	Agency for Statistics of BiH Federani zavod za statistiku Republika Srpska Institute of Statistics	2004年以降 3年に1度	2007年 (次回調査:2011年)
労働力調査	Agency for Statistics of BiH Federani zavod za statistiku Republika Srpska Institute of Statistics		2007年

別 添

別添 1：貧困・不平等指標の解説

(1) 貧困指標

用語	解説
貧困ライン (Poverty Line)	<p>■ 相対貧困ライン (Relative poverty lines)</p> <p>当該国の所得あるいは消費の分配との関係で定義される「相対貧困」を測定するための基準。「相対貧困」は大多数の人々よりも貧しい状態にあることを意味する。相対貧困ラインは、例えば、EU 基準では「当該国の所得の平均値の 60%」を相対貧困ラインとして設定し、それ以下の所得あるいは消費水準にある人が貧困層と定義される。</p> <p>ボスニア・ヘルツェゴビナでは、EU の基準に準じて、「1 人当たり消費額の中央値 (メディアン) の 60%」としている。</p> <p>■ 絶対貧困ライン (Absolute poverty lines)</p> <p>必要最小限の生活水準 (basic needs) を満たすための絶対的水準。貨幣価値による測定 (最小費用法: Cost of Basic Needs Methods) では、最低食料費用と食料以外に最低限必要な所得あるいは消費額を推定し、これに基づいて絶対貧困ラインを設定する。最低食料費用は、栄養学上、人間が通常の生活を営み、健康を維持するのに最低限必要なエネルギー (kcal) を摂取するための費用である。必要エネルギー摂取量は、年齢、性別、体重、外気温によって調整される。</p>
貧困者比率 / 貧困率 (P0: Poverty Headcount Index/ Poverty Incidence)	<p>貧困ライン未満の人数の対象人口全体の人数に対する比率。貧困の規模を最もわかりやすく表示する指標。この指標は、その計測方法の単純さから、直感的に貧困の度合いの大小を把握する上では簡便な指標ではあるが、貧困ライン未満所得 (又は消費) 階層 (間) における所得 (又は消費) 水準や、所得 (消費) 分布を把握することができない。</p> $HCI = \frac{q}{N}$ <p>q: 貧困層の人数 N: 集団全体の人数</p>
貧困ギャップ比率 (貧困の深度) (P1: Poverty Gap Index/ Poverty Depth)	<p>貧困ラインと貧困ライン未満人口の平均所得の差分の貧困ラインに対する比率の平均値。すなわち、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準との距離 (乖離度) を示す指標。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準が低下する程、貧困の深度は上昇する。貧困ラインまでの不足額を必要移転額として、貧困削減に必要な最小コストとみなすことができる。</p> $PGI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left(\frac{z - y_i}{z} \right)$ <p>N: 集団全体の人数 z: 貧困ライン y_i: 各人の所得</p>

用語	解説
2乗貧困ギャップ比率 (P2: Squared Poverty Gap Index/ Poverty Severity)	<p>貧困ライン未満人口の平均所得と貧困ラインとの格差の貧困ラインに対する比率の2乗の平均値。貧困の重度 (severity)、すなわち、貧困ライン所得 (消費水準) 未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 不平等度を示す。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 分配が悪化 (不平等化) する程、貧困の重度は上昇する。</p> $SPI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left(\frac{z - y_i}{z} \right)^2$ <p>N: 集団全体の人数 z: 貧困ライン y_i: 各人の所得</p>

(参考文献) World Bank, “Poverty Reduction Strategy Paper (PRSP) Sourcebook” (2004)
World Bank, “Handbook on Poverty + Inequality” (2009)

(2) 不平等指標

用語	解説
ジニ係数(Gini coefficient)と ローレンツ曲線(Lorenz Curve)	<p>ジニ係数は、完全に公平な分布から、経済の中で所得(あるいは消費支出)の分布範囲がどこまで乖離しているかを示すものである。ローレンツ曲線は、最も所得(または消費)水準の低い個人から最も高い個人に向かって人口の累積分布を横軸に、所得の累積分布を縦軸に測ることで表される曲線を示す。ジニ係数は、完全平等を示す45度の対角線とローレンツ曲線との面積が、45度対角線の下側の三角形の面積に占める割合である。ジニ係数の0は完全な平等を表現し、1は完全な不平等(1人あるいは1つの世帯が全ての所得または消費を独占している)を表わす。</p>
タイル指数(Theil index)	<p>所得(支出)の総計に占める個人の所得(支出)の割合と平均所得(支出)に対する個人の所得(支出)の比率に基づいて算出される不平等の度合いを示す指数。対象人口全体(N)の所得分配が全人口間で完全に平等である場合には0に、1人によってすべての所得が得られている完全不平等の場合はln(N)となる。</p> $Z(l) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{y_i}{\bar{y}} \log \frac{y_i}{\bar{y}}$ <p>n: 集団全体の人数 y_i: 各人の所得 \bar{y}: 各人の所得の算術平均値</p> <p>タイル指数は、サブグループごとに重み付けをおこなった不平等の合計であることから、それぞれのサブグループが全体の不平等にどのように貢献しているのかを分解して、分析することができる。</p> <p>I(全体の不平等度) = I_w(サブグループ内の不平等度) + I_b(サブグループ間の不平等度)</p>

(参考文献) World Bank, “Poverty Reduction Strategy Paper (PRSP) Sourcebook” (2004)
World Bank, “Handbook on Poverty + Inequality”(2009)

(3) 人間開発指数と人間貧困指数

用語	解説
<p>人間開発指数 (HDI: Human Development Index)</p>	<p>人間開発の3つの基本的側面(寿命、知識、生活水準)について、各国の平均達成度を測定する合成指数。それぞれの基本的側面の達成度の測定は、以下の指標に基づいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 長寿で健康的な生活: 出生時平均余命 ■ 知識へのアクセス: 成人識字率および粗就学率 ■ 適切な生活水準: 1人当たり GDP (PPPドル)
<p>人間貧困指数 (HPI: Human Poverty Index)</p>	<p>HDIと同様、人間開発の3つの基本的側面(寿命、知識、生活水準)における貧困状況を測定する合成指数。途上国向けの HPI-1 と OECD 加盟国向けの HPI-2 が設定されており、HPI-1 と HPI-2 では、それぞれの基本的側面の貧困度の測定に用いられる指標が異なっている。なお、HPI-2 では、3つの側面に加えて、「社会的排除」が含まれている。</p> <p>【HPI-1: 途上国向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 長寿で健康的な生活: 40歳まで生存できない出生時の確率 ■ 知識へのアクセス: 成人識字率 ■ 適切な生活水準: 安全な水源を利用していない人口の割合および5歳未満の低体重児の割合 <p>【HPI-2: OECD 加盟国向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 長寿で健康的な生活: 60歳まで生存できない出生時の確率 ■ 知識へのアクセス: 機能的非識字(日常的に必要な読み書き、計算ができない状態)の成人に占める割合 ■ 適切な生活水準: 貧困ライン以下の人口の割合 ■ 社会的排除: 長期失業率

(参考文献) UNDP, “Human Development Report”

別添 2 : BiH 統計庁の貧困ライン

食料貧困ライン (FPL : Food Poverty Line) は、最低栄養所要量 (2,100kcal) に基づき算出されている。最低栄養所要量を満たすための食料を購入するのに必要な金額は、1 世帯あたり KM 1,005.68 相当 (2007 年) であり、これを 2007 年の FPL と定義している。FPL に基づき、家計の全消費に占める平均食料支出の割合(それぞれ異なる推定値を採用)に基づいて、3 つの異なる一般貧困ライン (GPL : General Poverty Lines) が算出されている。

a. GPL1 : 世帯あたり KM 3,154.18

食料支出額の水準が貧困ラインの±5%である世帯を対象とした場合、世帯の平均的な食料支出の割合は、31.88% (中央値/メディアンは 30.0%) である。したがって、GPL1 は、

$$GPL1 = FPL/0.3188 = 1,005.68/0.3188 = 3,154.18 \text{ (KM)}$$

と算出される。

b. GPL2 : 世帯あたり KM 2,993.08

WB 貧困アセスメント (2003) ¹で指摘された外食にかかる費用を考慮すると、全体的な食料支出の割合は家計の全消費支出額のうち 35.8%となる。したがって、GPL2 は、

$$GPL2 = FPL/0.336 = 1,005.68/0.336 = 2,993.08 \text{ (KM)}$$

と算出される。

c. GPL3 : 世帯あたり KM 2,857.31

WB 貧困アセスメント (2003) 指摘によれば、保健医療への支出は、消費階層 10 分位の最上位層によることがほとんどであることから、保健医療への支出を全消費から除くべきであるとされた。医療費を除き外食を含めた場合、食料支出額の割合は 35.2%となる。したがって、GPL3 は、

$$GPL3 = FPL/0.3519 = 1,005.68/0.3519 = 2,857.31 \text{ (KM)}$$

と算出される。

¹ World Bank, "Bosnia and Herzegovina Poverty Assessment" (2003)

添付資料

(1) 主要な政策文書一覧と入手先

File No.	Name of Document	Publisher	Year	Source
1	Bosnia and Herzegovina Poverty Reduction Strategy Progress Report (PRSP) and joint IDA-IMF Staff Advisory Note	The World Bank	2007	http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2007/06/27/000090341_20070627105208/Rendered/PDF/40052.pdf
2	Public Administration Reform Strategy	Council of Ministers BiH	-	PDF file
3	Strateski Plan Razvoja Zdravstva u Federaciji Bosne I Hercegovine u Periodu Od 2008.do 2018.Godine (Strategic development plan for health care in FBiH for the period of 2008-2018) (IN BOSNIAN)	Federal Ministry of Health	2008	Word file
4	Social Inclusion Strategy of Bosnia and Herzegovina (Draft Document)	Council of Ministers/ Directorate for Economic Planning	2009/09	PDF file

(2) 主要な統計調査一覧

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
1	Living Standard Measurement Survey in BiH 2001	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina	2001	Yearly basis	http://www.fzs.ba/lsmspdfb.htm
2	Living Standards Measurement Study Survey 2001 (Basic Information Document)	World Bank/ Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina	2001	Yearly basis	http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1181743055198/3877319-1190300029638/bihbinfoe.pdf
3	Welfare in Bosnia and Herzegovina, 2001: Measurement and Findings *Report based on LSMS 2001	State Agency for Statistics/ Republika Srpska Institute of Statistics/ Federation of BiH Institute of Statistics	2002/12	-	http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1181743055198/3877319-1190300029638/BiH_ANNX_poverty10a_updated.pdf
4	Labour and Social Policy in Bosnia and Herzegovina: The development of policies and measures for social mitigation Panel Study first Draft WAVE 2 Report	Birks Sinclair & Associates Ltd. Mountjoy Research Centre/ Independent Bureau for Humanitarian Issues/Institute for Social and Economic Research, University of Essex	2003/08	Yearly basis	http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1181743055198/3877319-1190299568614/LiBiH_W2_Report.pdf
5	Labour and Social Policy in Bosnia and Herzegovina: The development of policies and measures for social mitigation Panel Study Final Report	Birks Sinclair & Associates Ltd. Mountjoy Research Centre/ Independent Bureau for Humanitarian Issues/Institute for Social and Economic Research, University of Essex	2004/11	Yearly basis	PDF File
6	Labour and Social Policy in Bosnia and Herzegovina: The development of policies and measures for social mitigation Panel Study Wave 4 Report	Birks Sinclair & Associates Ltd. Mountjoy Research Centre/ Independent Bureau for Humanitarian Issues/Institute for Social and Economic Research, University of Essex	2005/05	Yearly basis	http://siteresources.worldbank.org/INTLSMS/Resources/3358986-1181743055198/3877319-1190298527311/LiBiHW4Report.pdf
7	HBS 2004 final results The BiH Household Budget Survey 2004	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2004	series, For the First time	PDF File
8	HBS 2007 final results The BiH Household Budget Survey 2007	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2007	series, The second HBS after 2004.	http://www.bhas.ba/ANKETE/hbs_07/hbs_07_000-en.pdf

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
9	HBS 2007 poverty and living conditions The BiH Household Budget Survey 2007	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2007	The second HBS after 2004.	http://www.bhas.ba/ANKETE/hbs_07/hbs_07_001-en.pdf
10	Labour Force Survey 2007	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2007	For the second time / Yearly basis	http://www.bhas.ba/ANKETE/LFS%202007/ARS-07-bh.pdf
11	Labour Force Survey 2008	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2008	Yearly basis	http://www.bhas.ba/RHIVA/2008/TB/lfs/lfs-bh.pdf
12	Labour Force Survey 2009	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics	2009	Yearly basis	http://www.bhas.ba/Rhiva/2009/ankete/ars_2009_001_001-bh.pdf
13	Cartography Group Study on Technology for production of cartographic documentation for 2011 Census	Agency for Statistics of Bosnia and Herzegovina/ Federal Office of Statistics/ Republika Srpska Institute for Statistics/ UNFPA	2007/07	ad-hoc	Hard Copy
14	Multiple Indicator Cluster Survey 2006	Directorate for Economic Planning Bosnia and Herzegovina/ Ministry of Health and Social Welfare Republika Srpska/ Ministry of Health of the Federation of Bosnia and Herzegovina / DFID / UNICEF	2007/09	ad-hoc	http://www.childinfo.org/mics3_surveys.html
15	Population of the Federation Bosnia and Herzegovina 1996-2006	Federal Office of Statistics	2008/05	ad-hoc	http://www.fzs.ba/Dem/stanovnistvo-bilten110.pdf
16	Women and men in Federation of Bosnia and Herzegovina 2004	Federal Office of Statistics	2004	every other year *This is the second one after 2001	http://www.fzs.ba/Eng/gendere.htm
17	Women and men in Federation of Bosnia and Herzegovina 2006	Federal Office of Statistics	2006	every other year	http://www.fzs.ba/Eng/gendere.htm
18	Women and men in Federation of Bosnia and Herzegovina 2008	Federal Office of Statistics	2008	every other year	http://www.fzs.ba/Eng/gendere.htm

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
19	Statistical Yearbook 2006	Federal Office of Statistics	2006/12	Yearly basis	http://www.fzs.ba/Podaci/godisnjak2006.pdf
20	Statistical Yearbook 2007	Federal Office of Statistics	2007	Yearly basis	http://www.fzs.ba/Sve%20G-2007.pdf
21	Statistical Yearbook 2008	Federal Office of Statistics	2008	Yearly basis	http://www.fzs.ba/god2008/GODISNJAK%202008.pdf
22	Statistical Yearbook 2009	Federal Office of Statistics	2009	Yearly basis	http://www.fzs.ba/Statisticki%20godisnjak%202009.pdf
23	Federation of Bosnia and Herzegovina in Figures	Federal Office of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.fzs.ba/Podaci/Federacijaubrojka2008.pdf
24	Household Budget Survey Release 2007	Republika Srpska Institute of Statistics	2008/12	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/Ankete/HBS/PotrDom2007.pdf http://www.rzs.rs.ba/Ankete/HBS/PotrDom2007Prilog.xls
25	Household Budget Survey and Poverty in Repblika Srpska in 2007	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/AnketePotrosnjaDomacinstavaENG.htm
26	Labour Force Survey Release 2007	Republika Srpska Institute of Statistics	2007/08	Yearly basis	http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/RadnaSnaga/ARS-07.pdf
27	Labour Force Survey Release 2008	Republika Srpska Institute of Statistics	2008	Yearly basis	http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/RadnaSnaga/ARS-08.pdf http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/RadnaSnaga/ARS-08.xls
28	Labour Force Survey 2009 Annual Release	Republika Srpska Institute of Statistics	2009/07	Yearly basis	http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/RadnaSnaga/ARS-09.pdf http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/RadnaSnaga/ARS-09.xls
29	Republika Srpska in Figures 2008	Republika Srpska Institute of Statistics	2008	For the first time / Yearly basis	http://www.rzs.rs.ba/PublikRSUBrojkaENG.htm
30	Republika Srpska in Figures 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	Yearly basis	http://www.rzs.rs.ba/PublikRSUBrojkaENG.htm
31	Women and men in Republika Srpska 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	series, The fifth publication	http://www.rzs.rs.ba/Publikacije/Gender/GenderBiltenBr5.pdf
32	Transport Statistics 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/Saopstenja/Saobracaj/Godisnja/RegistrovanaVozila_2009.pdf
33	Transport and Communications 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikSaobracajENG.htm
34	Statistics of wages, employment and unemployment	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikRadENG.htm
35	Education Statistics Higher Education 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikObrazENG.htm#високе

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
36	Education Statistics Secondary Education end of 2007/2008 and beginning of 2008/2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikObrazENG.htm#средање
37	Education Statistics Basic Education end of 2007/2008 and beginning of 2008/2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikObrazENG.htm#основне
38	Social Welfare Statistics Beneficiaries, Forms, Measures, Services and Institutions	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikSocZastiteENG.htm
39	Demographic Statistics 2009	Republika Srpska Institute of Statistics	2009	ad-hoc	http://www.rzs.rs.ba/PublikDemENG.htm
40	Statistics Package 2001	UNHCR	2001/12	monthly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=138:statistics-2001&Itemid=139&layout=default
41	Statistics Package 2002	UNHCR	2002/12	monthly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=137:statistics-2002&Itemid=139&layout=default
42	Statistics Package 2003	UNHCR	2003/12	monthly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=136:statistics-2003&Itemid=139&layout=default
43	Statistics Package 2004	UNHCR	2004/12	monthly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=135:statistics-2004&Itemid=139&layout=default
44	Statistics Package 2005	UNHCR	2005/12	monthly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=134:statistics-2005&Itemid=139&layout=default
45	Statistics Package 2006	UNHCR	2006/12	monthly basis (except Oct-Dec)	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=133:statistics-2006&Itemid=139&layout=default
46	Statistics Package 2007	UNHCR	2007	quarterly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=114:stat2007&Itemid=139&layout=default

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
47	Statistics Package 2008	UNHCR	2008	quaterly basis	http://www.unhcr.ba/index.php?option=com_content&view=category&id=108:stat2008&Itemid=139&layout=defaul
48	Returns of refugees in FBiH 1996-2008		2008	ad-hoc	http://www.fzs.ba/Dem/ProcPrist/Ukupan%20broj%20pov_izbjeg_raselj%20osoba%201996_2008_bez0.pdf
49	Executive Summary of Main Findings Report on Returnees/Displaced persons	Oxford Research International	2007	ad-hoc	http://europeandcis.unep.org/cpr/show/161BE7CD-F203-1EE9-BD4C1FDAE001EFBC

(3) 主要なマイクロファイナンス機関一覧

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
1	AMFI (Association of Microfinance Institutions in Bosnia and Herzegovina)	Branilaca Sarajeva 20 Sarajevo 71000	+387 33 205 133	None	amfi@bih.net	http://www.amfi.ba/	The aim is to decrease poverty and support socially vulnerable people who have no possibilities of obtaining financial resources from traditional banks to develop small and medium enterprises.	*The website has English page, but currently not available.
2	EKI	Zvornicka 9 71000 Sarajevo	+387 33 651-112 +387 33 651-113	Sadina Bina (Director)	wvimikro@bih.net	http://www.mkoeki.com	Microcredit foundation EKI was created from the microcrediting programme of World Vision International (WVI). It aims to reduce economic causes of poverty through loans and services aiming to start up and improve small businesses, crafts, services and agriculture.	
3	LOK Micro	Skenderija 13 71000 Sarajevo	+387 33 442 931 +387 33 442 932	Nusret Čaušević (Director)	central.office@lok.ba info@lok.ba	http://www.lok.ba/?jezik=bos	The basic business activity is provision of microloans in accordance with the Law on Microcredit Organizations with the aim of improving the material status of the microloan users, as well as increasing employment and supporting entrepreneurship development.	
4	MI-BOSPO	Bosne srebrene bb 75 000 Tuzla	+387 35 270 283	Nejira Nalić (Director)	mi-bospo@mi-bospo.org	http://www.mi-bospo.org/	The aim is to provide loans to women in BiH to increase their income at home in order for them to be able to have a higher quality of family lives, to fund their children for education as well as to have better housing.	
5	MIKRA	Marka Marulića 2/VI Poslovna zgrada «UNIPROMET» 71 000 Sarajevo	+387 33 616-162	Sanin Campara (Director)	mikra@mikra.ba	http://www.mikra.ba/	MIKRA, which was founded by Catholic Relief Services (CRS), offers loans intended to support small business, with a primary goal of providing support to economically active women, particularly focusing on those with lowest income levels.	
6	MIKRO ALDI	Panorama bb 73 000 Goražde	+387 38 226 456	Ferida Softic (Director)	mka.aldi@bih.net	http://www.mikroaldi.org/	MIKRO ALDI provides suitable financial services to economically active population with low-income rate, in order to improve living conditions within local economies.	
7	MIKROFIN	Save Kovačevića 23 78 000 Banja Luka	+387 51 301 535	Aleksandar Kremenovic (Director)	mfbl@inecco.net	http://www.mikrofin.com/	Microfin tailors their products according to customer needs and market demands. The credits includes (1) Loans for renovation, reconstruction, expansion (2) Credit for entrepreneurs, (3)Fast non-purpose loan, (4) Credit for agriculture, (5) Shopping credit.	

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
8	Partner Mikrokreditna Organizacija	Ulica 15 Maja (Trzni centar Sjenjak) 75 000 Tuzla	+387 35 245-780 +387 35 245-781	Senad Sinanovic (Director)	partner@partner.ba	http://www.partner.ba/	Partner provides financial services to economically active people who have difficult or do not have access to commercial sources of funding, for starting and improving business and improving quality of life. Main activities are supporting micro entrepreneurs.	
9	Prizma	Ulica 15 Maja (Trzni centar Sjenjak) 75 000 Tuzla	+387 33 552-000 +387 33 552-001	Kenan Crnkic (Director)	hq@prizma.ba	http://www.prizma.ba/	PRIZMA offers enterprise loans for start-up and improvement of small business, trade, services, agriculture, livestock raising, reconstruction and repair of housing and office facilities, loans for basic needs (fuel, food supplies, school supplies, etc.).	
10	Sinergija plus	Mladena Stojanovića 111 78 000 Banja Luka	+387 51 332-600	Zeljko Bogdanic (Director)	info@mkosinergijaplus.org	www.mkosinergijaplus.org	"Sinergija plus" offers variety of financial services with intention to existing private micro, small and medium enterprises, self-employment business, agriculture households and entrepreneurs in production, services, agriculture and trade sectors.	
11	Sunrise	Envera Šehovića 16A 71 000 Sarajevo	+387 33 278-020	Mirsad Milavic (Director)	sunrise@bih.net sunrise@microsunrise.ba	http://www.microsunrise.ba/	Micro "Sunrise" works long term and efficiently to deliver services to the targeted clients and offer a significant contribution to increase employment and decrease poverty as well as aid in the transition of social ownership in the post-conflict era.	
12	Women for Women international (Zena za Zene)	Dzemala Bijedića 130 71 000 Sarajevo	+387 33 469-970 +387 33 469-971	Seida Saric (Director)	zene@bih.net	http://www.womenforwomen.org/	As a part of their activities, "Women for Women" provides critical job skills training to help women transform their new skills into financial independence and sustainability as well as business development and management education, and microfinance.	
13	Lider	Kundurđiluk 3 71 000 Sarajevo	+387 33 475-395 +387 33 233-180	Zijad Hasovic (Director)	zijadh@lider.ba	http://www.lider.ba	The aim is to contribute to improvement of economic and living conditions of business people and citizens through providing high quality credit services to citizens and businesses in rural and urban areas of BiH.	
14	Prva Islamska	Islamska Mikrokreditna Fondacija Jukiceva 75 71 000 Sarajevo	+387 33 666 233 +387 33 666 234	Hamad Mohammad (Director)	info@islamic-relief.ba	http://www.mfi.ba/	The Foundation operates under the principles of Islamic banking and its aim is to improve the economic and social conditions of the program users, their families and communities through the provision of micro finance services in order to create income.	

References:

Name	Link	Memo
Member lists of AMFI (Association of Microfinance Institutions in Bosnia and Herzegovina)	http://www.amfi.ba/index.php?option=com_content&task=view&id=26&Itemid=44	Only Bosnian page is available. 13 organizations (No.2 -No.14) : Members of AMFI (Association of Microfinance Institutions in Bosnia and Herzegovina)

(4) 主要な NGO ・ 市民社会組織一覧

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
1	Helsinki Committee for Human Rights in Bosnia and Herzegovina	Ante Fijamenga 14b, 71000 Sarajevo	+387-33-660-809	None	info@bh-hchr.org	*The aim of the Committee is to protect and promote the human rights in BiH. *Main activities are promoting human rights and systematic follow-up of the state of human rights in BiH, reaching against violation of human rights, providing professional legal supports.	The area of focus is human right
2	STAR Network	Sarajevo	+ 387-33-558-471	Selma Hadžihalilovic	ramp@zonta-star.worldlearning.ba	*To plan practical actions to bring long-term solutions for tough issues that affect women's lives. *To educate and empower local women to teach and inspire each other. *To educate the public and policymakers about needs for political and economic change.	The area of focus is human right and women.
3	BiH Youth network	ORC Tuzla Hadži Bakirbega Tuzlica 1, 75000 TUZLA	+387-35-258-077	Miralem Tursinovic (Director of hCa Tuzla) Emir Sejranc (Project Co-ordinator) Delalic Emir Zeko (Technical assistant)	orctuzla@bih.net.ba	*The aim of the organisation is to help in work to youth organisations and individuals, especially to those who act in smaller and "closed" local areas in Bosnia and Herzegovina. *Main activities are organising meetings with youth organisations representatives.	The area of focus is youth.
4	Centres for Civil Initiatives (Centri Civilnih Inicijativa)	Zmaja od Bosne 40 71000 Sarajevo *There are offices in Tuzla, Banja Luka, Mostar and Doboj as well.	+387-33-715-986	None	not available	*Ecology, "Clean Up Trash" campaign: To manage packaging waste (particularly PET) and reduce pollution in BiH where there is no recycling rule at the moment. *Anticorruption in health and education: To have an impact on increasing the responsibility of the public organizaions	The areas of focus are Ecology, Anticorruption and employment. *The website is only IN BOSNIAN .
5	Women to Women (Zena Zenama)	Sarajevo	-	-	not available	*It plays very important role in development of civil society in BiH in area of understanding of the concept of democracy and human rights.	The areas of focus are women. *The website is currently not available. Information refers to the following website. http://www.womenngo.org.rs/english/index.php?option=com_weblinks&catid=39&Itemid=23

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
6	The United Women (Udružene Zene)	Kalemeždanska 18, 78000 Banja Luka	+387-51-463-143	None	office@unitedwomenbl.org	*The aim or the organisation is to improve social position of woman and her right to life without violence in family and public life as well as to realise more women to be at the positions of decision-making in official institutions at all levels of governments.	The area of focus is women
7	Organization Q (Udružnje Q)	PP 304 71000 Sarajevo	+387-61-340-638	None	info@queer.ba	*This organization works on the promotion and protection of the culture, identity, human rights and support to the LGBTIQ persons; elimination of all forms of discrimination and inequality based on sex, gender, sexual orientation, sexual identity.	The area of focus is gender equality.
8	Helsinki Citizens' Assembly(HCA) Banja Luka	Krfska 84 78000 Banja Luka	+387-51-432-750 +387-51-432-753 +387-65-615-535	None	hcabl@blic.net	*The aim of the organization is to support and encourage autonomy and freedom of all citizens, especially women and youth. *To achieve the vision, it involves in three program areas; (1) strengthening civil society and the transformation of public authorities.	The area of focus is women and youth. *The website is only IN BOSNIAN .
9	Women's forum "Alternative" Kakanj	Ulica 309. Brdske brigade P+4, 72240 Kakanj	+387-32-556-288	Maksuma Topalović	alternative@bih.net.ba	The aim of the organization is to present and protect human rights, build tolerance and confidence in the community and build up the role of the youth and women in the society through creating good-quality workshops.	The area of focus is women and youth.
10	Center for Legal Assistance for Women Zenica (Centar za pravnu pomoc zenama)	Mejdandžik 9 Zenica ZE-DO 72000	+387-32-402-049	None	not available	The aim is to promote and advance women's human rights through raising awareness, strengthening women and advocacy process for the Gender Law implementation.	The area of focus is women.
11	CURE	Ante Fijamenga 14b (Kuca ljudskih prava) 71 000 Sarajevo	+387-33-713-610	None	not available	The aim is to change the attitudes of BiH society in relation to violence against women focusing on economic social and psychological assistance to women as victims. The long term vision is to open Multimedia Educational Resource Center for girls and women.	The area of focus is women.
12	AMICA Educa	Klosterska 13; Tuzla 75 000	+387-35-248-912	Suada Selimovic/ Selma Alicic	educa@bih.net.ba festival@inet.ba	As a center of Education and Counselling for trauma afflicted women and children, AMICA Educa offers SOS Helpline (telephone line) available to everyone, trains (female) doctors, social workers and teachers in modern methods of trauma processing by therapists.	The area of focus in women and children.

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
13	Association Education Builds B-H	Dobojska 4, 71000 Sarajevo	+387 33 710 580 +387 33 710 581	None	ogbh@open.net.ba	The main activities are to help children of victims of the 1992-95 war in Bosnia-Herzegovina, as well as disabled and talented children as well as to successfully complete their schooling and become productive members of society.	The area of focus is children.
14	The Association Bosnian Family (BOSFAM)	Ul Stjepana Matijeveca 11, 75000 Tuzla,	+387 35 257 533 +387 61 732 027	None	bosfam.tz@bih.net.ba office@bosfam.ba	The goal is to support women in BiH through training, so that they would be qualified and trained to make their own decisions for themselves and their family, to be informed, to study, to make money. The main activities are providing economic support to women.	The area of focus is women.
15	International Forum Bosnia	Sime Milutinovića 10 Sarajevo 71000	+387 33 217-665 +387 33 217-670 +387 33 217-680	None	if_bosna@bih.net.ba www.ifbosna.org.ba	It brings together individuals and institutions from BiH and abroad committed to the creation of a future for BiH as a harmonious and united society, based on dialogue, trust, and respect, and on best practice in the fields of human rights protection.	The area of focus is culture.
16	Mozaik – Community Development Foundation (Mozaik – Fondacija za razvoj zajednica)	Soukbunar 42, Sarajevo 71000	+387 33 266 480	Zoran Puljić	info@mozaik.ba http://www.mozaik.ba/	Mozaik is a community development foundation that provides grants and advisory support for local initiatives of common interest throughout Bosnia and Herzegovina. The Foundation focuses on local resource mobilization and sustainability of social and economic development through implementing a range of programs that support initiatives in rural communities.	The area of focus is community development.
17	Association to Protect Cultural Historical Heritage of Konjic Udruženje za zaštitu kulturno-historijskog nasljeđa Konjica)	Maršala Tita 65, 88 400 Konjic	+387 36 730 460	Dženan Kovačić	not available	The website is not available	The area of focus is culture.
18	Ecology – Ethnology movement "Dimitor" of Prevoja (Ekološko-etnološki pokret "Dimitor", Prevoja)	Donja Prevoja bb, 79287 Prevoja (kod Ribnika, RS)	+387 50 461 332	Kosana Todorović	kosanat@spinter.net	The website is not available	The area of focus is culture.

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
19	Association to Protect Cultural, Historical and Natural Values of Kreševo (Društvo za zaštitu kulturno-povijesnih i prirodnih vrijednosti, Kreševo)	Kreševo	-	Anto Buzuk	not available	The website is not available	The area of focus is culture.
20	Association for Promotion of Kupres and to Protect Natural, Historical and Cultural Heritage of Kupreška Visoravan Organization "Kupreška visoravan" (Organizacija "Kupreška visoravan")	-	+387 34 274 048	Blanka Magaš	hdk.kupres@tel.net.ba	The website is not available	The area of focus is culture.
21	UG "Merjem"	Muhići 43, Sanski Most	387 37 686 444	Soko Cerić	not available	The website is not available	The area of focus is culture.
22	CHwB – Kulturno nasljeđe bez granica / Cultural Heritage without Borders	Address: Alipašina 7, Sarajevo 71000	+387 33 55 23 76	Lejla Hadžić	lejla.hadzic@chw.org	CHwB is a Swedish NGO whose aim is to lend international support to cultural heritage at risk of being destroyed whether as a result of natural disasters, war or neglect because of poverty or political and social conditions.	The area of focus is culture.
23	Forum of Tuzla Citizens (FTC) (Forum Gradjana Tuzle)	Street Hadži Bakirbega Tuzlića br.1, Tuzla	+387 35 258 075	Vehid Šehić (president)	forum_tz@bih.net.ba	FTC is aiming to preserve BiH as a whole, independent and decentralised sovereign state, regulated upon parliamentary democratic principles, within its historical and geo-political borders, recognised by the international community.	The area of focus is human right.
24	ICVA	Radićeva 1/II 71000 Sarajevo	+ 387 33 210 201 D28	Vesna Vukmanić (Director)	icva@bih.net.ba	ICVA's aim is strengthening the non-governmental sector in BiH through providing support to NGOs in: - Information-sharing and production of information sources; - Developing policies on issues relevant to NGO sector in BiH; - Advocacy towards government.	The area of focus is NGOs networking

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
25	Research and Documentation Centre Sarajevo (Istraživačko dokumentacioni centar)	Kupreška 17, 71000 Sarajevo, BiH	033/725-350	<u>Bakir Junuzović</u>	centar@idc.org.ba www.idc.org.ba	It collects info about the 1992-95 war with the purpose to prevent dana manipulations.	The area of focus is war crimes
26	Nansen Dialogue Centre (Nansen Dijalog Centar)	Hadžidamjanova 1 71000 Sarajevo	033/273-461	Ljuljeta Goranci Brkić	www.ndcsarajevo.org	It contributes to high levels of ethnic reconciliation and tolerance in BiH and the Region, and to higher participation of citizens in democratic process and institutions.	The area of focus is ethnic reconciliation
27	Solidarity for the South (Solidarnost za jug)	Kninska 1 98101 Trebinje	059/274-000	Stanko Buha (executive director)	solidarnost@paleo.l.net	The website is not available.	web site is not functional
28	Youth Cultural Centre <i>Abrašević</i> (Omladinski kulturni centar <i>Abrašević</i>)	A. Starčevića bb 78000 Mostar	36 561 107	Meri Musa	info@okcabrasevic.org www.okcabrasevic.org	It promotes tolerance in cultural, economic and political life among citizens.	The area of focus is youth culture
29	Blue Sphere (Plava Sfera)	Srđe Zlopoglede 55/150 78000 Banja Luka	051/430 820	Ljubo Janjić (executive director)	info@plavasfera.org www.plavasfera.org	It strengthens civil society by education, democracy promotion, enforcing civil society, promoting partnership among social partners, consumers protection and supporting active citizens' status.	The area of focus is politics
30	Association of municipalities and cities of Federation of BiH (Savez općina i gradova Federacije BiH, Sarajevo)	Musala 5/1.	033/216-502, 552-810	Amir Kupusija	www.sogfbih.ba	The Association of Cities and Municipalities of the Federation of Bosnia and Herzegovina is an independent organization whose main goal is development of local self government. The Association aims to provide professional services to local governments.	The area of focus is local self government
31	Transparency International BiH, Banja Luka	Gajevo 2 78000 Banja Luka	051/224-521	Srdan Blagovčanin	info(a)ti-bih.org	The Association's activities include: securing the application of standards of conduct designed to promote transparency and accountability in international transactions; informing the general public about corruption; providing assistance and expertise.	The area of focus is anti-corruption

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
32	Udruženje nezaposlenih u Brčko distriktu, Brčko	Bulevar Mira 18 76100 Brčko distrikt BiH	049/217-493	Nada Grujić	not available	not available	The area of focus is unemployment
33	The Association "PRONI" Center for youth development (Udruženje "PRONI" Centar za omladinski razvoj)	Bosne srebrene 16 76100 Brčko distrikt BiH	+ 387 49 217 695 J37	Jasmin Jašarević (Manager General)	pronibr@teol.net	a local youth organization founded in 1998, working to develop a democratic society through: protection and promotion of human rights, community youth work, social education, peace-building, cross-sectoral cooperation and support of youth initiatives.	The area of focus is youth development
34	Legal Aid Network (Udruženje Vaša prava BiH) Sarajevo	Ramiza Salčina 45 71000 Sarajevo	033 789 105	Una Bejtović Mehmedović	not available	Association Your Rights BiH was established in 1996 as a network of information centres and legal aid under the auspices of the United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR), whose mandate is to provide return of refugees and displaced persons with assistance.	The area of focus is legal aid for refugees and displaced persons.
35	Association for Entrepreneurship and job LINK (Udruženje za poduzetništvo i posao LiNK)	Bulevar narodne revolucije 55a 88000 Mostar	036/580-151	Tomislav Majić	info@linkmostar.org	LINK, an association of entrepreneurs and service centre, tending to be a driver of local economic development, by gathering and representing the interests of enterprises and entrepreneurs, as well as supplying qualified expertise.	The area of focus is local development
36	Caritas of Bishop Conference of BiH (Caritas Biskupske konferencije BiH, Sarajevo)	M. B. K. Ljubušaka 6 71000 Sarajevo	033/206-442	Bosiljko Rajić (Director) b.rajic@carbkbih.com.ba	carbkbih@bih.net.ba www.carbkbih.com.ba	Caritas is the Catholic Church's pastoral institution founded to promote charitable activities. Caritas is a legal person in the church and civilian areas in accordance with the Code of Canon Law and the laws of BiH.	The area of focus is humanitarian aid

References:

	Name	Link	Memo
A	The Gender Equality Agency of Bosnia and Herzegovina	http://www.arsbih.gov.ba/en/	Established by the Council of Ministers.
B	Gender Centre of the Federation of Bosnia and Herzegovina	http://www.fgenderc.com.ba/en/linkovi.html	Established by The Government of the Federation of Bosnia and Herzegovina.
C	Autonomous Women Center	http://www.womenngo.org.rs/english/index.php?option=com_weblinks&catid=39&Itemid=23	Search by "Similar Organizations in Bosnia and Herzegovina "

	Name	Link	Memo
D	Worldwide NGO Directory (WANGO connecting and serving NGOs beyond borders)	http://www.wango.org/resources.aspx?section=ngodir#tab2	Total Search Results: 17
E	South East European Heritage Non-governmental organizations active in the field of cultural heritage in BiH	http://www.seeheritage.org/bosnia-and-herzegovina/ngo-s.html	Cultural related NGOs only. Total Search Results: 7
F	*Helsinki Committee for Human Rights in Bosnia and Herzegovina 'NGOs in Bosnia and Herzegovina'	http://www.bh-hchr.org/links.htm	The Website of the NGO listed as No.1 in this sheet.
G	*NGO Directory of South Eastern Europe (2006) A Directory of West Balkan Environmental Civil Society Organisations	http://archive.rec.org/REC/Databases/NGO_Directory_SEE/Find.html	Environmental NGOs only. Total Search results:88
H	Portal of NGO of BiH	http://www.ngo.ba/index.php?option=com_comprofiler&task=usersList&Itemid=51	381 NGOs are listed.
I	ICVA	http://www.icva-bh.org/eng/default.wbsp	It is a network of NGOs; it has prepared of Directory of BiH NGOs for 2005 (please find it attached)
J	Register of Citizens' Association of Brčko District BiH) (Registrovana Udruženja građana Brčko distrikta BiH)	http://www.bdcentral.net/Members/administracija/mzngo/registrovana-udruzenja-gral11ana-brcko-distrikta-bih?set_language=bs	319 NGOs are listed

(5) 主要な現地調査研究機関とその活動

No.	Name of Research Institutions	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Activity summary	Remarks
1	Economic Institute (Ekonomski institut) Sarajevo	Branilaca Sarajeva 47 Sarajevo Bosna i Hercegovina 71000	not available	Anto Domazet	ekonomski.institut@efsa.unsa.ba	The business orientation of the EI is to continually develop the capacity to provide research and consulting services for the commercial and public sector.	It is the public owned but fully commercially oriented without budget subventions. It is a project oriented, flexible organisation attached to the Faculty of Economics in Sarajevo.
2	Economic Institute (Ekonomski institut) Banja Luka	Ulica Kralja Alfonsa XIII 18 78000 Banja Luka	387 51 304 113	Dusko Jakšić	http://www.ekinst.org	Macroeconomic Development, Regional Development and Local Communities, Technological development and investments, Marketing, Organization and management of enterprises, Valuation of enterprises, Development of management information systems, Improving management.	EI has carried out more than a thousand of scientific research projects, expert analysis, investment programs, feasibility studies and many other economic projects and consultancy services.
3	The Independent Bureau for Humanitarian Issues (IBHI) (Nezavisni biro za humanitarna pitanja, IBHI)	Branilaca Sarajeva 47 Sarajevo Bosna i Hercegovina 71000	+ 387 33 473 214	Žarko Papić	ibhi@bih.net.ba	IBHI-BiH has focused its activities towards fulfilling the following aims: Strengthening and capacity building of institutions within the governmental and non-governmental sector; Supporting municipalities in capacity building for planning and policy development.	
4	PRISM RESEARCH (Prizma istraživanja) Sarajevo	Maršala Tita 6/III 71000 Sarajevo	387 33 251 230	Dino Đipa	info@prismresearch.ba	Prism Research is one of the first, and now the largest and leading full service marketing, media and social research company in BiH. It offers both quantitative and qualitative research services in ad-hoc, continuous and syndicated research projects.	
5	Djikić Consultants	Isevica sokak 11 71000 Sarajevo	387 (33) 268 660	Emir Djikić General Manager	info@dcs.ba	It provides professional expertise in the consulting field. In addition, it provides training, counseling and coordination in preparation and implementation of projects.	

(6) 参考文献

File No.	Name of Document	Publisher	Year
1	Bosnia and Herzegovina; Addressing Fiscal Challenges and Enhancing Growth Prospects A Public Expenditure and Institutional Review	The World Bank	2006/09
2	CBBH Annual Report 2008	Central Bank of Bosnia and Herzegovina (CBBH)	2008
3	UNDP Early Warning System Jobs and...More Jobs	UNDP	2006
4	UNDP Early Warning System Annual Report 2008	UNDP	2008
5	Employment Policy Review Bosnia and Herzegovina	ILO/Council of Europe	2009
6	Progress Report 2009 Enlargement Strategy and Main Challenges 2009-2010	Commission of the European Communities	2009
7	Public Expenditure Management System Assessment May 2009	OECD/ EU	2009/05
8	Bosnia and Herzegovina: Staff Report for the First Review Under the Stand-By Arrangement	IMF	2010/04
9	Common Country Assessment 2008	United Nations Country Team in Bosnia and Herzegovina	2008/10
10	United Nations Development Assistance Framework 2010-2014	United Nations Country Team in Bosnia and Herzegovina	2008/10
11	Bosnia and Herzegovina Pension System Note	The World Bank	2007
12	Social Transfers in Bosnia and Herzegovina: Moving Towards a more sustainable and better targeted safety net Policy Note	The World Bank	2009/04
13	Pension Reform and Social Protection Systems in Bosnia and Herzegovina	UNDP	2007
14	Health Care Systems in Transition	The European Observatory on Health Care Systems/ WHO Regional Office for Europe/ Government of Greece, Norway, Spain/ European Investment Bank/ World Bank/ LSE/ LSHTM	2002
15	Social protection and social inclusion in Bosnia and Herzegovina	European Commission	2008/07
16	Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation Improved Drinking Water Source and Improved Sanitation Facilities	WHO/UNICEF	2010/03
18	Nutrition Profile B&H	UNICEF	2010/03
19	Country profile Maternal, Newborn & Child Survival	UNICEF	2010/04
20	An Impact Analysis of Microfinance in Bosnia and Herzegovina	Valentina Hartarska, Auburn University	2007/12
21	Microcredit in post conflict societies: The Bosnia-Herzegovinian example	Dr.Dijana Tiplic, Stanford University & Prof.Anne Welle-Strand, Norwegian School of Management BI	2008
22	The Local Initiatives Project II LIP II Annual report microfinance project	FBiH, Foundation for Sustainable Development (Financed by the World Bank)	2005

File No.	Name of Document	Publisher	Year
23	Imp-Act Role of Microfinance in the Household reconstruction Process in Bosnia and Herzegovina	Micro Finance Center for Central and Eastern Europe and the New Independent States	2004/01
24	Protecting the poor during the global crisis: 2009 Bosnia and Herzegovina Poverty Update	The World Bank	2009/12
25	Bosnia and Herzegovina Poverty Assessment (Volume 1, 1of 2) Main Report	The World Bank	2003/11
26	Bosnia and Herzegovina Poverty Assessment (Volume 1, 2of 2) Data on Poverty	The World Bank	2003/11
27	Maximising the Development Impact of Migration-related Financial Flows and Investment from Austria to Bosnia and Herzegovina	OeEB/ International Agency for Source Country Information(IASCI)/ IOM Vienna Mission	2009/09
28	Poverty, Deprivation and Social Exclusion in Bosnia and Herzegovina	LSE/DFID	2008/05
29	Labour Market and Employment Analysis in the Federation of Bosnia and Herzegovina	Federal Employment Service, Federation of Bosnia and Herzegovina	2007/09
30	Human Development Report Bosnia and Herzegovina 2000 Youth	UNDP	2000
31	Human Development Report Bosnia and Herzegovina 2002	UNDP	2002
32	Human Development Report 2003 Millennium Development Goals	UNDP	2003/06
33	Human Development Report 2005 Better Local Governance in Bosnia and Herzegovina	UNDP	2005
34	Human Development Report 2007 Social Inclusion in Bosnia and Herzegovina	UNDP	2007
35	Human Development Report 2009 The ties that bind Social Capital in Bosnia and Herzegovina	UNDP	2009
36	MDG update report for Bosnia and Herzegovina PRSP, Europe and beyond	UNDP	2004
37	Update on Conditions for Return to Bosnia and Herzegovina	UNHCR	2005/01
38	Assessment of the Ministry for Human Rights and Refugees of Bosnia and Herzegovina	UNDP	2004
39	Human Development Report 2009	UNDP	2010